

平成20年度

相模原市自然環境観察員制度

年次報告書



相模原市

はじめに

相模原市では、市民と行政が一体となって本市の自然環境を調査することにより、身近な自然に目を向け自然環境に対する関心を高め、環境保全意識の高揚を図るとともに大切な自然を監視・保全していくための基礎資料を継続的に集積していくため、平成13年度に市民ボランティアによる「自然環境観察員制度」を設置しました。

20年度は、88名の皆様のご参加をいただき、全体テーマ調査や専門部会調査を実施いたしました。

この報告書は、自然環境観察員の皆様一人ひとりが「今の相模原の自然」を注意深く、生きものたちの命の息遣いを感じながら、地道に調査した記録や活動内容をまとめたものです。

活動結果や皆様から寄せられたご意見を活かし、相模原市の自然環境がより良いものになるよう、また、本制度が市民の皆様方に根付き、活動の輪が広がるよう、本書をご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本制度の運営にあたりご協力をいただきました、自然環境観察員の皆様に心からお礼申し上げます。

平成21年 3月

相模原市立環境情報センター

目次

第1章 自然環境観察員制度について	1
1 自然環境観察員の募集	1
2 自然環境観察員制度の概要	1
3 実施内容	2
第2章 身近な生きもの調査	3
1 全体テーマ調査	3
1.1 調査区域とテーマの選定	3
1.2 野鳥の調査	10
1.3 帰化植物の分布調査	30
2 自主テーマ調査	46
3 専門部会調査	48
3.1 植物調査部会	48
3.2 湧水調査部会	50
3.3 河川生物相調査部会	52
3.4 野鳥調査部会	53
第3章 かんきょう学習セミナー	58
1 第1回かんきょう学習セミナー	58
2 第2回かんきょう学習セミナー	58
3 第3回かんきょう学習セミナー	58
第4章 その他の活動	59

資料編

1 調査の手引き

- 野鳥の調査
- 帰化植物の調査

2 自然観察かわらばん

- 自然観察かわらばん（植物調査部会版7号）
- 自然観察かわらばん（湧水調査部会版8号）

3 ご意見・ご感想

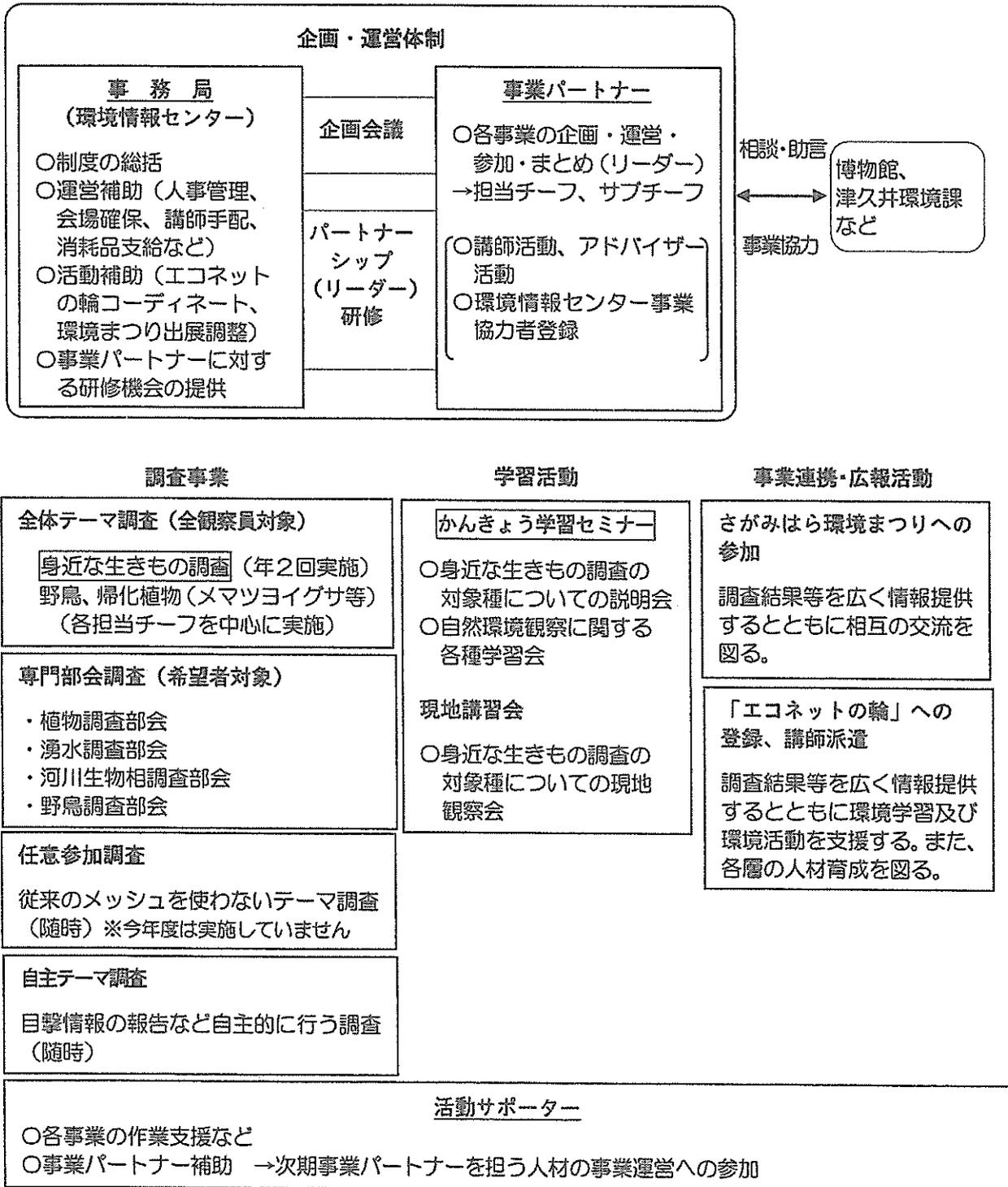
第1章 自然環境観察員制度について

1 自然環境観察員の募集

観察員の募集は「広報さがみはら」（平成20年3月1日号）などで行いました。
 様々な世代の方からご応募をいただき、88名を「相模原市自然環境観察員」として登録しました。

2 自然環境観察員制度の概要

本制度の運営及び活動については、以下のとおりです。



3 実施内容

(1) 身近な生きもの調査

調査項目		実施時期
1	全体テーマ調査	
	野鳥の調査	平成20年4月19日～6月20日
	帰化植物（メマツヨイグサ等）の調査	平成20年9月23日～10月31日
2	自主テーマ調査	平成20年4月21日～1月31日
3	専門部会調査	
	植物調査部会	平成20年5月23日 他
	湧水調査部会	平成20年9月28日 他
	河川生物相調査部会	平成20年9月13日
	野鳥調査部会	平成20年5月17日 他

(2) かんきょう学習セミナー

	実施内容	実施日	参加者数
1	自然環境観察員制度について 事務局職員 野鳥の調査について 事務局職員	平成20年 4月20日	45人
2	帰化植物について 市立博物館 秋山 幸也さん 帰化植物の調査について 事務局職員	平成20年 9月21日	42人
3	ギフチョウについて 藤野里人事務局 石井 孝さん 平成20年度の活動結果について 事務局職員	平成21年 3月20日	44人

第2章 身近な生きもの調査

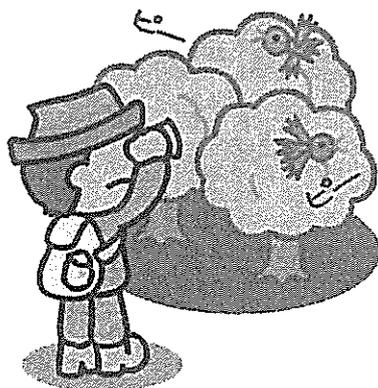
1 全体テーマ調査

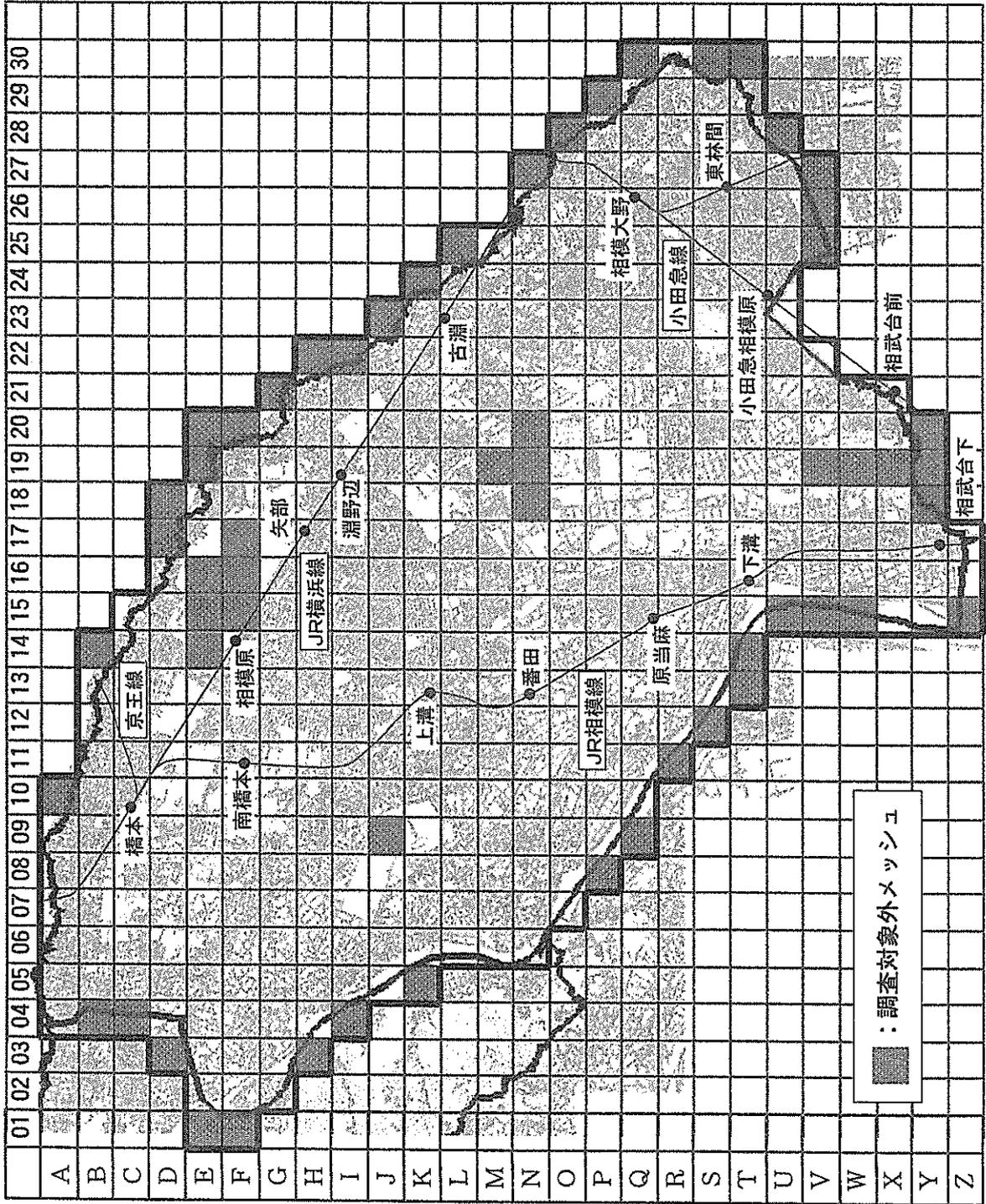
1. 1 調査区域とテーマの選定

相模原市は、平成18・19年に津久井町、相模湖町、城山町、藤野町と合併し、県民の水がめである相模湖、津久井湖などの湖や緑豊かな自然環境を有するようになりましたが、自然環境観察員制度は10年度から12年度までに行われた旧相模原市域の自然環境基礎調査の結果が反映された相模原市環境基本計画（13年3月策定）に基づき運営していることから、身近な生きもの調査も旧相模原市域を中心に実施しています。

全体テーマ調査では、従来のとおり、旧相模原市内を500×500mのメッシュに区分し、担当のメッシュを決め、このメッシュを単位として生きものの調査を行い、調査結果をとりまとめました。（図1-1・表1-1参照）

20年度の調査テーマについては、制度が発足した13年度から調査してきた指標動植物種を18年度から追跡調査していることなどから、15年度に調査を行った「野鳥の調査」と「帰化植物の調査」といたしました。





■ : 調査対象外メッシュ

図1-1
メッシュ見取り図

表1-1 メッシュ目印一覧

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
A04	華蔵院、森下バス停	D14	すすきの町、こぼと児童館
A05	相原当麻田自治会館、相原保育園	D15	宮下本町1丁目、補給廠北側
A06	当麻田小学校西側、新町幼稚園	D16	補給廠北側
A07	当麻田小学校東側、JR 横浜線	E02	カインズホーム南側
A08	元橋本町交差点、相模原インドアテニス	E03	大島、井上養鶏場、スリーエフ
A09	瑞光寺、橋本本町バス停	E04	県営大島団地、市営上九沢住宅
B05	相原小学校	E05	下九沢内出交差点
B06	星の子保育園、新日鐵エンジニアリング	E06	職業能力開発総合大学校
B07	相原中学校、大和製罐	E07	相模原北公園、北清掃工場
B08	橋本高校、橋本郵便局	E08	橋本台収集事務所
B09	旭小学校	E09	橋本自動車学校
B10	北消防署、橋本4丁目市街地住宅	E10	国道16号、129号、セントラル自動車
B11	宮上小学校東側、蓮乗院	E11	小山小学校、大河原陸橋
B12	東橋本ひまわり保育園	E12	小山2丁目 たけのこ保育園
B13	境川坂本橋、天縛皇神社	E13	向陽小学校西側、矢掛立体交差
C05	二本松こどもセンター	E17	補給廠北側、上矢部1丁目付近
C06	日本板硝子	E18	上矢部2丁目、御嶽神社
C07	ロイヤルホームセンター、大和製罐	F02	諏訪森下橋
C08	北警察署、オラリオンマンション	F03	相模川自然の村、ピレッジ若あゆ
C09	相原高校、協同病院	F04	大島幼稚園、長徳寺
C10	JR橋本駅	F05	大島小学校、相模原総合高校
C11	相模原みどり幼稚園	F06	相模原総合高校東側
C12	東橋本2丁目交差点、田村電機製作所	F07	六地藏交差点
C13	小山白ゆり幼稚園	F08	上中の原団地、フードワン
C14	宮下本町2丁目、境川昭和橋	F09	橋本ゴルフセンター
C15	宮下本町1丁目、境川小山橋	F10	柴胡ヶ原墓地、東プレグランド
D04	二本松保育園	F11	JR南橋本駅
D05	内出中学校北側、湘北病院	F12	ホームセンターコーナン東側
D06	職業能力開発総合大学校	F13	氷川神社東側
D07	峡の原工業団地	F14	JR相模原駅
D08	ホームセンターくろがねや	F18	補給廠東北側、富士工業
D09	国道16号、東京電力橋本変電所	F19	相模つばさ幼稚園
D10	旭中学校	G02	相模川、諏訪森下頭首工
D11	小山公園スポーツ広場	G03	神奈川県内水面試験場
D12	宮下1丁目、協栄産業前バス停	G04	老人福祉センター湊松園
D13	三菱電機	G05	ロシナンテ、井上醤油

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
G06	大沢小学校	I08	三菱重工業北門
G07	九沢小学校、大沢中学校	I09	田名葛輪、NTT田名電話交換センター
G08	大沢団地、いなげや	I10	てるて幼稚園
G09	塚場交差点	I11	横山小学校
G10	国道129号、日電寮バス停	I12	横山公民館
G11	日本電気橋本技術センター、JR相模線	I13	相模原高校
G12	清新6丁目付近、清新小学校西側	I14	JA農協会館
G13	清新小学校	I15	税務署、相模原中央病院
G14	ダイエー、さがみ夢大通りバス停	I16	富士見小学校
G15	相模原4~6丁目付近	I17	国道16号鹿沼台交差点
G16	伊藤病院、補給廠	I18	鹿沼公園、市立図書館
G17	上矢部団地、麻布大学西側	I19	共和中学校、JR淵野辺駅
G18	麻布大学、麻布大淵野辺高校	I20	淵野辺5丁目、青山学院大学
G19	大野北中学校	I21	淵野辺本町4丁目 皇武神社
G20	日枝神社、境川宮前橋	J05	相模川、神沢不動尊
H04	大島、相模川	J06	清岩寺、古清水自治会館
H05	大島交差点、法性寺	J07	三菱重工業南側
H06	日々神社、相和病院	J08	三菱重工業南門
H07	JA営農センター	J10	国道129号、鳩川、四ッ谷児童館
H08	明神平自治会こども広場、田名葛輪	J11	上溝1丁目、横山丘陵緑地(姥沢地区)
H09	九沢橋、金泉寺	J12	横山公園、よこやま幼稚園、日金沢橋
H10	下九沢団地	J13	さがみはらグリーンプール
H11	昭和電線ケーブルシステム	J14	星が丘1丁目、横山歩道橋
H12	小町通2丁目、清新学校給食センター	J15	千代田5丁目付近
H13	清新中学校	J16	千代田4丁目、千代田保育園
H14	相模原消防署	J17	市営東団地、弥栄郵便局
H15	相模原市役所	J18	国道16号淵野辺十字路
H16	村富神社	J19	国道16号共和4丁目歩道橋、コジマ
H17	JR矢部駅	J20	共和2丁目付近、新田稲荷神社
H18	淵野辺総合病院、矢淵陸橋	J21	カルピス、相模中央自動車学校
H19	淵野辺小学校	J22	東淵野辺2丁目付近、龍像寺
H20	東京電力大野変電所、グルメシティ	K06	清水保育園、清水入口バス停
H21	根岸橋	K07	田名清水、田名ひだまり公園
I05	神沢スポーツ広場、神沢不動尊	K08	田名四ッ谷自治会子ども広場
I06	水場バス停	K09	新キャタピラー三菱西側
I07	三菱重工業西側	K10	国道129号、新キャタピラー三菱

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
K11	鳩川幼稚園、市営鳩川住宅	M10	相模田名高校
K12	上溝本町交差点、姥川橋	M11	新宿小学校
K13	JR上溝駅、上溝中学校	M12	上溝南中学校
K14	星が丘小学校	M13	南上溝保育園、亀ヶ池八幡宮
K15	OKストア	M14	道保川公園西、丸崎ゴルフ練習場
K16	並木小学校	M15	道保川公園、七曲り、陽光台公民館
K17	弥栄小学校、弥栄中学校	M16	緑が丘中学校北側
K18	市立博物館、宇宙科学研究所	M17	青山学院大学グラウンド
K19	共和小学校南側、由野台中学校	M18	青葉3丁目 青葉の郷
K20	国道16号共和交差点、大野台郵便局	M20	相模原ゴルフクラブ入口・大野台中央小
K21	国道16号嶽の内入口付近	M21	相模原養護老人ホーム
K22	たけのうち幼稚園、淵野辺東小学校	M22	大野台小学校
K23	古淵1丁目、淵野辺東小学校東側	M23	南消防署大沼分署
L06	相模川（右岸に葉山島青少年広場）	M24	市営斎場
L07	堀の内交差点、田名北ふれあい広場	M25	古淵鶴野森公園、グリーンハイツ
L08	田名北小学校	N06	田名八幡宮、相模川小沢頭首工
L09	八千代銀行田名支店	N07	水郷田名団地、高田橋
L10	田名工業団地入口バス停	N08	田名半在家・田名陽原、南光寺
L11	上溝高校南側、石橋自治会館	N09	田名テラス、田名団地
L12	上溝小学校、ちとせ橋交差点	N10	田名パーティゴルフ
L13	全農ミート	N11	田名新宿
L14	陽光台小学校	N12	国道129号上溝南中学校信号
L15	陽光園、光が丘小学校	N13	JR番田駅
L16	青葉小学校、県営上溝団地	N14	安楽寺、上溝南こどもセンター
L17	弥栄高校、相模原球場	N15	上溝虹吹、清泉の郷
L18	銀河アリーナ、淵野辺公園	N16	緑が丘中学校、消防署緑が丘分署
L19	由野台中学校南側、松が丘2丁目交差点	N17	相模原浄水場
L20	大野台中央小学校北側、凸版印刷	N21	大野台8丁目、木もれびの森
L21	大野台公民館	N22	大野台中学校
L22	シマチュウホームセンター、ジャスコ	N23	慰霊塔、相模ひまわり幼稚園
L23	JR古淵駅、イトーヨーカドー	N24	相模原南警察署
L24	JR横浜線古淵陸橋	N25	鶴野森中学校
M06	田名幼稚園	N26	鶴野森団地、幸延寺
M07	相模川ふれあい科学館	O07	相模川高田橋
M08	田名小学校、田名中学校	O08	望地弁天キャンプ場
M09	相模田名高校西側、たんぼぼの家	O09	バス折返場（望地キャンプ場入口）

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
O10	田名聖地霊園	P27	谷口幼稚園、谷口中学校北側
O11	田名塩田4丁目 東急建設工場	P28	谷口小学校
O12	テクノパル田名工業団地	Q10	相模川(望地キャンプ場下流)
O13	上溝南高校	Q11	スーパーアルプス、田名病院
O14	上溝南小学校南側、諏訪神社	Q12	JA緑化センター
O15	姥川中ノ虹橋、山谷バス停	Q13	夢の丘小学校、当麻市場交差点
O16	下溝古山公園スポーツ広場	Q14	光明学園相模原高校、相模原養護学校
O17	神奈川中央交通麻溝操車場	Q15	JR原当麻駅北側、スーパー三和
O18	北里大学	Q16	姥川下原橋(横浜水道道)
O19	麻溝台高校	Q17	県立相模原公園
O20	北里2丁目、相模原ゴルフクラブ	Q18	県立相模原公園
O21	木もれびの森、大野台8丁目バス停	Q19	麻溝台工業団地、KYB
O22	西大沼3丁目、4丁目付近、大沼変電所	Q20	麻溝台2丁目、ニコソ
O23	大沼小学校、大沼神社、大沼公民館	Q21	麻溝台中学校
O24	老人福祉センター若竹園	Q22	双葉小学校
O25	若松小学校	Q23	御園東ふれあい広場
O26	鶴野森3丁目付近 鹿島台小学校	Q24	谷口台小学校
O27	鹿島台小学校	Q25	市南合同庁舎、ロビーシティ
P09	田名望地、望地の渡し	Q26	小田急相模大野駅、伊勢丹
P10	リバーサイド田名ホーム	Q27	相模大野病院、谷口中学校
P11	カインズホーム、塩田さくら橋	Q28	鶴園小学校北側、稲荷神社
P12	テクノパイル田名工業団地、塩田ホーム	Q29	上鶴間本町8丁目付近 上鶴間橋
P13	塩田原交差点、東京電力北相模変電所	R12	相模川、相模原ポンプ場
P14	東京電力北相模変電所、スーパーなかや	R13	如来堂、無量光寺
P15	当麻 あざみがや交差点	R14	当麻東原公園、水田
P16	当麻 上中丸交差点	R15	麻溝小学校
P17	相模原沈殿池	R16	天応院
P18	北里大学病院	R17	麻溝公園スポーツ広場
P19	麻溝台高校	R18	麻溝公園
P20	北里大学東病院	R19	総合体育館南側
P21	相模台収集事務所、木もれびの森	R20	麻溝台保育園
P22	グレープの里、大沼交差点	R21	顕正寺、ひかり幼稚園
P23	大沼小学校南側、若松郵便局	R22	御園4、5丁目、ふれあいの森
P24	神奈川総合産業高校、相模女子大学	R23	みゆき台団地バス折返所
P25	大野南中学校、相模大野高校	R24	豊町、黒河内病院
P26	相模大野中央公園、国道16号谷口陸橋	R25	県高相合同庁舎、プラザシティ

メッシュ 番号	目 印	メッシュ 番号	目 印
R26	新町中学校北側	T29	くぬぎ台保育園、深堀ポンプ場
R27	消防上鶴間分署、南大野幼稚園	U16	三段の滝下広場
R28	上鶴間公民館、大野小学校	U17	相陽中学校、誠心相陽幼稚園
R29	鶴園小学校南側、長島神社	U18	勝坂歴史公園スポーツ広場
R30	中和田幼稚園、上鶴間高校	U19	新磯野、相武台中学校北側
S13	昭和橋上流河川敷	U20	もえぎ台小学校、相武台高校
S14	昭和橋スポーツ広場	U21	相武台団地
S15	水田、八景の棚	U22	相模台3・4丁目
S16	姥川谷戸橋、上谷関戸橋	U23	相模台2丁目、(座間市相模が丘)
S17	相陽台ホーム、相模が丘病院	U24	小田急相模原駅、相南4丁目
S18	廃棄物処分場	U25	東海大相模高校
S19	小松会病院	U26	消防東林分署
S20	若草小学校、消防麻溝台分署	U27	東林間8丁目付近
S21	桜台小学校、相模台中学校、国立病院	V16	磯部頭首工公園、郷土民族資料館
S22	相模台小学校	V17	消防新磯分署、磯部八幡宮、勝坂遺跡
S23	南台4丁目、上鶴間(米軍住宅)	V18	磯部2114付近 勝源寺
S24	南台郵便局、コナミススポーツクラブ	V20	相武台グリーンパーク
S25	鶴の台小学校	V21	相武台小学校
S26	森下記念病院	V22	行幸道路、村富線交差付近
S27	くぬぎ台小学校	W16	能徳寺、御嶽神社
S28	相模林間幼稚園	W17	新磯小学校、新磯保育園
S29	住宅展示場、上鶴間高校南側	W18	新戸、米軍キャンプ
T15	相模川 光明学園野球場	W20	緑台小学校、新磯野郵便局
T16	JR下溝駅	W21	相武台出張所
T17	相陽中学校、大下坂	X15	相模川
T18	峰山霊園、勝坂青少年広場	X16	新戸、水田
T19	新磯野、峰山霊園入口交差点	X17	新磯出張所、れんげの里あらいそ
T20	若草中学校	X18	新磯高校
T21	相模台団地	X20	キャンプ座間No4 ゲート
T22	相模台出張所	X21	小田急相武台前駅
T23	鶴ヶ丘団地	Y15	新戸スポーツ広場北側
T24	松が枝公園、小田急線	Y16	新戸、泰成建工
T25	東林保育園	Y17	JR相模線相武台下駅、長松寺、
T26	東林出張所、東林小学校	Z16	JR相武台下駅西側地域、水田
T27	東芝林間病院	Z17	JR相武台下駅南側
T28	上鶴間中学校		

1. 2 野鳥の調査

(1) 調査期間

平成20年4月19日～6月20日（設定期間4月25日～5月31日）

(2) 調査方法

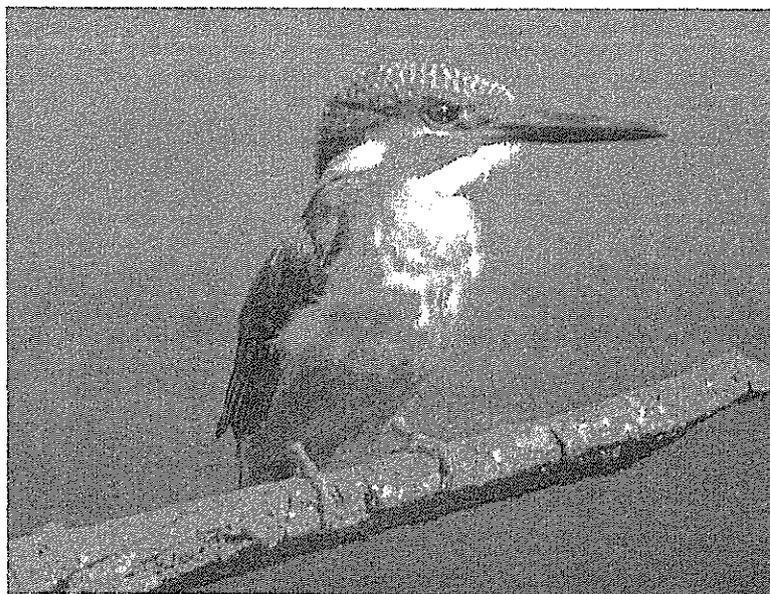
担当メッシュの中央部付近を通る500m以上を時速1～2km程度の速さで歩き、調査対象の鳥（キジバト、ヒヨドリ、コゲラ、シジュウカラ、カワセミ、ヒバリの6種）が見られた時や声で確認できた時に調査票に記入しました。

(3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成15年度、20年度調査で調査したメッシュは表1-2-1のとおりです。

表1-2-1 調査メッシュ数

	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H15	309	51	57	417
H20	303	56	58	417



(4) 調査結果

①野鳥の確認状況

表1-2-2 野鳥の確認メッシュ状況

		確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
		メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
キジバト	H15	220	71.2%	89	28.8%	309	100%
	H20	147	48.5%	156	51.5%	303	100%
	増減	-73	-22.7	67	22.7	-6	-
ヒヨドリ	H15	258	83.5%	51	16.5%	309	100%
	H20	224	73.9%	79	26.1%	303	100%
	増減	-34	-9.6	28	9.6	-6	-
コゲラ	H15	72	23.3%	237	76.7%	309	100%
	H20	61	20.1%	242	79.9%	303	100%
	増減	-11	-3.2	5	3.2	-6	-
シジュウカラ	H15	169	54.7%	140	45.3%	309	100%
	H20	174	57.4%	129	42.6%	303	100%
	増減	5	2.7	-11	-2.7	-6	-
カワセミ	H15	15	4.9%	294	95.1%	309	100%
	H20	17	5.6%	286	94.4%	303	100%
	増減	2	0.7	-8	-0.7	-6	-
ヒバリ	H15	63	20.4%	246	79.6%	309	100%
	H20	60	19.8%	243	80.2%	303	100%
	増減	-3	-0.6	-3	0.6	-6	-

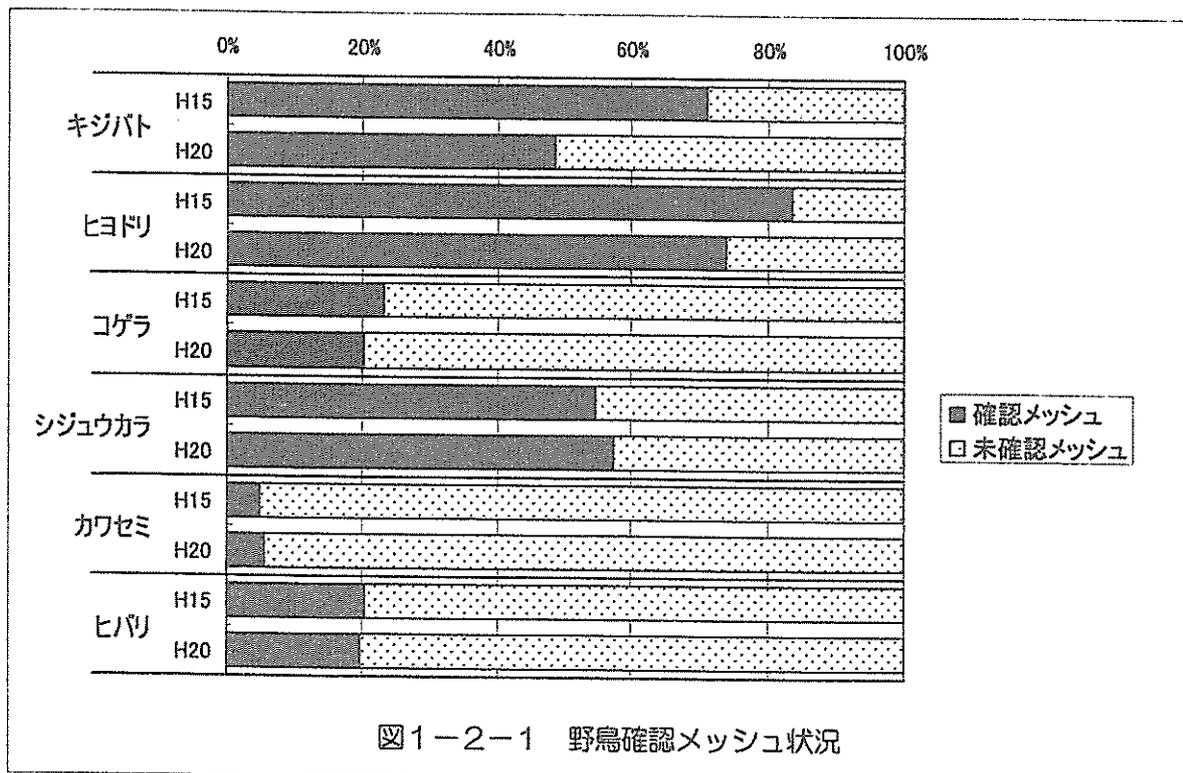


図1-2-1 野鳥確認メッシュ状況

②確認メッシュの状況（１）

平成15年度と20年度の両年度で調査が実施された261メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-2-3のとおりです。

※総メッシュ417のうち次のものを除きました。H15未調査メッシュ51・調査対象外メッシュ57、H20未調査メッシュ56・調査対象外メッシュ58。

表1-2-3 確認メッシュの状況（1）

	H15のみ 確認	H20のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	計
キジバト	91	33	93	44	261
	34.9%	12.6%	35.6%	16.9%	100%
ヒヨドリ	49	30	166	16	261
	18.8%	11.5%	63.6%	6.1%	100%
コゲラ	41	36	20	164	261
	15.7%	13.8%	7.7%	62.8%	100%
シジュウカラ	45	51	98	67	261
	17.2%	19.5%	37.5%	25.7%	100%
カワセミ	11	12	3	235	261
	4.2%	4.6%	1.1%	90.0%	100%
ヒバリ	34	28	26	173	261
	13.0%	10.7%	10.0%	66.3%	100%

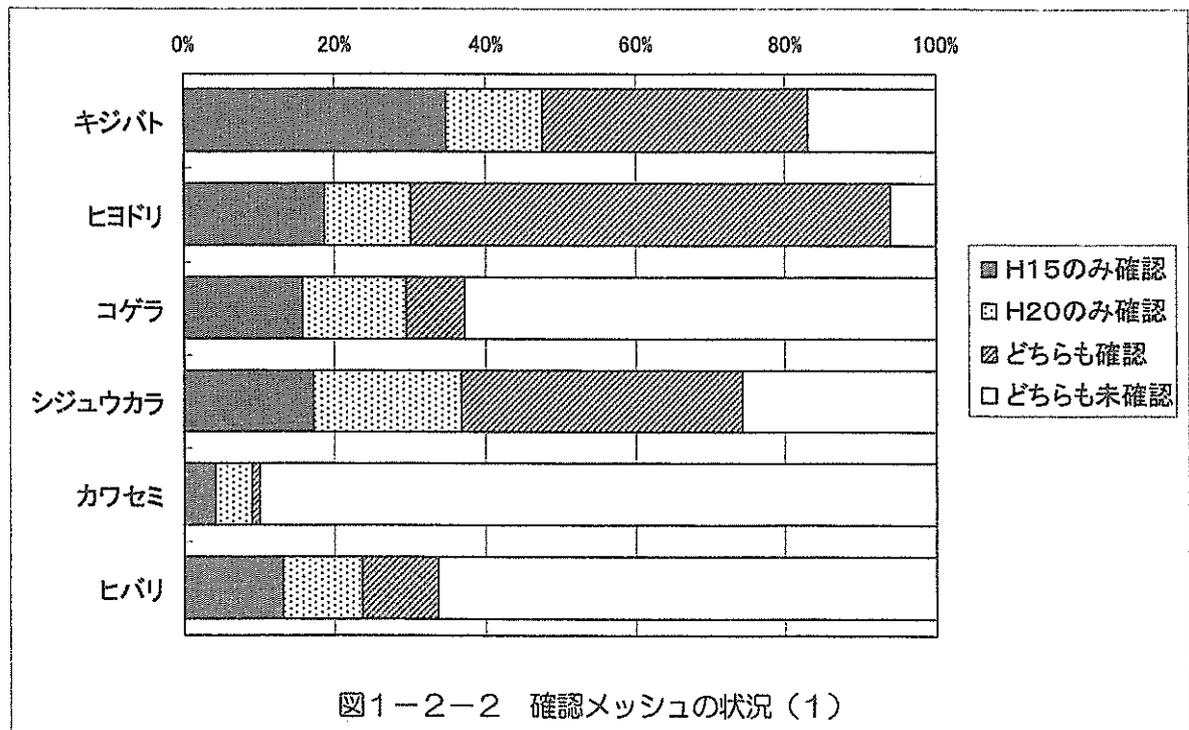


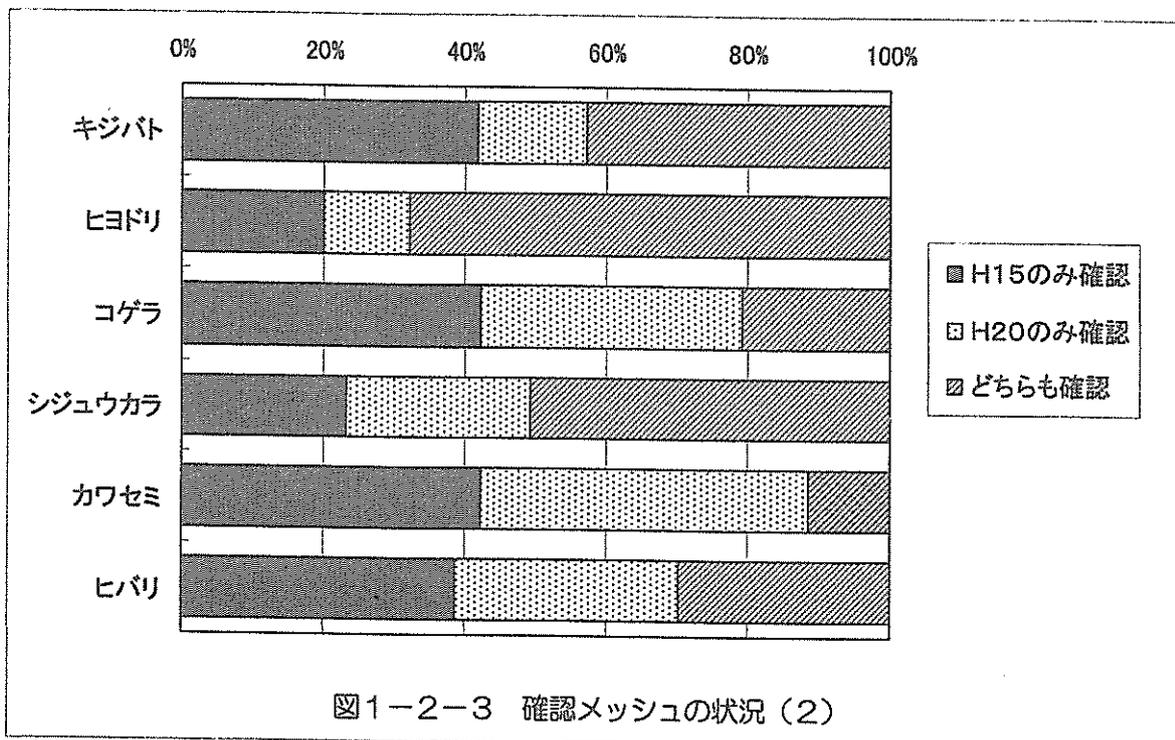
図1-2-2 確認メッシュの状況（1）

③確認メッシュの状況(2)

②確認メッシュの状況(1)のうち、調査対象種を確認できたメッシュのみで比較した状況は表1-2-4のとおりです。

表1-2-4 確認メッシュの状況(2)

	H15のみ確認	H20のみ確認	どちらも確認	計
キジバト	91	33	93	217
	41.9%	15.2%	42.9%	100%
ヒヨドリ	49	30	166	245
	20.0%	12.2%	67.8%	100%
コゲラ	41	36	20	97
	42.3%	37.1%	20.6%	100%
シジュウカラ	45	51	98	194
	23.2%	26.3%	50.5%	100%
カワセミ	11	12	3	26
	42.3%	46.2%	11.5%	100%
ヒバリ	34	28	26	88
	38.6%	31.8%	29.5%	100%



④野鳥の確認状況（場所）

表1-2-5 野鳥の確認状況（場所）

項目	上空	高木の枝(幹)	林内	草や藪の中	田	畑	河原	水辺	電線	建物(屋根)	橋桁	駐車場・道路	その他	未記入・不明	合計
キジバト	35	25	23	10	1	16	0	0	72	16	0	14	20	5	237
	14.8%	10.5%	9.7%	4.2%	0.4%	6.8%	0.0%	0.0%	30.4%	6.8%	0.0%	5.9%	8.4%	2.1%	100%
ヒヨドリ	121	129	51	9	1	11	2	1	121	50	1	8	20	9	534
	22.7%	24.2%	9.6%	1.7%	0.2%	2.1%	0.4%	0.2%	22.7%	9.4%	0.2%	1.5%	3.7%	1.7%	100%
コゲラ	10	25	19	0	0	0	0	0	5	0	0	1	2	6	68
	14.7%	36.8%	27.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	0.0%	0.0%	1.5%	2.9%	8.8%	100%
シジュウカラ	23	73	51	14	0	4	1	1	50	16	0	5	21	7	266
	8.6%	27.4%	19.2%	5.3%	0.0%	1.5%	0.4%	0.4%	18.8%	6.0%	0.0%	1.9%	7.9%	2.6%	100%
カワセミ	1	0	1	0	0	0	4	12	0	0	0	0	0	1	19
	5.3%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	21.1%	63.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	100%
ヒバリ	65	1	2	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	1	88
	73.9%	1.1%	2.3%	0.0%	1.1%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	100%

※上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

⑤野鳥の確認状況（行動）

表1-2-6 野鳥の確認状況（行動）

項目	さえずり・地鳴き	飛翔	飛び立ち	枝移り	餌探し	餌運び	羽繕い	休息	巣作り	その他	未記入・不明	合計
キジバト	87	39	12	1	44	0	10	67	1	2	0	263
	33.1%	14.8%	4.6%	0.4%	16.7%	0.0%	3.8%	25.5%	0.4%	0.8%	0.0%	100%
ヒヨドリ	258	121	34	56	18	2	5	90	3	3	2	592
	43.6%	20.4%	5.7%	9.5%	3.0%	0.3%	0.8%	15.2%	0.5%	0.5%	0.3%	100%
コゲラ	37	6	3	14	9	0	0	3	0	2	1	75
	49.3%	8.0%	4.0%	18.7%	12.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	2.7%	1.3%	100%
シジュウカラ	172	28	8	40	17	5	3	16	2	4	1	296
	58.1%	9.5%	2.7%	13.5%	5.7%	1.7%	1.0%	5.4%	0.7%	1.4%	0.3%	100%
カワセミ	4	8	1	0	6	0	0	2	0	0	0	21
	19.0%	38.1%	4.8%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
ヒバリ	67	22	3	0	4	0	0	1	0	1	0	98
	68.4%	22.4%	3.1%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	100%

※上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

◎野鳥の確認状況（周辺環境）

表1-2-7 野鳥の確認状況（周辺環境）

項目	河川	田	畑	林	緑地の多い住宅街	建物の密集地	工場	学校	公園	その他	未記入・不明	合計
キジバト	9	3	25	19	104	36	3	19	16	9	1	244
	3.7%	1.2%	10.2%	7.8%	42.6%	14.8%	1.2%	7.8%	6.6%	3.7%	0.4%	100%
ヒヨドリ	21	0	44	74	190	83	8	48	44	25	5	542
	3.9%	0.0%	8.1%	13.7%	35.1%	15.3%	1.5%	8.9%	8.1%	4.6%	0.9%	100%
コゲラ	4	0	1	24	15	4	2	5	8	1	3	67
	6.0%	0.0%	1.5%	35.8%	22.4%	6.0%	3.0%	7.5%	11.9%	1.5%	4.5%	100%
シジュウカラ	9	2	22	54	94	33	5	16	23	15	5	278
	3.2%	0.7%	7.9%	19.4%	33.8%	11.9%	1.8%	5.8%	8.3%	5.4%	1.8%	100%
カワセミ	16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	18
	88.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	100%
ヒバリ	4	8	58	4	10	2	0	1	0	9	0	96
	4.2%	8.3%	60.4%	4.2%	10.4%	2.1%	0.0%	1.0%	0.0%	9.4%	0.0%	100%

※上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。

⑦野鳥の分布状況

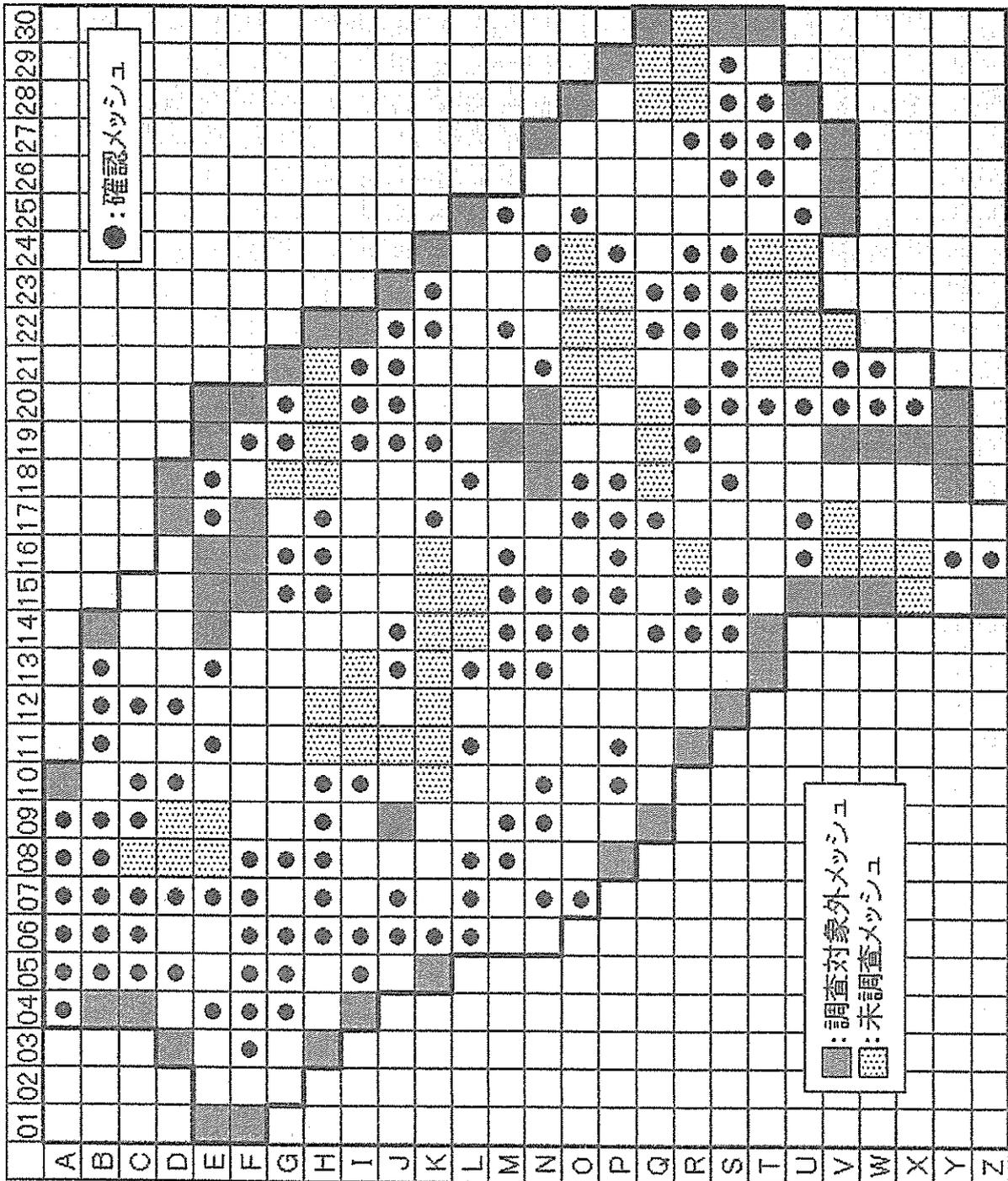


図1-2-4
平成20年度分布状況(キジハト)

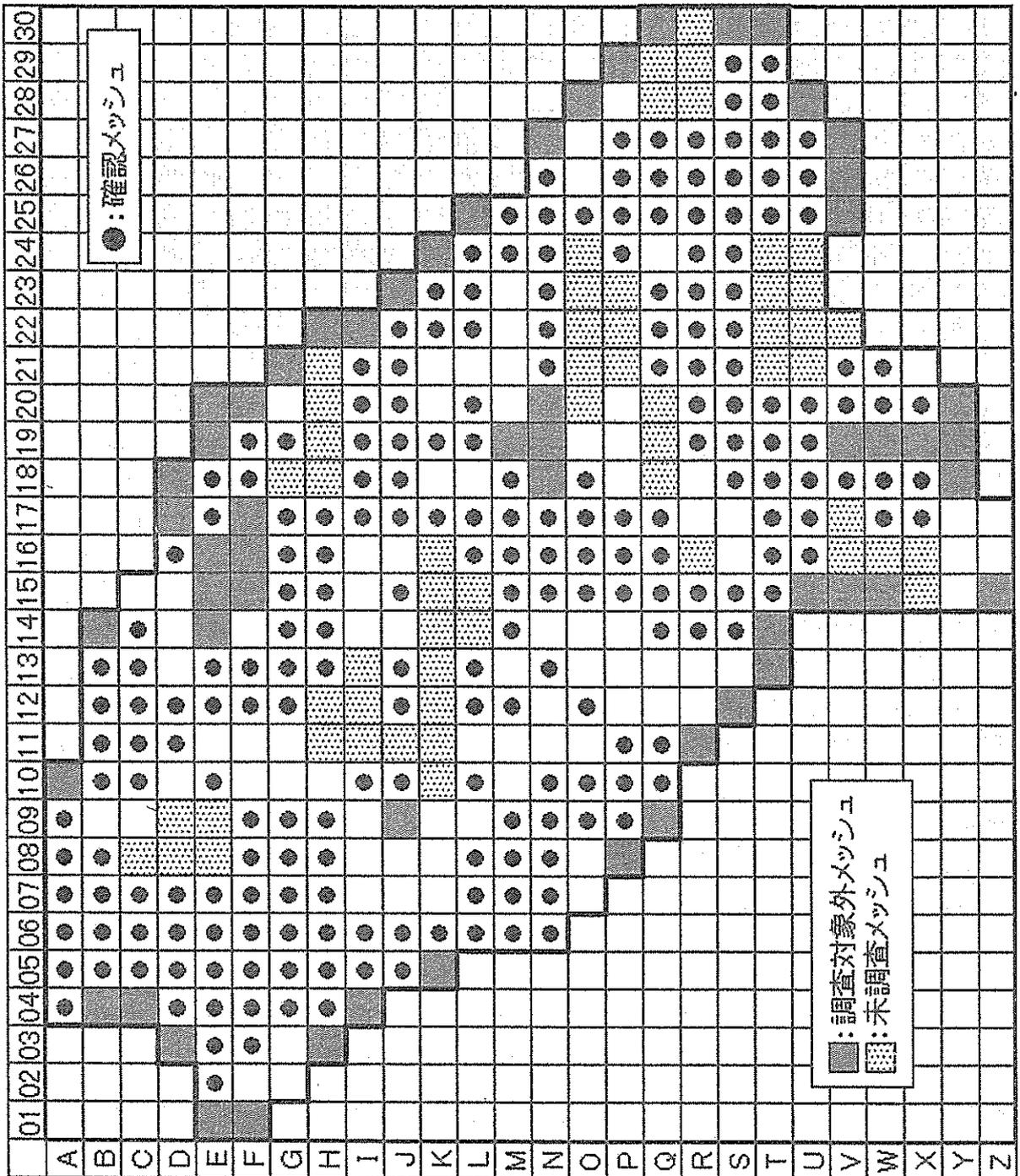


図1-2-5
平成20年度分布状況(ヒヨドリ)

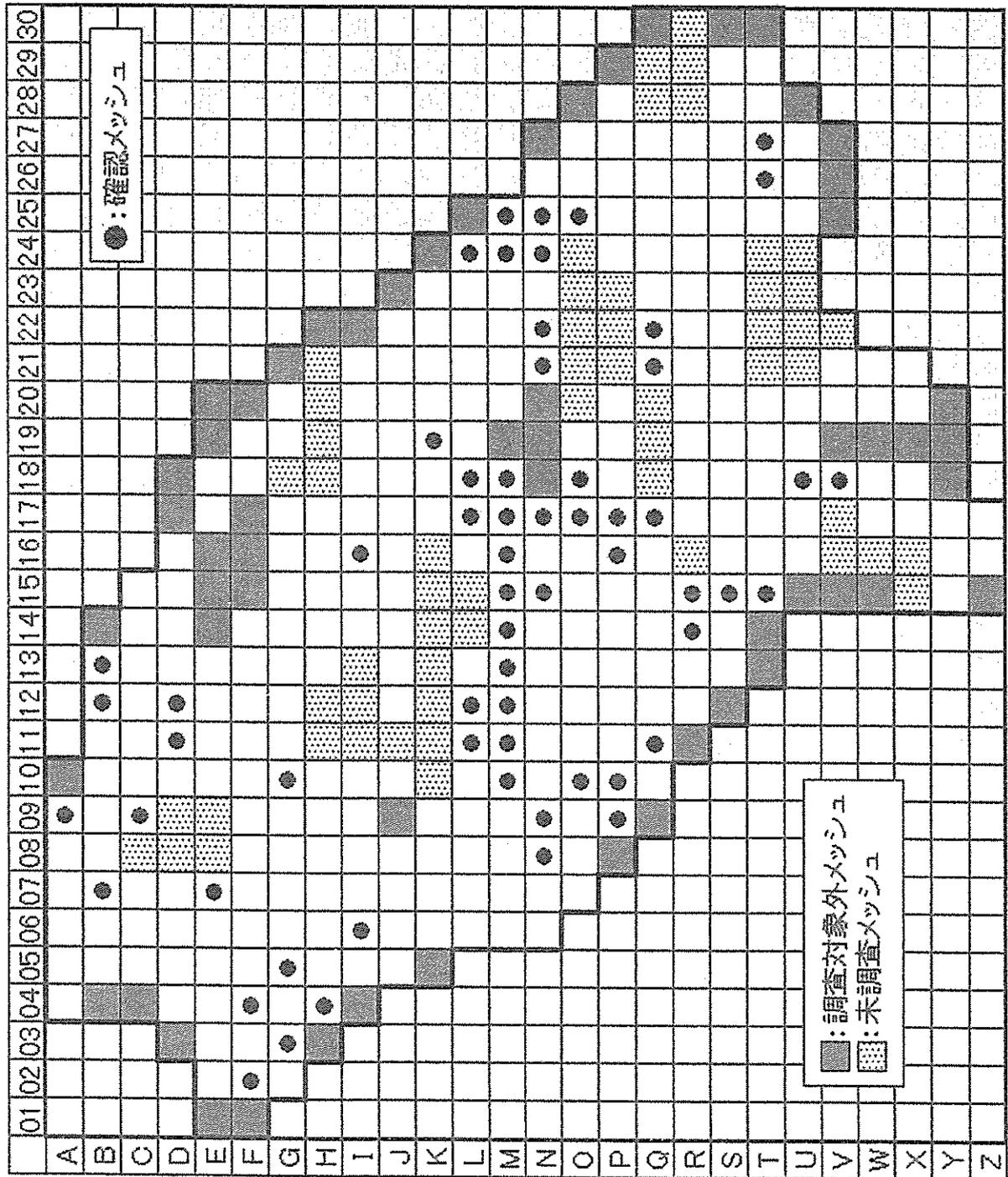


図1-2-6
平成20年度分布状況(コゲラ)

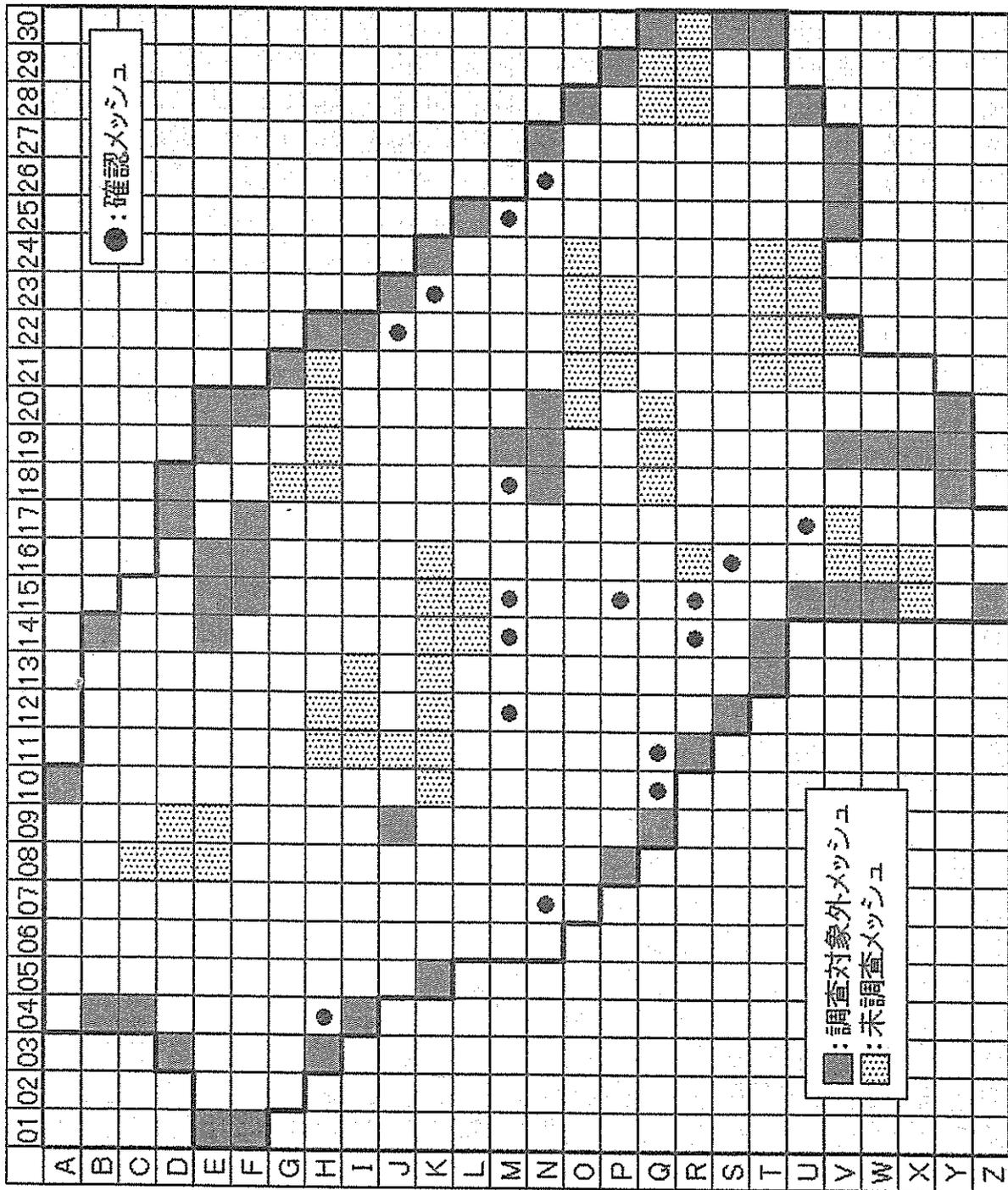


図1-2-8
平成20年度分布状況(カワセミ)

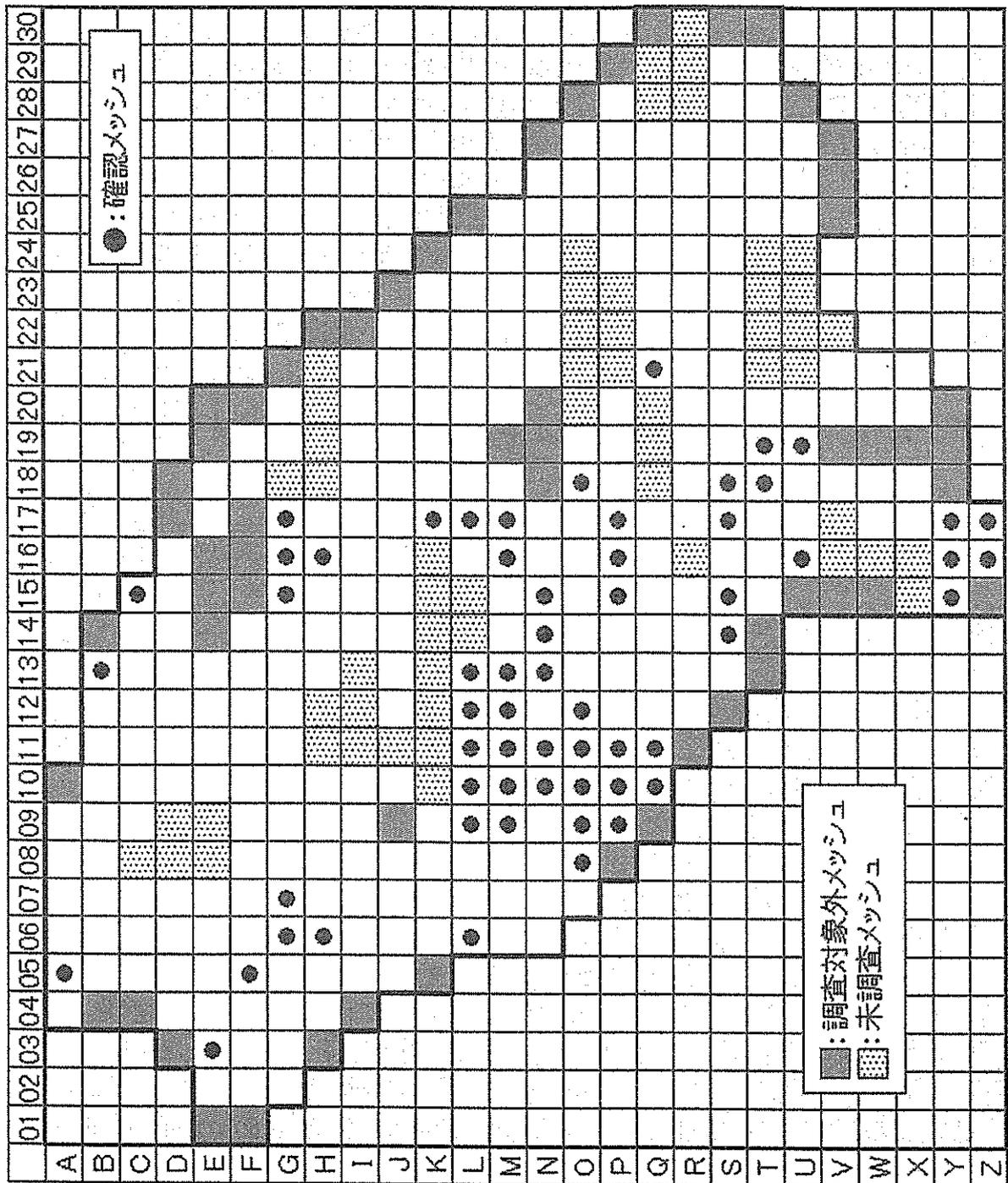


図1-2-9
平成20年度分布状況(ヒバリ)

⑧野鳥の平成15年度と20年度の分布状況

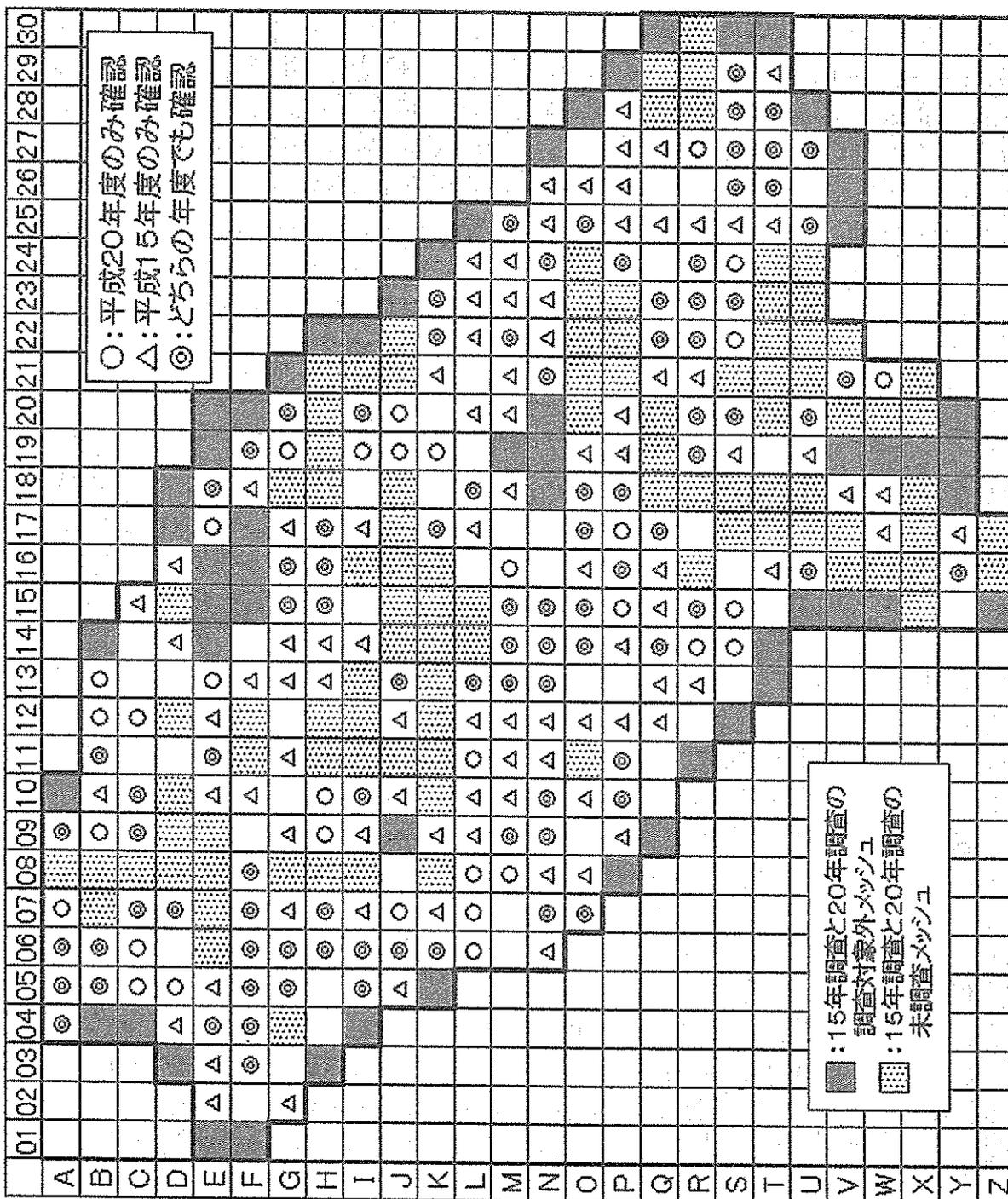


図1-2-10
 平成15・20年度分布状況(キンバト)

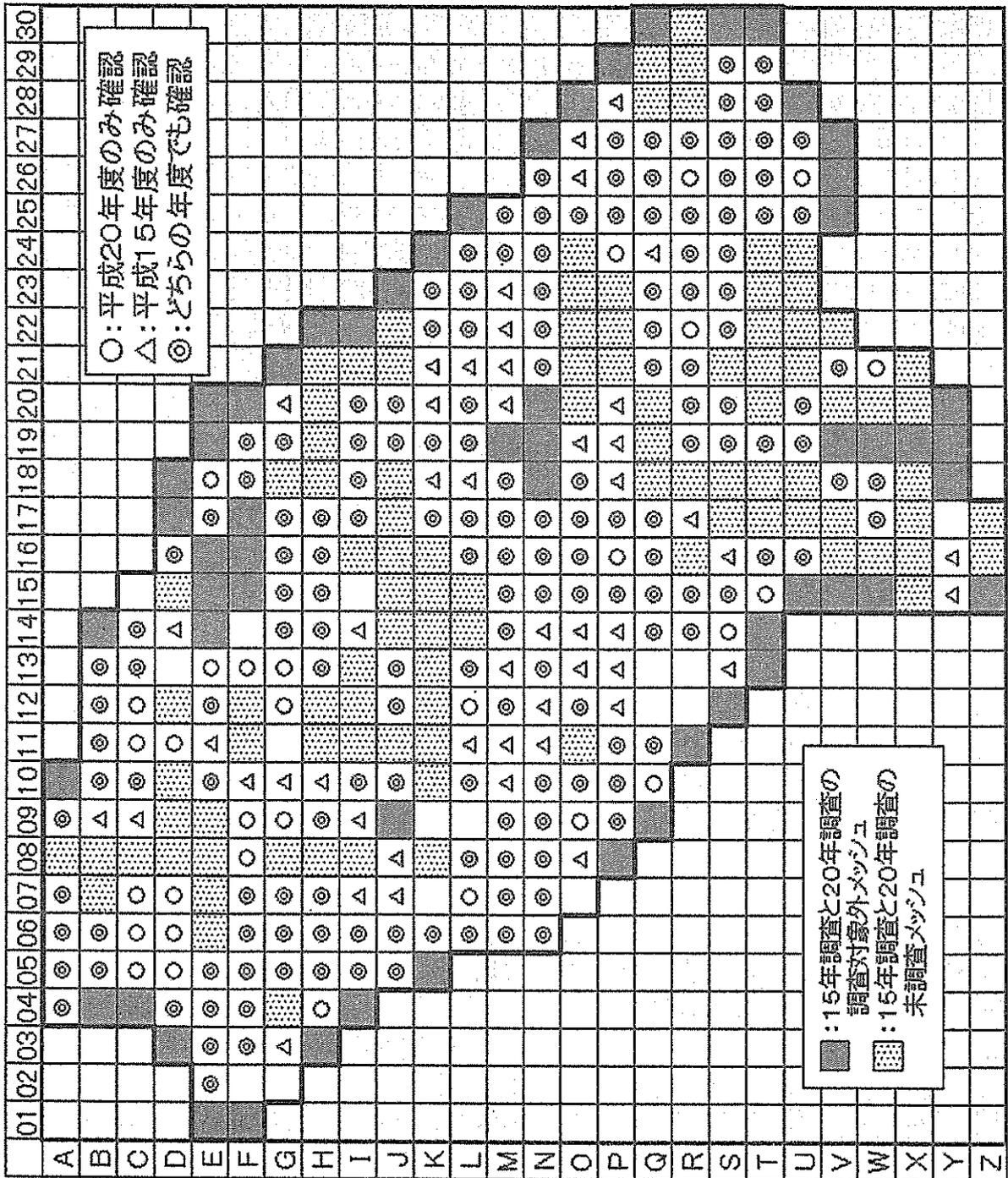


図1-2-11
 平成15・20年度分布状況(ヒヨドリ)

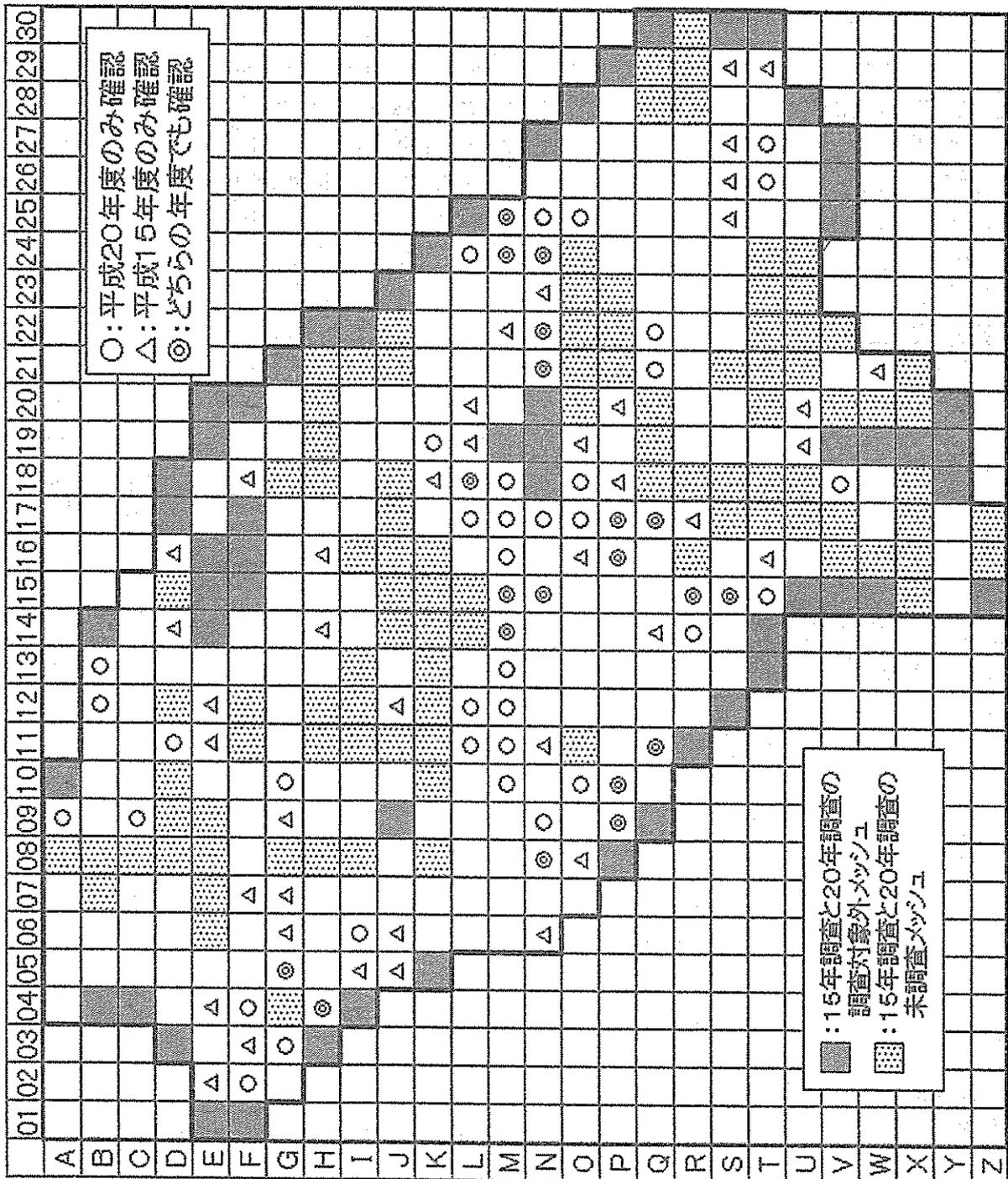


図1-2-12
平成15・20年度分布状況(コゲラ)

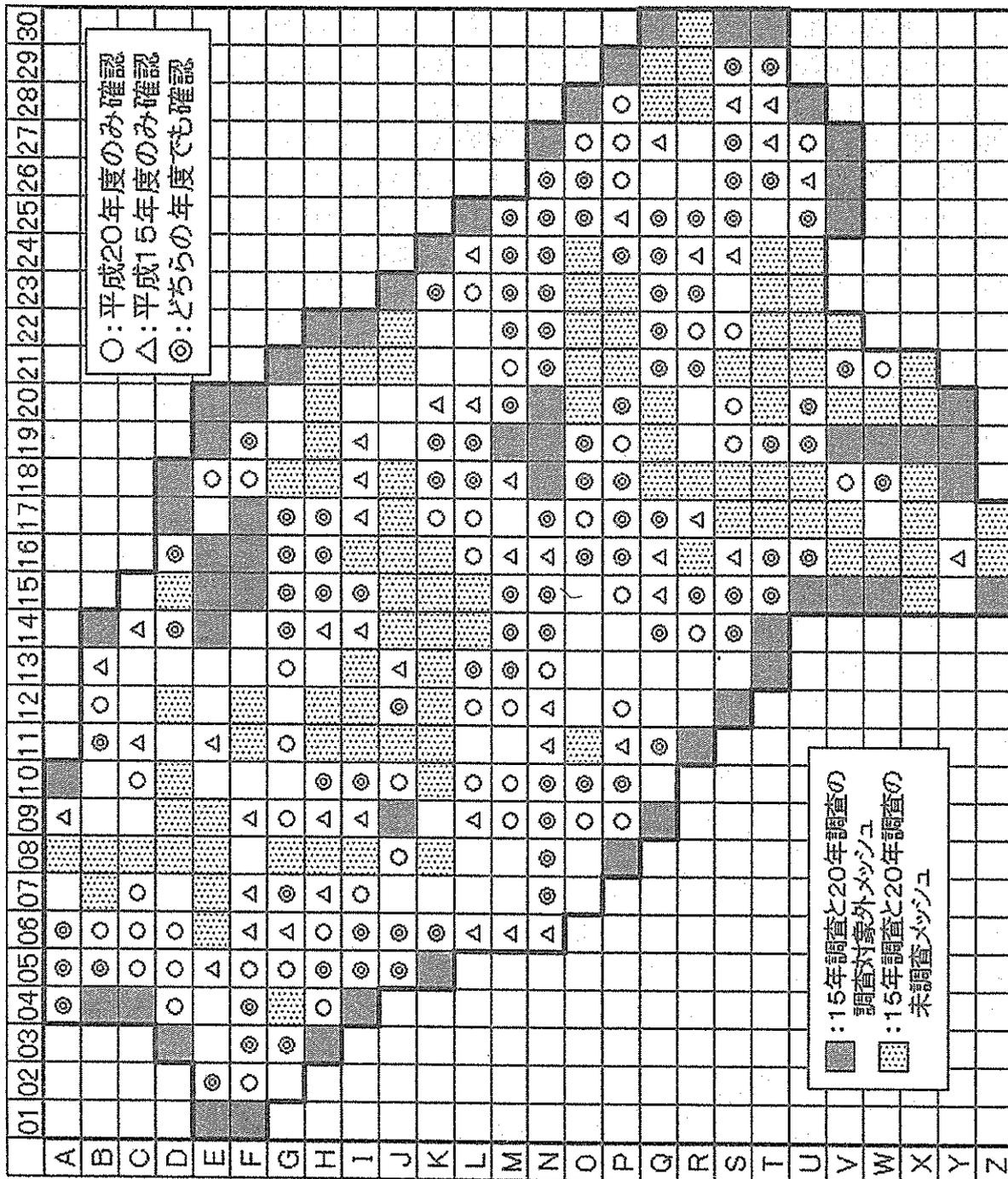


図1-2-13
 平成15・20年度分布状況(シジュウカラ)

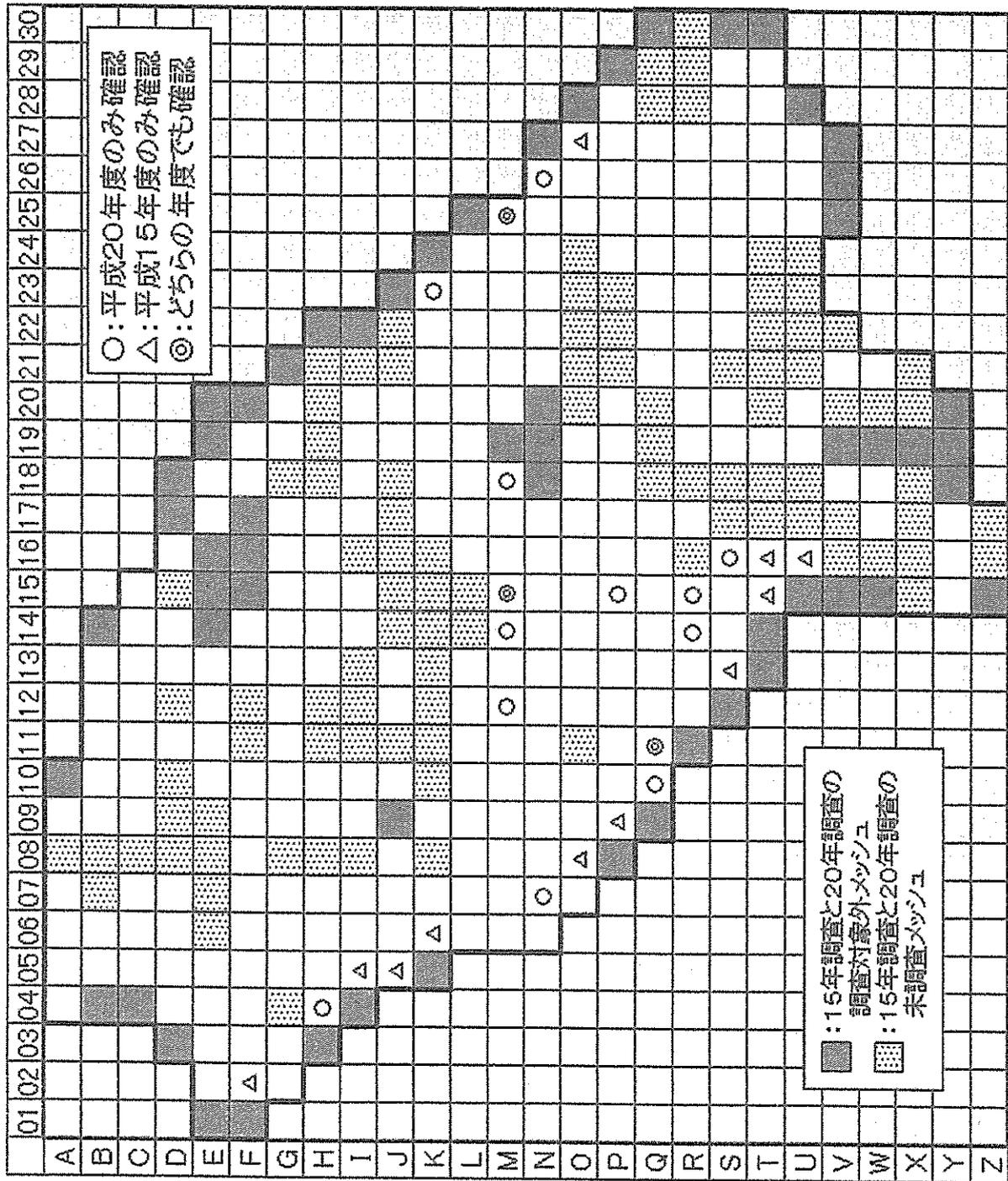


図1-2-14
 平成15・20年度分布状況(カワセミ)

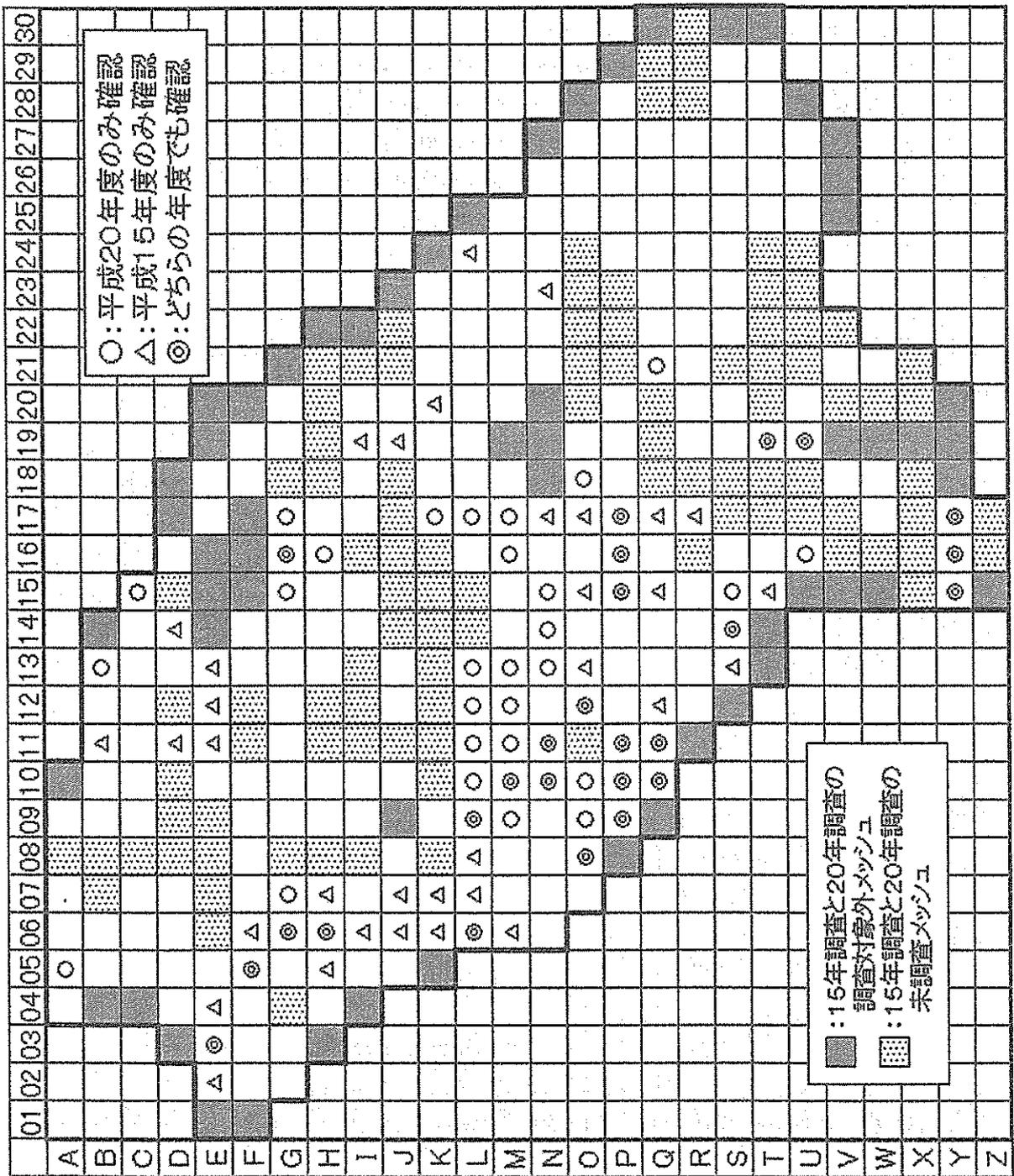


図1-2-15
平成15・20年度分布状況(ヒバリ)

(5) まとめ

●概要

ヒヨドリが73.9%、シジュウカラが57.4%と多くのメッシュで確認できました。これは平成15年度の調査結果と同様です。キジバトの確認メッシュは減少して全体の半数以下となっています。コゲラ、カワセミ、ヒバリが確認されたメッシュ数は比較的少なく(それぞれ20.1%、5.6%、19.8%)、やはり15年度と同様です(表1-2-2)。

●周辺環境

ヒヨドリは、緑地の多い住宅地、建物の密集地、林などの環境で多く見られました。キジバトは、緑地の多い住宅地と建物の密集地で、コゲラ、シジュウカラは緑地の多い住宅地と林で、全体の50%以上が見られています。また、カワセミは河川(88.9%)で、ヒバリは畑(60.4%)で多く見られており、特定の環境を好むことがわかります(表1-2-7)。

●経年変化に関する考察

15年度調査結果と比較して、コゲラ、シジュウカラ、カワセミ、ヒバリは、確認された割合があまり変化していません。キジバト、ヒヨドリは減少しています。特にキジバトは71.2%(H15)から48.5%(H20)へと、22.7ポイント(73メッシュ)も減少しています(表1-2-2)。

また、観察された地点(メッシュ)の変化を見ると、ヒヨドリ、シジュウカラは20年度に15年度と同じメッシュで確認された割合が50%を超えているのに対し、コゲラ、カワセミ、ヒバリは同じメッシュで確認されたメッシュが少なくなっています。特にカワセミは、11.5%(3メッシュ)と低くなっています。ヒバリは各年度のみに見られたメッシュの数と、両年度に見られたメッシュの数にあまり差がありません(表1-2-4、図1-2-10~15)。

●結論

コゲラ、シジュウカラ、カワセミ、ヒバリについては、15年度調査と同様の結果でした。キジバトが著しく減少しています。それほどの大きな環境変化はなかったと思われることから、今後、より詳細な調査を試みる必要があるようです。

1. 3 帰化植物の調査

(1) 調査期間

平成20年9月23日～10月31日

(2) 調査方法

担当メッシュ内で、河川敷、土手、空き地、畑の周辺、線路や道路沿いなど、帰化植物が生えていそうな場所を探し、調査対象の植物を発見した場所と生育環境を記録しました。庭等に明らかに植栽しているものは除外しました。

調査対象種は、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、アレチウリ、ヨウシュヤマゴボウ、ワルナスビの5種類です。

(3) 調査対象メッシュ

市内の総メッシュ数は417ですが、平成15年度、20年度調査で調査したメッシュは表1-3-1のとおりです。

表1-3-1 調査メッシュ数

	調査メッシュ	未調査メッシュ	調査対象外メッシュ	総メッシュ
H15	299	61	57	417
H20	293	66	58	417

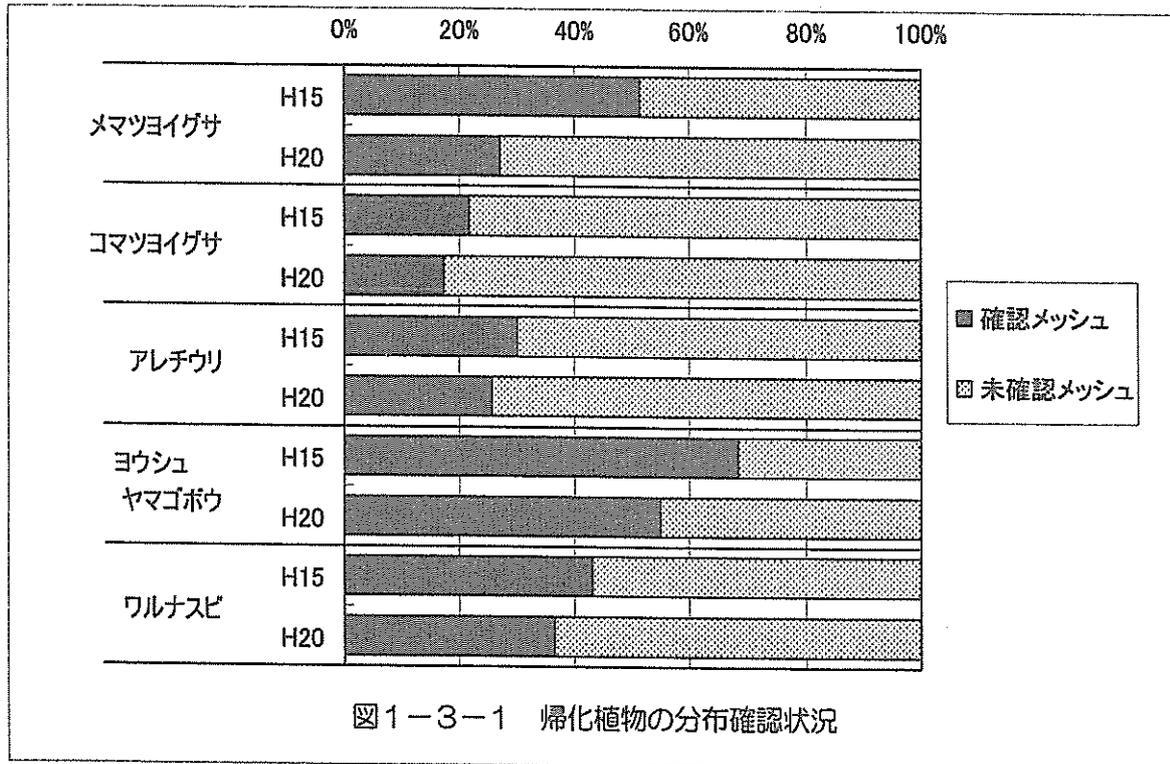


(4) 調査結果

① 帰化植物の分布確認状況

表1-3-2 帰化植物の分布確認状況

項目		確認メッシュ		未確認メッシュ		合計	
		メッシュ数	割合	メッシュ数	割合	メッシュ数	割合
メマツヨイグサ	H15	154	51.5%	145	48.5%	299	100%
	H20	79	27.0%	214	73.0%	293	100%
	増減	-75	-24.5	69	24.5	-6	-
コマツヨイグサ	H15	65	21.7%	234	78.3%	299	100%
	H20	51	17.4%	242	82.6%	293	100%
	増減	-14	-4.3	8	4.3	-6	-
アレチウリ	H15	90	30.1%	209	69.9%	299	100%
	H20	75	25.6%	218	74.4%	293	100%
	増減	-15	-4.5	9	4.5	-6	-
ヨウシュヤマゴボウ	H15	204	68.2%	95	31.8%	299	100%
	H20	161	54.9%	132	45.1%	293	100%
	増減	-43	-13.3	37	13.3	-6	-
ワルナスビ	H15	129	43.1%	170	56.9%	299	100%
	H20	107	36.5%	186	63.5%	293	100%
	増減	-22	-6.6	16	6.6	-6	-



②確認メッシュの状況（1）

平成15年度と20年度の両年度で調査が実施された239メッシュにおける確認メッシュの状況は表1-3-3のとおりです。

※総メッシュ417のうち次のものを除きました。H15未調査メッシュ61・調査対象外メッシュ57、H20未調査メッシュ66・調査対象外メッシュ58。

表1-3-3 確認メッシュの状況（1）

項目	H15のみ 確認	H20のみ 確認	どちらも 確認	どちらも 未確認	合計
メマツヨイグサ	85	26	39	89	239
	35.6%	10.9%	16.3%	37.2%	100%
コマツヨイグサ	36	28	14	161	239
	15.1%	11.7%	5.9%	67.4%	100%
アレチウリ	37	31	35	136	239
	15.5%	13.0%	14.6%	56.9%	100%
ヨウシュ ヤマゴボウ	72	34	92	41	239
	30.1%	14.2%	38.5%	17.2%	100%
ワルナスビ	48	31	57	103	239
	20.1%	13.0%	23.8%	43.1%	100%

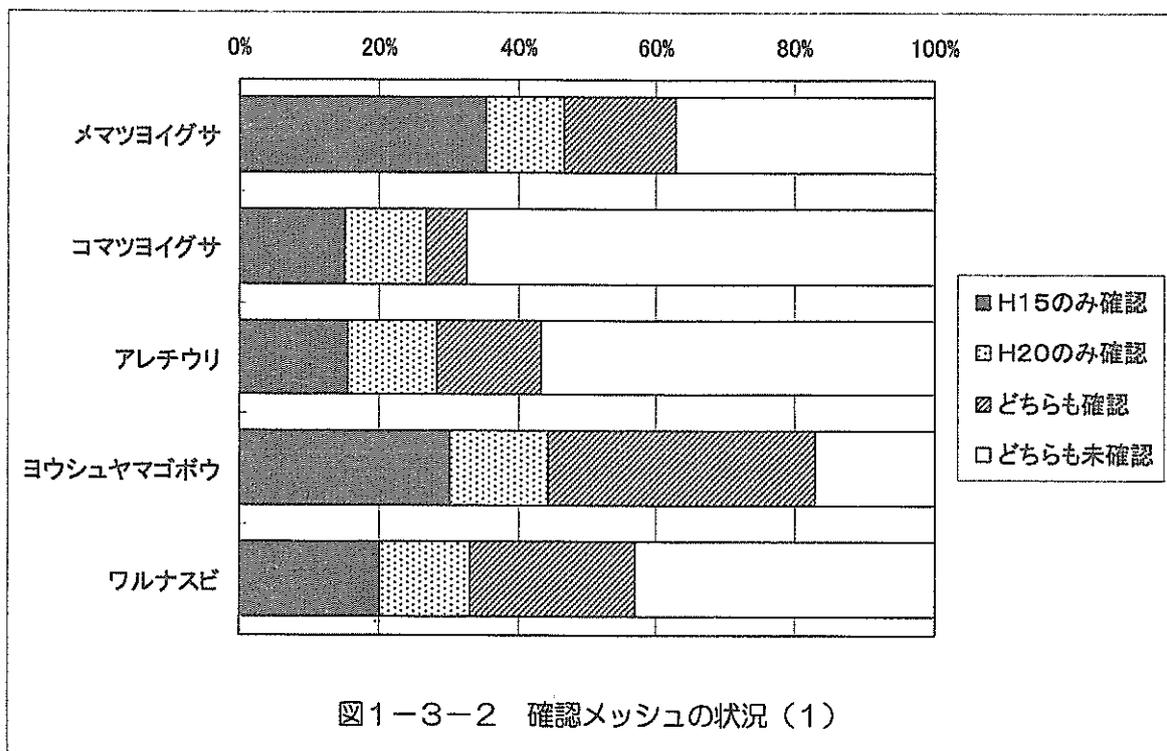


図1-3-2 確認メッシュの状況（1）

③確認メッシュの状況(2)

②確認メッシュの状況(1)のうち、調査対象種を確認できたメッシュのみで比較した状況は、表1-3-4のとおりです。

表1-3-4 確認メッシュの状況(2)

項目	H15のみ確認	H20のみ確認	どちらも確認	合計メッシュ
メマツヨイグサ	85	26	39	150
	56.7%	17.3%	26.0%	100%
コマツヨイグサ	36	28	14	78
	46.2%	35.9%	17.9%	100%
アレチウリ	37	31	35	103
	35.9%	30.1%	34.0%	100%
ヨウシュヤマゴボウ	72	34	92	198
	36.4%	17.2%	46.5%	100%
ワルナスビ	48	31	57	136
	35.3%	22.8%	41.9%	100%

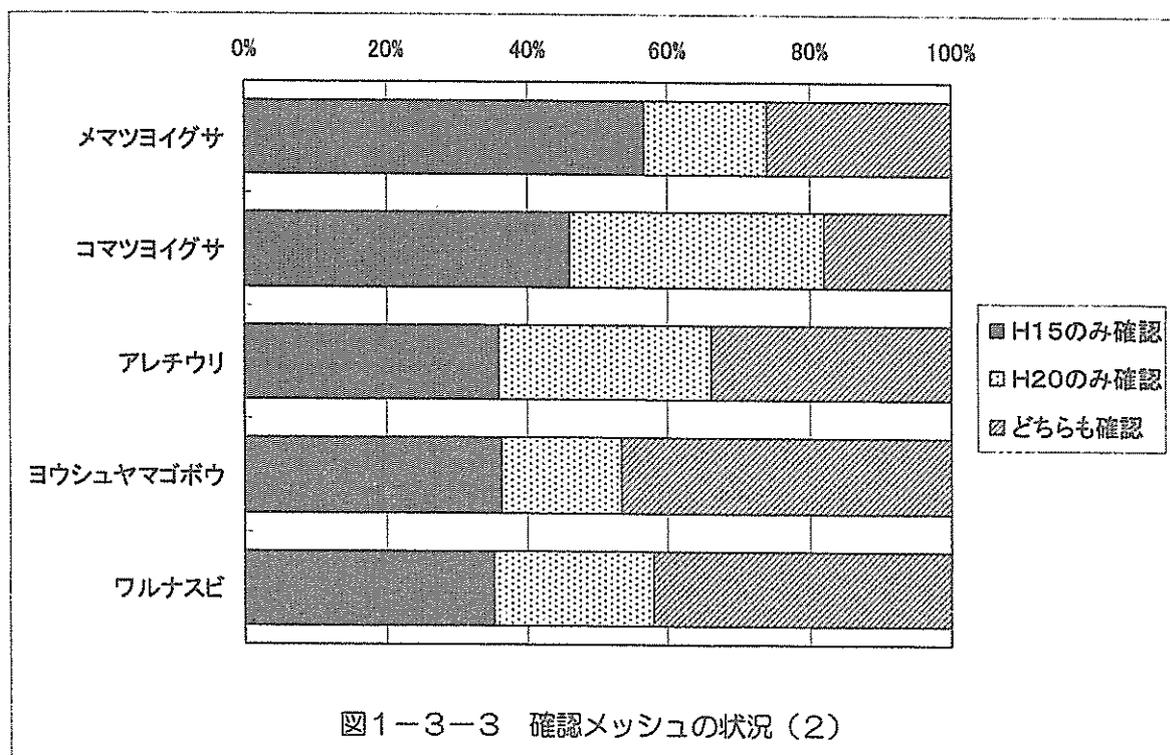


図1-3-3 確認メッシュの状況(2)

④周辺環境

表1-3-5 帰化植物の確認状況(周辺環境)

項目	(舗装)	(未舗装)	公園・ グラウンド	学校	林・森	林縁	川河 の土 手	空き地	駐車場	水田	畑	民家の敷地	工場・事業所 の敷地	その他	合計
グマツメイ グサ	22	17	6	4	6	10	15	35	19	11	29	15	21	18	228
	9.6%	7.5%	2.6%	1.8%	2.6%	4.4%	6.6%	15.4%	8.3%	4.8%	12.7%	6.6%	9.2%	7.9%	100%
グマツメイ グサ	7	10	4	5	5	9	12	22	14	10	19	15	15	15	162
	4.3%	6.2%	2.5%	3.1%	3.1%	5.6%	7.4%	13.6%	8.6%	6.2%	11.7%	9.3%	9.3%	9.3%	100%
アジチドリ	10	18	5	6	6	15	41	21	11	11	23	15	17	19	218
	4.6%	8.3%	2.3%	2.8%	2.8%	6.9%	18.8%	9.6%	5.0%	5.0%	10.6%	6.9%	7.8%	8.7%	100%
ヨロシユ ヤブコボリ	57	25	13	9	19	38	22	49	23	11	38	39	30	21	394
	14.5%	6.3%	3.3%	2.3%	4.8%	9.6%	5.6%	12.4%	5.8%	2.8%	9.6%	9.9%	7.6%	5.3%	100%
ワルナスビ	59	19	11	12	6	8	11	24	21	10	21	20	22	18	262
	22.5%	7.3%	4.2%	4.6%	2.3%	3.1%	4.2%	9.2%	8.0%	3.8%	8.0%	7.6%	8.4%	6.9%	100%

※上段の数字は確認数、下段の数字はその割合です。太枠は割合が10%以上のものです。

⑤帰化植物の分布状況

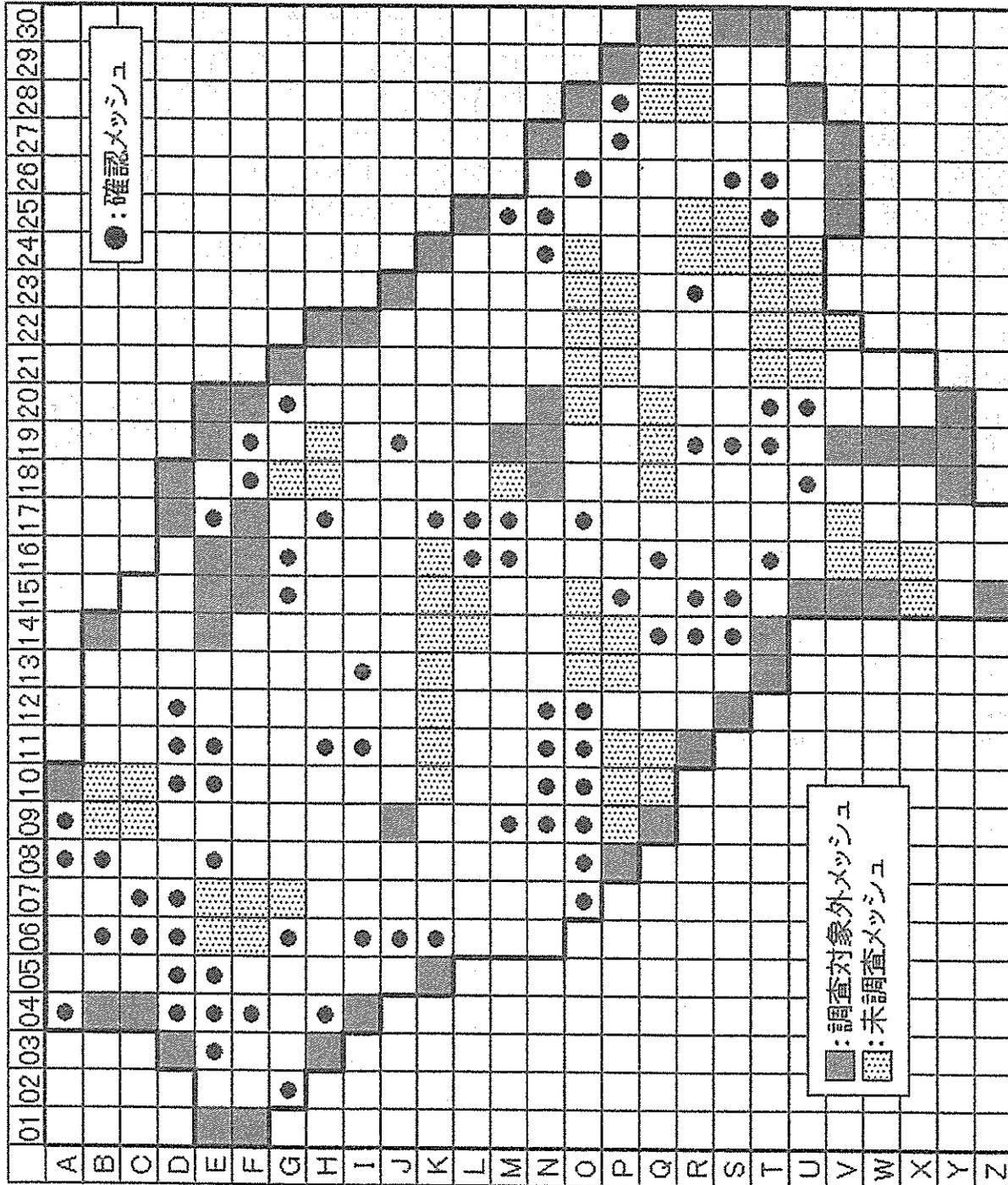


図1-3-4
平成20年度分布状況
(メマツヨイグサ)

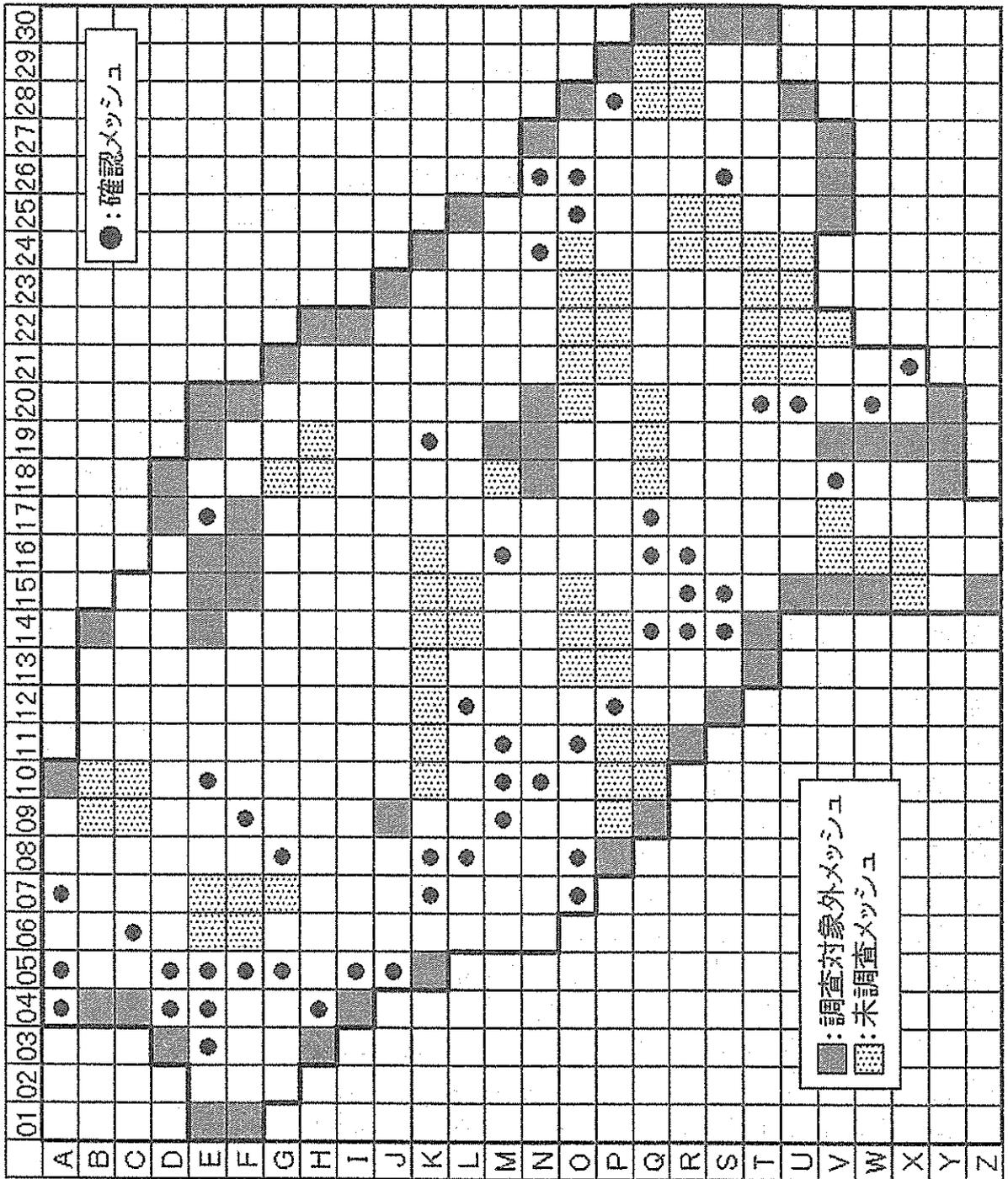


図1-3-5
平成20年度分布状況
(コマツヨイダサ)

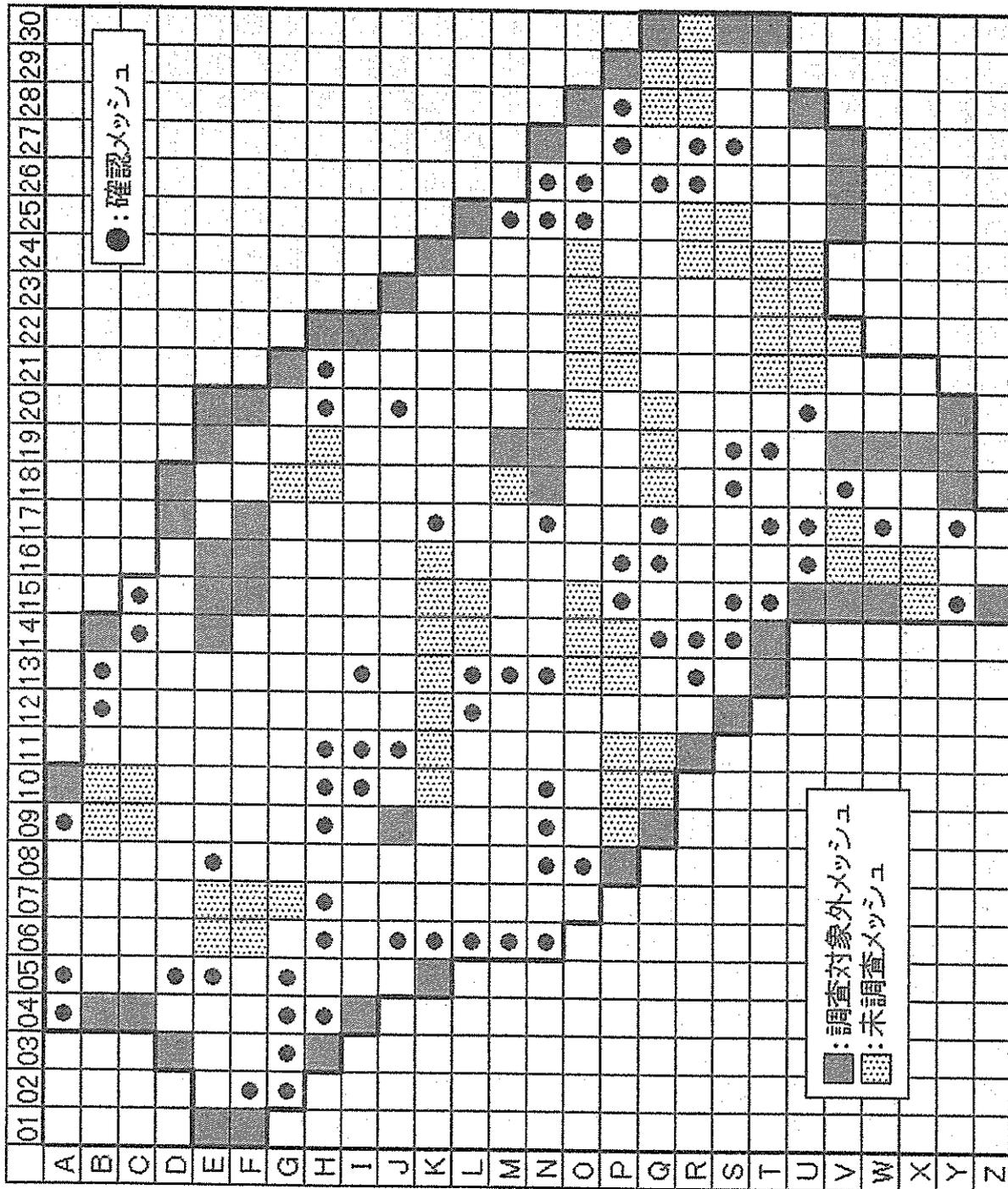


図1-3-6
 平成20年度分布状況
 (アレチウリ)

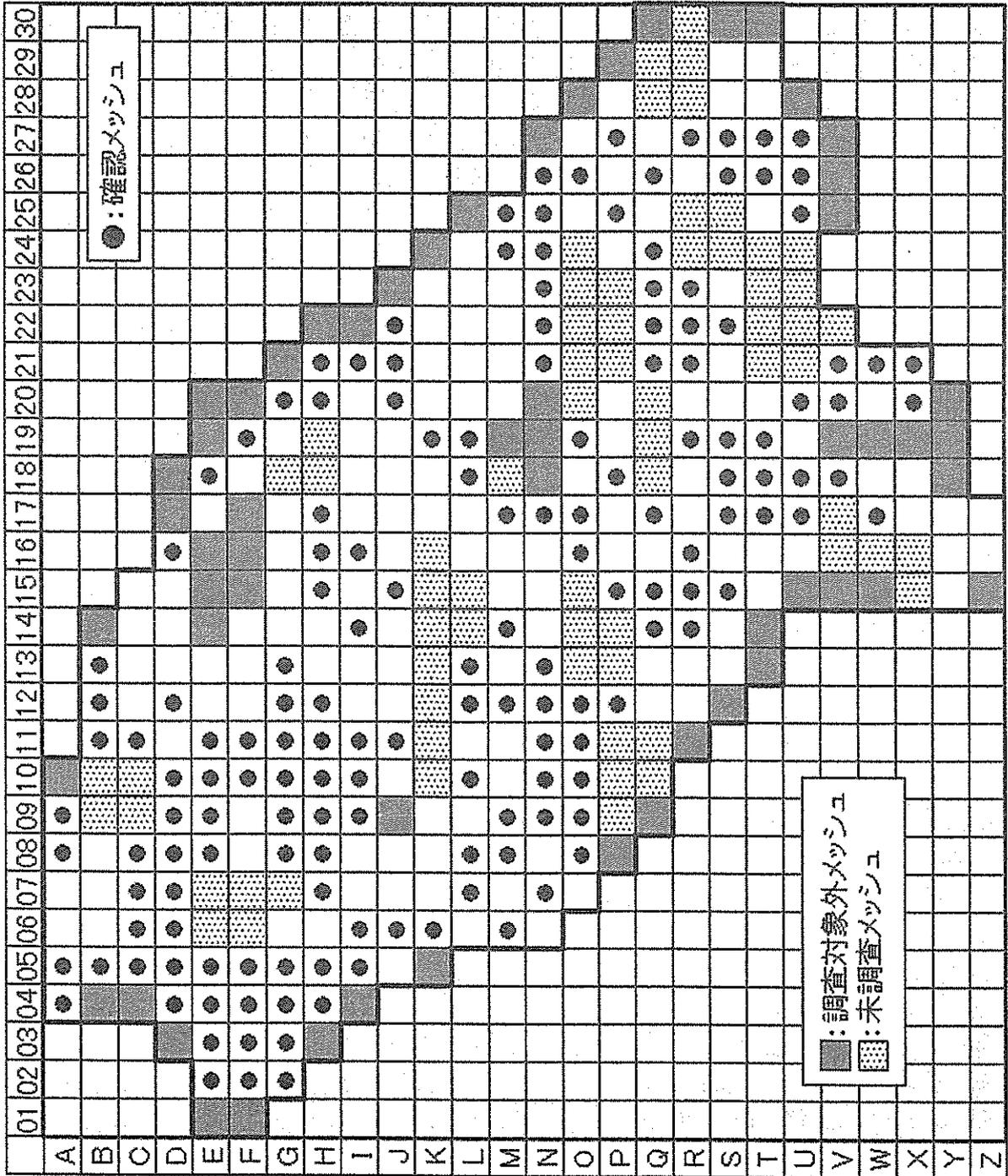


図1-3-7
平成20年度分布状況
(ヨウシュユヤマゴボウ)

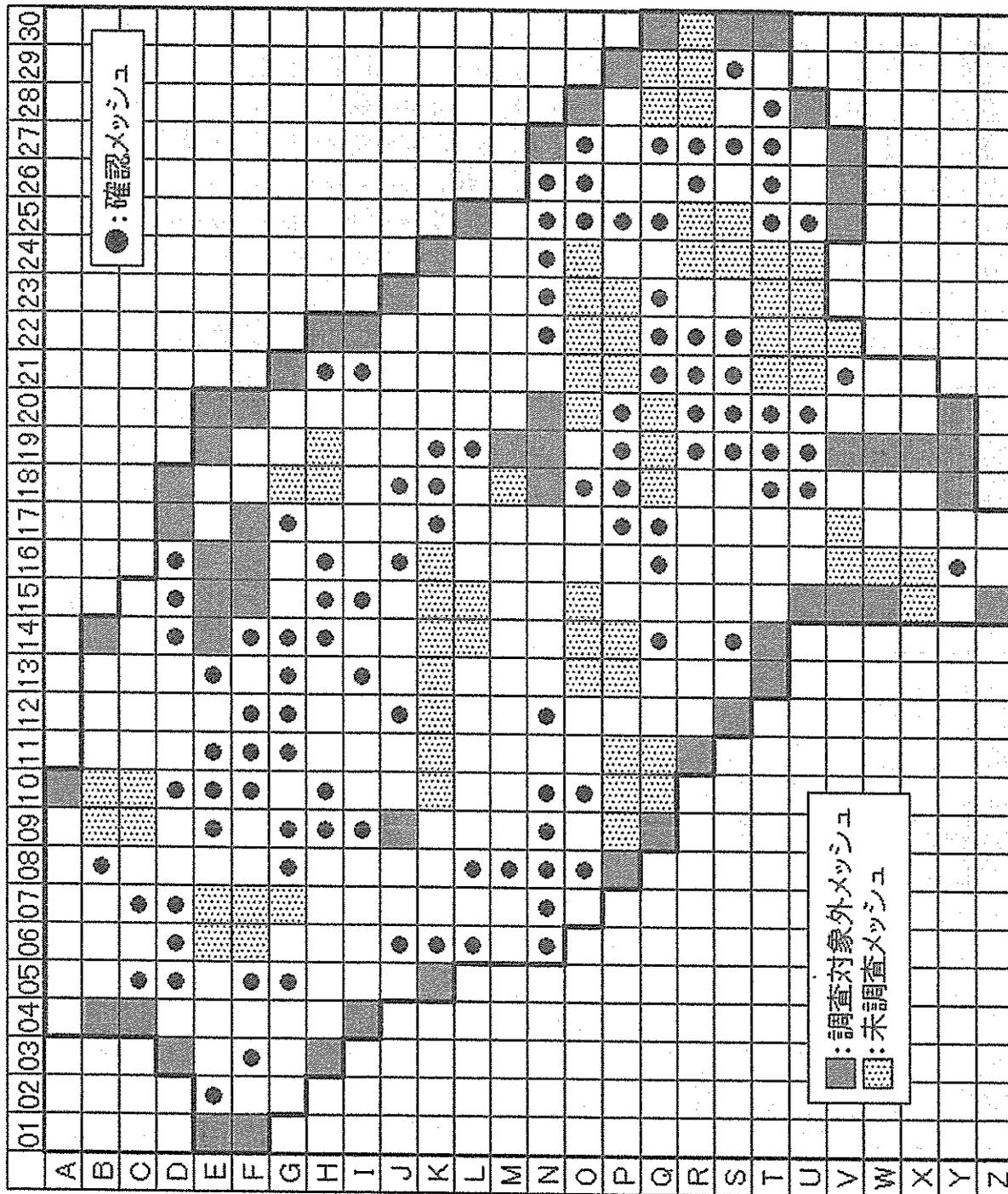


図1-3-8
 平成20年度分布状況
 (フルナビ)

◎帰化植物の平成15年度と20年度の分布状況

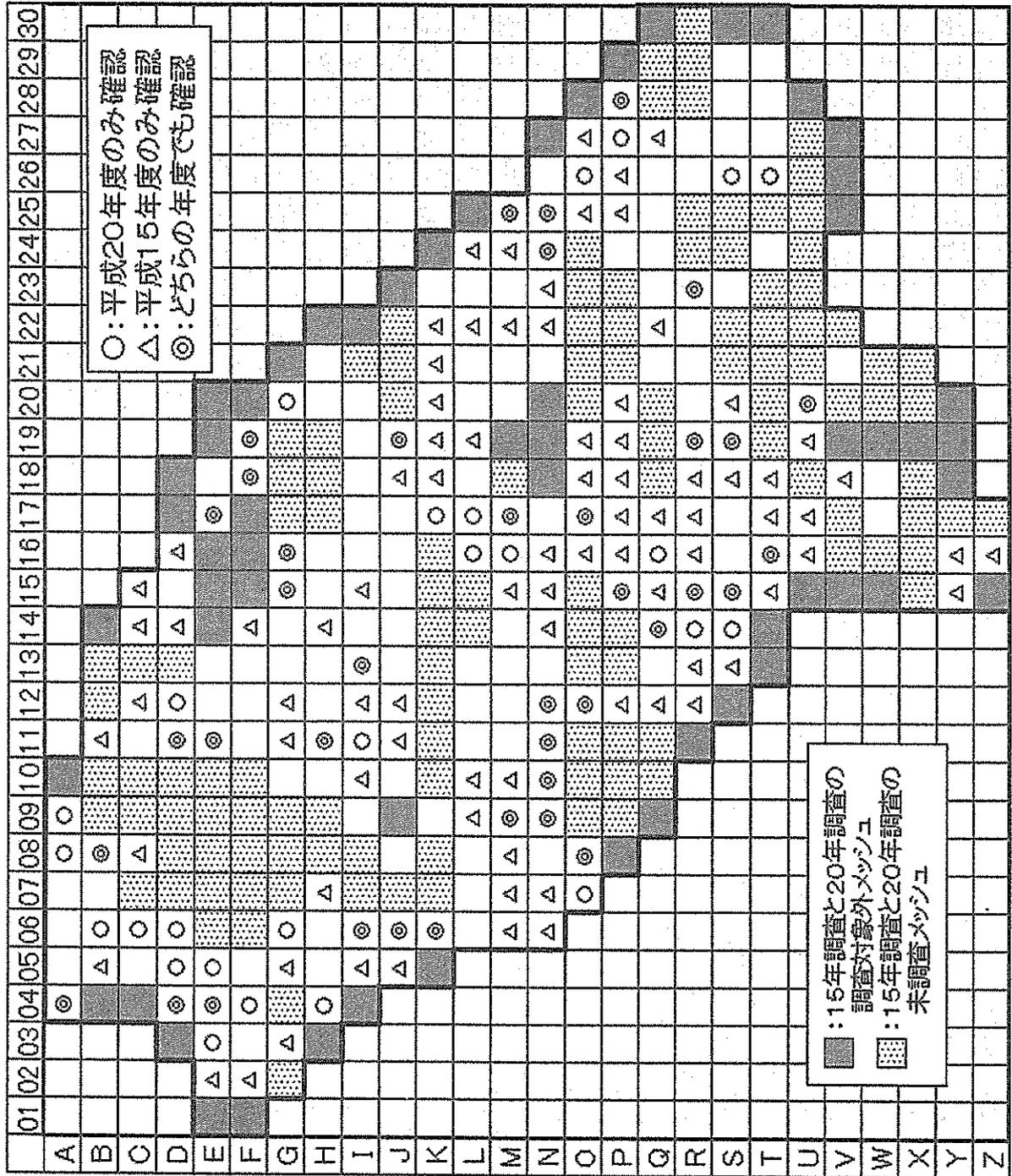


図1-3-9
 平成15・20年度分布状況
 (メマツヨイグサ)

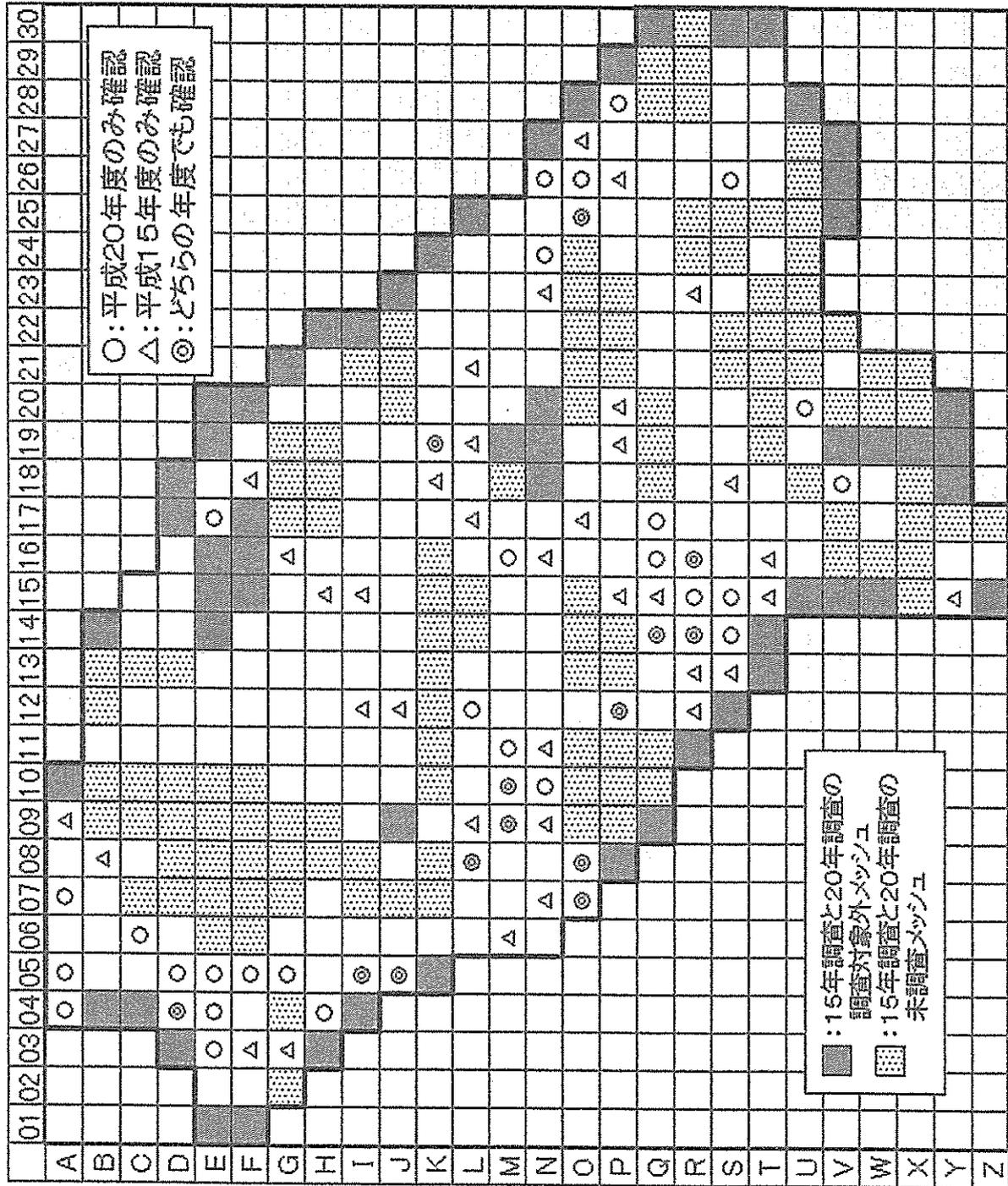


図1-3-10
 平成15・20年度分布状況
 (コマツヨイダサ)

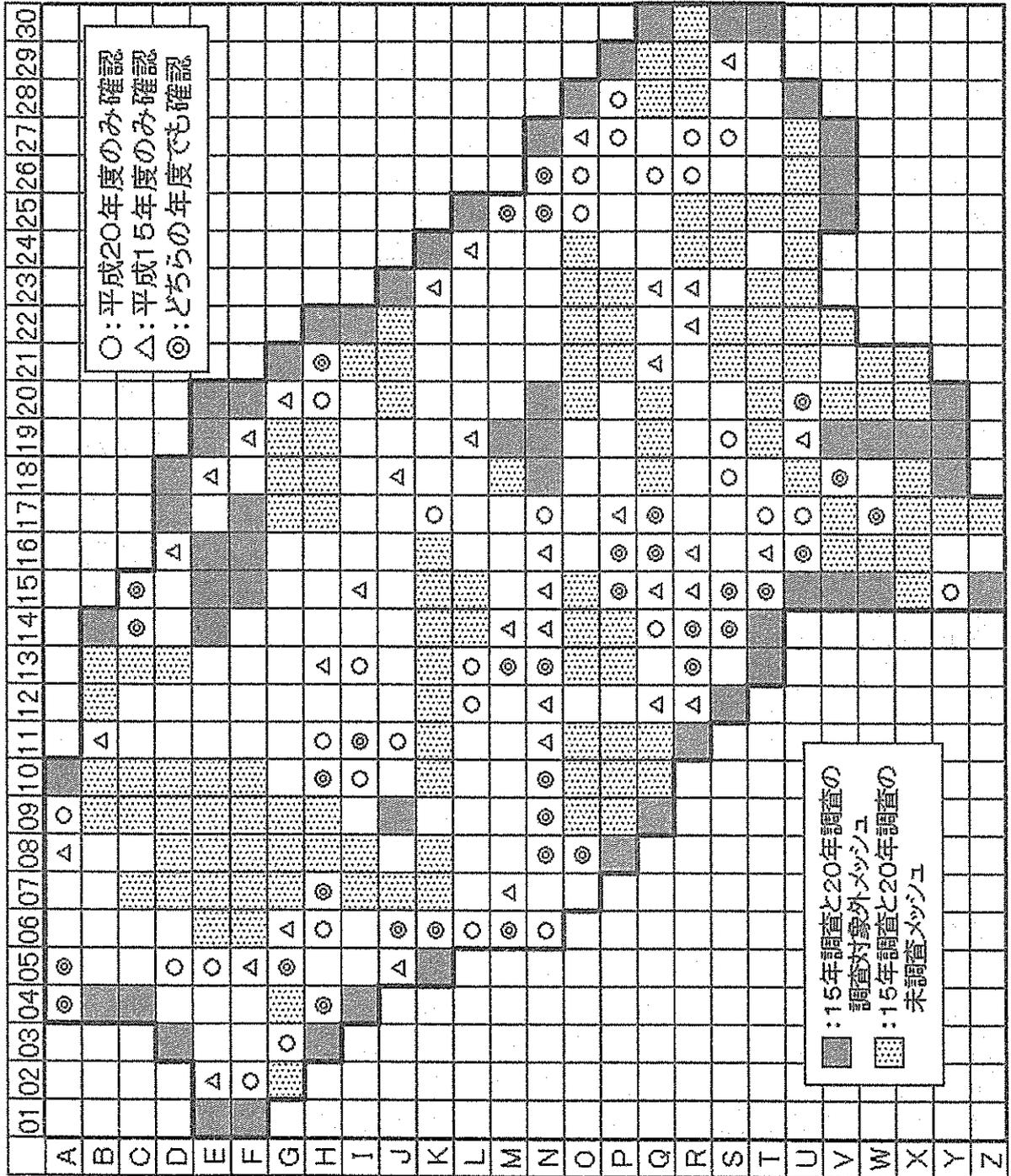


図1-3-11
 平成15・20年度分布状況
 (アレチウリ)

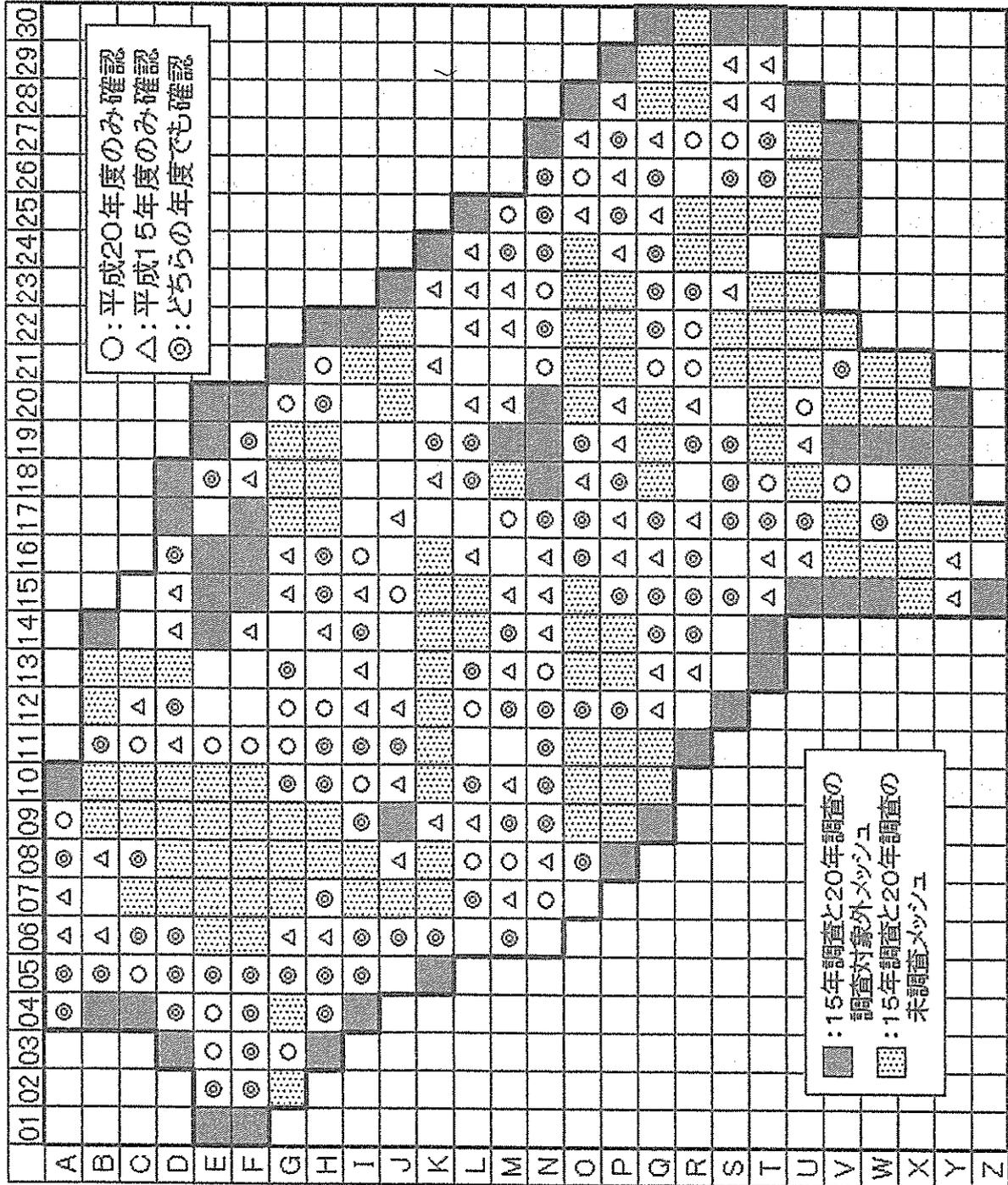
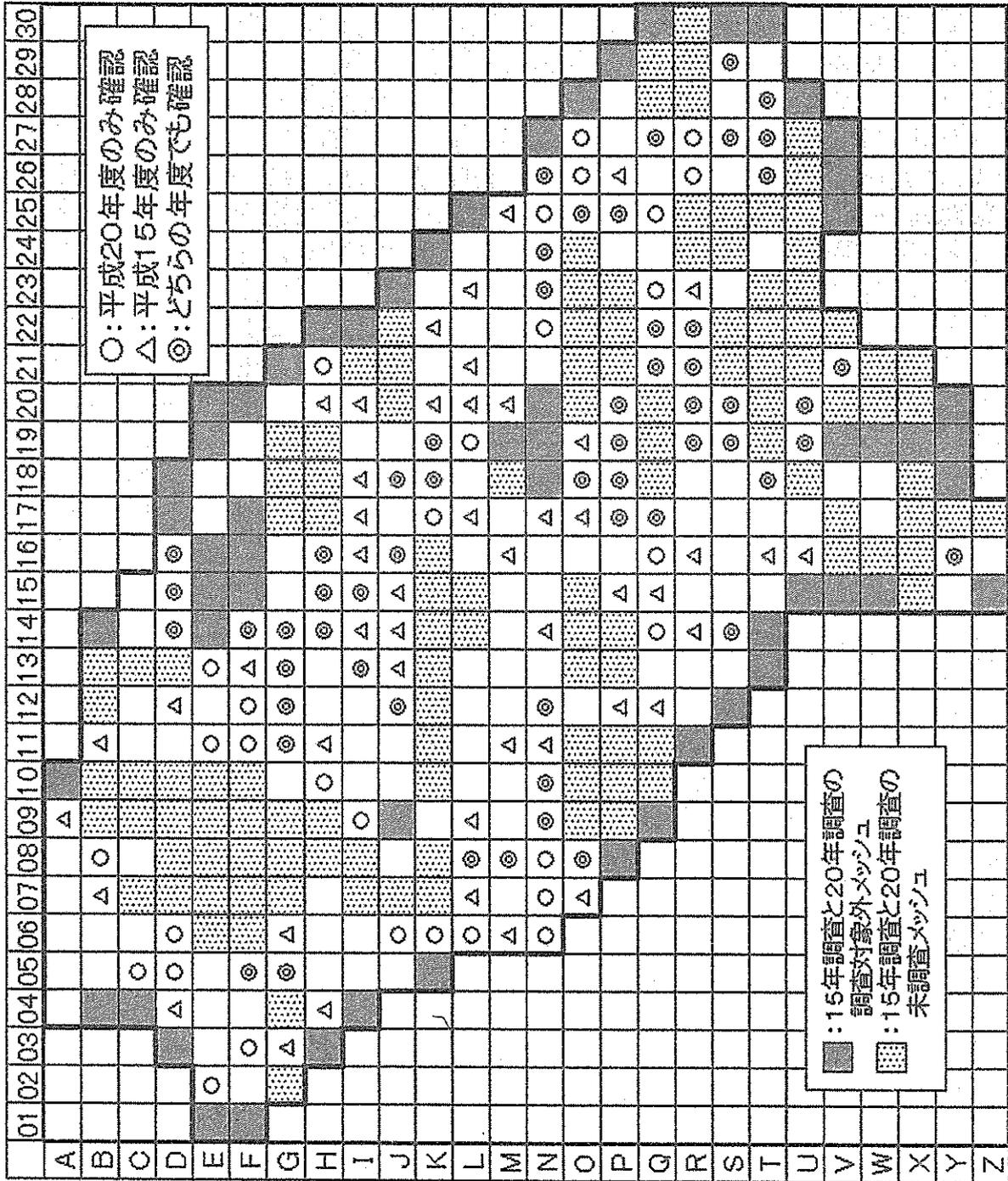


図1-3-12
 平成15・20年度分布状況
 (ヨウシユヤマゴボウ)



○:平成20年度のみ確認
 △:平成15年度のみ確認
 ⊙:どちらの年度でも確認

■:15年調査と20年調査の
 調査対象外メッシュ
 ▨:15年調査と20年調査の
 未調査メッシュ

図1-3-13
 平成15・20年度分布状況
 (ワルナスビ)

(5) まとめ

●概要

調査したメッシュにおいて、ヨウシュヤマゴボウが54.9%、ワルナスビが36.5%で確認されました。対象種すべてにおいて、平成15年度調査よりも確認された割合が低くなっていますが、特にメマツヨイグサが大きく減少しています(表1-3-2)。

●周辺環境

それぞれの種が確認された環境のうち割合が10%以上であったのは、メマツヨイグサでは「空き地」(15.4%)、「畑」(12.7%)、コマツヨイグサでは「空き地」(13.6%)、「畑」(11.7%)、アレチウリでは「河川敷・川の土手」(18.8%)、「畑」(10.6%)、ヨウシュヤマゴボウでは「道路脇(舗装)」(14.5%)、「空き地」(12.4%)、ワルナスビでは「道路脇(舗装)」(22.5%)となっています。(表1-3-5)。

●経年変化に関する考察

15年度と比較して、すべての種について確認メッシュの割合が減少しています。特にメマツヨイグサの減少が著しく(24.5ポイント)、次いでヨウシュヤマゴボウ(13.3ポイント)が大きく減少しています(表1-3-2)。

調査時期の遅さを複数の調査参加者が指摘していることから、その影響が大きかったと考えられます。平成15年度調査は8月30日から11月7日までであったため、今年度の調査は、開始時期が3週間程遅くなっています。指摘の内容は「草刈りがされていて調査できなかった」というものが13件、「花期に間に合わなかった」というものが8件で、意見・感想の提出者39人の半数以上ありました。

また、特記しておきたい事項として、コマツヨイグサが15年度と同じメッシュで確認された割合が大変少ない事があげられます(表1-3-4、図1-3-10)。

●結論

全種類とも減っているように思われますが、前回と調査時期が異なるため、比較できない結果となりました。今後、同様の調査を行う際には時期の設定に留意する必要があります。

また、コマツヨイグサが、近縁種であるメマツヨイグサとは異なった分布の変化を示していることから、この2種に絞った調査をしてみると何か面白い結果が得られるかもしれません。

2 自主テーマ調査

自然環境には地域差があり、局地的に生息・生育する種などは市内全域を対象とした調査に適さないものも多く、また、観察員の興味・関心や経験などにも個人差が見られます。

さらに、「全体テーマ調査」だけでは、市内の自然環境を評価するには不十分であるため、自主テーマによる調査を導入することにより、より多くのデータを集積することを目的としています。

テーマの選択・実施方法・調査時期は、観察員自身が設定して調査をしました。

(1) 自主テーマ調査の紹介

3件の自主テーマ調査の調査結果の提出がありました。

表2-1 自主テーマ調査一覧

No	報告者	調査テーマと内容	分類
1	小川 路人	<p>【津久井における野生哺乳類の生息分布】 実際に目撃したり、死体を見つけたり、確かな情報から調査を続けたい。 キツネ、ニホンザル、ムササビ、リス、アナグマ、タヌキを目撃しています。 2月、フクロウ用の巣箱を10個かけましたが、使ってもらえませんでした。ときどき鳴いています。昔はよくいたそうなので、復活させたく思っています。</p>	哺乳類
2	安達 桂	<p>【寄生木（やどりぎ）】 行幸道路の中谷（境川より西に少し行ったところ）のお社のケヤキの上にヤドリギが見られる。</p>	植物
		<p>【変形朝顔】 佐倉のくらしの植物苑で変形朝顔の種を入手。今二葉がでたところ。15本芽が出た。いかがあいらじますか。わくわく！</p>	植物
		<p>【魚の耳石】 魚を食べたとき、魚の頭に入っている耳石を収集中。20個ぐらいいは集まった。イシモチ、マダイ、ヒラメ、カレイ、スズキ、イサキ、イシダイ、マトウダイ、アジ、サバ、イワシ、アイナメ……</p>	魚類
3	早戸 正広	<p>【上鶴間周辺のチョウの調査】（5月21日～10月4日） 上鶴間（自宅）周辺のチョウについて、目撃記録を残す。 職場が他市のため、記録できた日数は少ないが数年間継続している。</p>	昆虫

表2-2 上鶴間周辺のチョウの調査（早戸さんの今年度の記録）

2008年調査

日付	時刻	種名	科番	個体数	性別	目撃地	備考
8月16日	9時50分	アオスジアゲハ	1	1	?	上鶴間2-13	
6月8日	16時30分	アゲハチョウ	1	1	?	上鶴間2-13	
7月15日	8時20分	アゲハチョウ	1	1	?	林間幼稚園	
8月20日	8時00分	カラスアゲハ	1	1	?	東芝林間病院	
7月6日	15時20分	クロアゲハ	1	1	?	上鶴間5-16	
8月10日	13時15分	クロアゲハ	1	1	?	林間幼稚園	
9月3日	8時00分	クロアゲハ	1	1	?	上鶴間2-13	
8月16日	12時20分	キチョウ	2	1	?	上鶴間2-14	
6月8日	16時20分	スズグロシロチョウ	2	1	?	つるまの森	
5月27日	10時55分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間3-12	
6月1日	10時55分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間2-13	
6月1日	11時10分	モンシロチョウ	2	1	?	上鶴間小学校	
9月2日	16時15分	アサギマダラ	3	1	?	深堀中央公園	
8月1日	16時00分	ムラサキシジミ	5	1	?	上鶴間わかば公園	
6月1日	11時15分	ヤマトシジミ	5	2	?	上鶴間小学校	
6月14日	10時50分	ヤマトシジミ	5	1	?	上鶴間2-13	
8月1日	14時00分	ウラギンシジミ	6	1	♀	上鶴間1-24	
10月4日	9時00分	ウラギンシジミ	6	1	♀	上鶴間2-14	
8月1日	16時10分	ゴマダラチョウ	7	1	?	上鶴間2-13	
5月21日	7時45分	ミスジ	7	1	?	上鶴間5-18	
7月15日	8時20分	ミスジ	7	1	?	林間幼稚園	
6月15日	8時40分	ツマクロヒョウモン	7	1	?	上鶴間2-14	
7月19日	10時00分	ツマクロヒョウモン	7	1	♀	上鶴間3-8	
7月20日	11時00分	ツマクロヒョウモン	7	1	♂	上鶴間2-13	
8月1日	15時45分	ヒメアカタテハ	7	1	?	上鶴間2-11	
9月1日	14時00分	イチモンジセリ	8	1	?	上鶴間2-13	

※野帳紛失のため、5月21日より記載。

※7科16種を確認し、昨年より1科4種多かった。

※昨年確認できたジャコウアゲハが確認できなかった。

※カラスアゲハやヒメアカタテハは、本年調査により初めて確認できた。

※深堀中央公園の斜面林（通称：どんぐり山）の雑木林のクヌギやエノキなどが、工事等のため伐採抜根及び切土されたため、今後の影響が懸念される。

3 専門部会調査

自然環境調査には、専門的な知識が必要なものや、グループで行ったほうが効率的なものがあります。

また、「全体テーマ調査」は稀少種などの特定の地域のみには生息・生育するものの調査には不向きですので、興味・関心が共通していたり、同じような問題意識を持っている人がまとまって様々な活動をする中で、より専門的な活動が図れるよう専門部会を設置しています。

現在の専門部会の設置状況は以下のとおりです。

表3-1 専門部会の設置年度と登録者数

部会名	設置年度	今年度の登録者数
植物調査部会	平成14年度	23名
湧水調査部会	平成14年度	21名
河川生物相調査部会	平成18年度	13名
野鳥調査部会	平成18年度	24名

3.1 植物調査部会

(1) 設置目的

植物には限られた地域に生育しているものや同定が難しいものなどがあるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、自然環境基礎調査で得られた稀少種のデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、植物に関心を持つ観察員が協力し合い、相模原市の貴重な植物の調査を行うことを目的に植物調査部会を設置しました。

(2) 活動報告

ア 第1回植物調査部会

(ア) 形式 活動(カワラノギクの保護・調査活動①)

(イ) 日時 5月23日(木) 午前10時~正午

(ウ) 場所 相模川河川敷カワラノギク保護区域、実験区域(神沢地区)

(エ) 参加者 合計15名

観察員 4名(青野、鹿島、小林(通)、小林(義))

市博物館他10名(秋山学芸員、カワラノギクを守る会、桂川・相模川流域協議会、神奈川県職員)

事務局 1名(中島)

(オ) 内容 市立博物館と連携したカワラノギクの保護活動(4年目)。5月20日実施予定を雨天のため23日に延期して実施。4月に神奈川県との協力で設けた生育実験区域にまいた種の発芽調査と従来の保護区域の草抜きを実施しました。



イ 第2回植物調査部会

(ア) 形式 活動(カワラノギクの保護・調査活動②)

(イ) 日時 6月24日(火) 午前10時~正午

(ウ) 場所 相模川河川敷カワラノギク保護区域、実験区域(神沢地区)

- (工) 参加者 合計15名
 観察員 5名 (青野、浅木、川崎、川村、塩沢)
 市博物館他9名 (秋山学芸員、カワラノギクを守る会、桂川・相模川流域協議会、神奈川県職員)
 事務局 1名 (中島)
- (オ) 内容 第1回部会での調査ではあまり発芽がみられなかったため、補完調査として実施しました。発芽調査終了後、生育実験区域と保護区域の草抜きを実施しました。

ウ 第3回植物調査部会

- (ア) 形式 活動 (カワラノギクの保護・調査活動③)
 (イ) 日時 8月28日 (木) 午前10時～正午
 (ウ) 場所 相模川河川敷カワラノギク保護区域、実験区域 (神沢地区)



- (エ) 参加者 合計19名
 観察員7名 (青野、鹿島、川崎、川村、木村、塩沢、藤井)
 市博物館他11名 (秋山学芸員、カワラノギクを守る会、桂川・相模川流域協議会、神奈川県職員、環境対策課職員)
 事務局1名 (中島)
- (オ) 内容 コセンダングサなどの種が落ちる前に草抜きを実施しました。

エ 第4回植物調査部会

- (ア) 形式 観察会 (カワラノギクの調査と観察)
 (イ) 日時 10月29日 (水) 午前10時～正午
 (ウ) 場所 相模川河川敷カワラノギク保護区域、実験区域 (神沢地区)
 (エ) 参加者 合計23名

- 観察員 6名 (青野、川崎、川村、小林 (通)、小林 (義)、塩沢)
 市博物館他16名 (秋山学芸員、博物館スタッフ、カワラノギクを守る会、環境対策課職員)
 事務局 1名 (中島)

- (オ) 内容 種まきや草抜きなどの保護・調査活動をしてきた神沢地区のカワラノギクが花を咲かせたので、花株数・ロゼット数の調査を行いました。調査終了後、カワラノギクやカワラハハコなど周辺に咲く花の観察を行いました。



オ 第5回植物調査部会

- (ア) 形式 観察会 (津久井城山公園の春の植物観察)
 (イ) 日時 3月19日 (木) 午前10時～午後2時30分
 (ウ) 場所 県立津久井城山公園
 (エ) 参加者 合計13名
 観察員 6名 (青野、浅木、浅原、岩田、鹿島、西田)
 市博物館2名 (秋山学芸員、宮崎)
 事務局 5名 (星野、中島、小田、尾中、小野)

(才) 内 容 ・ 県立津久井湖城山公園内（津久井城址周辺）を散策しながら、春に咲く草花の観察会を行いました。

才 部会報の発行

11月に部会報を発行しました。

3. 2 湧水調査部会

(1) 設置目的

相模川をはじめとする河川と段丘崖に点在する湧水は、相模原市の代表的な自然環境といえます。河川や湧水の水質・水量を維持し、生態系の保全を図りながら、将来世代に豊かな水辺を引き継ぐことは我々の責務です。

そのため、相模原市環境基本計画においては、湧水保全対策として、重点施策に「自然環境観察員と連携して、湧水の監視を行います。」という取り組みを掲げました。この取り組みを推し進め、湧水の継続的な調査を実施することを目的に湧水調査部会を設置しました。

(2) 調査概要

平成14年度から17年度まで行ってきた一次調査の結果を踏まえ、19年度から23年度までの5年間を二次調査期間として、これまで調査した30箇所のうち、湧水が全く確認できない1箇所を除外した29箇所について経年変化を調査し、記録します。今年度は二次調査の2年目として、フィッシングパーク上、フィッシングパーク下、麻溝台、相模ヶ丘病院下、六下坂下、相陽中学校裏、勝坂遺跡の7箇所の調査を行いました。

(3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるよう自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけています。主な変更点としては、自然環境基礎調査で行ったBODの調査は市民参加での調査には適さないことから、CODによる調査に変えています。

表3-2 湧水調査方法の概要

項目	概要	
	湧水調査部会調査 (平成14年度～)	自然環境基礎調査 (平成10年度)
1 調査時期	豊水期(9月下旬)と渇水期(1月下旬)の年2回	
2 調査箇所	29箇所を5年で実施 (第2次調査)	30箇所を1年で実施
3 水質調査	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤化学的酸素要求量(COD) ⑥湧水量	(1) 水質調査項目 ①水温 ②溶存酸素量(DO) ③水素イオン濃度(pH) ④電気伝導率(EC) ⑤生物化学的酸素要求量(BOD) ⑥湧水量
4 植物調査	(1) 時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録	(1) 時期 夏期植生調査時に実施 (2) 方法 湧水周辺の植物について、成育種の確認、群落の大きさ、生育状況などを記録
5 水生生物調査	(1) 時期 豊水期調査及び渇水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(定量時間20分程度の任意採集)	(1) 時期 豊水期調査と同期日 (2) 方法 湧水地及びこれに続く水路、湿性地を対象として、水生動物の確認(サーバーネット及びタモ網を用い定量時間30分の任意採集)

(2) 活動報告

ア 第1回湧水調査

- (ア) 形式 調査(豊水期)
- (イ) 日時 9月28日(日) 午前9時～午後3時
- (ウ) 場所 フィッシングパーク上、フィッシングパーク下、麻溝台、相模ヶ丘病院下、大下坂下、相陽中学校裏、勝坂遺跡(全7箇所)
- (エ) 参加者 合計16名
 - 観察員14名(膏野、浅野、池川、岩田、岡野、貝瀬、川崎、木村(光)、小林(義)、斉藤、武田、中川、西田、横木)
 - 事務局 2名(星野、柴崎)

(オ) 内容 水質調査班、植物調査班、水生生物調査班の3班に分かれて調査を行いました。大下坂付近の湧水地点は5年前には水が溜まっており未調査でしたが、今回も同じ状況のため調査できませんでした。



イ 第2回湧水調査

(ア) 形式 調査(湧水期)

(イ) 日時 1月25日(日) 午前9時~午後3時

(ウ) 場所 フィッシングパーク上、フィッシングパーク下、麻溝台、相模ヶ丘病院下、大下坂下、相陽中学校裏、勝坂遺跡(全7箇所)



(エ) 参加者 合計13名

観察員8名(浅野、岡野、小林(義)、青野、川崎、仙田、小田、木村(光))

事務局5名(星野、柴崎、尾中、小野、田嶋)

(オ) 内容 水質調査班、植物調査班、水生生物調査班の3班に分かれて調査を行いました。大下坂付近の湧水地点は豊水期と同様に水が溜まって進入できず、調査ができませんでした。

ウ 調査結果—地点評価—

表3-3 湧水調査部会調査結果

No	名称	湧水量	水質	植生環境	水生動物相	管理	総評	変化
7	フィッシングパーク上	C	A	A	A	C	△	→
8	フィッシングパーク下	A	A	B	B	B	○	↗
9	麻溝台	B	A	A	A	C	△	↘
10	相模ヶ丘病院下	B	A	A	B	A	◎	→
11	大下坂下	-	-	-	-	-	-	-
12	相陽中学校裏	C	A	A	A	B	△	→
13	勝坂遺跡(有賀谷)	A	A	B	A	A	◎	→

(評価基準)

湧水量	A: 湧水量が豊富 B: 湧水量がやや豊富 C: 染み出す程度 D: 水涸れする時期がある
水質	A: 各項目とも良好 B: 普通 C: 生活排水が混入している
植生環境	A: 良好な樹林環境がある B: 樹林がある C: 樹林がない
水生動物相	A: 水生動物相が豊富 B: 普通 C: 水生動物相が貧相
管理	A: 湧水が管理されている B: とくに管理はされていない C: 管理されておらず、ゴミが散在している
総評	◎: 湧水量及び水質並びに周辺環境が良好 ○: 湧水量及び水質並びに周辺環境がやや良好 △: 湧水量及び水質並びに周辺環境が貧弱 ×: 湧水が水涸れし、湧水地機能がなし

エ 部会報の発行

1月に部会報を発行しました。

3. 3 河川生物相調査部会

(1) 設置目的

相模川をはじめとする河川には様々な生き物が生息しています。とくに河川に見られる底生生物を指標とする河川生物相は、種類、個体数などから、水の汚れ具合を見分けることができ

ます。また、継続的にデータを収集し現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、河川の生き物に関心を持つ観察員が協力し合い、市内を流れる河川の生物相調査を行うことを目的に河川生物相調査部会を設置しました。

(2) 活動報告

ア 河川生物相調査部会

(ア) 形式 勉強会・観察会（相模川の水生生物についての講義と調査）

(イ) 日時 9月13日（金）

(ウ) 場所 水産技術センター内水面試験場、相模川親水広場下流

(エ) 参加者 合計14名
観察員13名
事務局 1名（星野）

(オ) 内容 内水面試験場にて相模川の生きものについて学んだ後、相模川の生きもの調査を実施しました。ウズムシやクロスジヘビトンボの見分け方などを学習しました。



3. 4 野鳥調査部会

(1) 設置目的

鳥類の生息状況を把握するには、季節的な変動を考慮して年間を通じた調査を行うことが必要であるため、全体テーマ調査だけで必要なデータを得ることは困難です。また、相模原市自然環境基礎調査で得られたデータを活かし現況を確認することは、今後の保全策を検討する上で非常に重要です。

そのため、野鳥に関心を持つ観察員が協力し合い、現地調査による記録種をもとに、相模原市の鳥類相の把握や鳥類相から見た緑地・水辺の現況の把握を目的に野鳥の調査を行うため、野鳥調査部会を設置しました。

(2) 調査概要

自然環境基礎調査の野鳥調査において設定した市内14ルート、13地点を対象に、今年度から2班体制で追跡調査を行い記録します。また、野鳥調査部会員が、個人または個人が属する団体等で行う活動で得た情報を活用し補完します。

今年度は、番田付近、古山・沈殿池、勝坂遺跡周辺の3ルートと、麻溝台の畑地の1地点を調査しました。

(3) 調査方法

調査方法については、調査結果の比較が容易にできるように自然環境基礎調査の調査方法にできる限り近づけることとしました。主な変更点として、姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録するようにしました。

表3-4 野鳥調査方法の概要

項目	概要	
	野鳥調査部会 (平成18年度～)	自然環境基礎調査 (平成11年度)
1 調査時期	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-	春季調査(渡り期)-5月中旬- 夏季調査(繁殖期)-6月後半- 補足調査(繁殖期)-8月- 秋季調査(渡り期)-10月後半- 冬季調査(越冬期)-2月上旬-
2 調査箇所	14+Nルート・13+N地点を複数年かけて調査	14ルート・13地点を1年で調査
3 調査方法	[線センサス調査法]	
	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ設定したルート上を、時速1.5km～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。 姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ設定したルート上を、時速1.5km～2kmで歩行し、調査ルートの片側50m(両側100m)幅の範囲内に出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。
3 調査方法	[定点観察法]	
	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。 姿の確認がない場合であっても鳴き声を2人以上が確認したときは種類のみを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ設定した調査地点において、範囲は定めずに1地点30分間の観察を行い、出現した鳥類の種類、個体数等を記録する。
	[任意観察]	
	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥調査部会員が個人又は個人が属する団体において活動して得た情報を活用し補完する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記の手法以外に、調査地域内を任意に調査し、鳥類相の把握を行う。

(2) 活動報告

ア 第1回野鳥調査部会

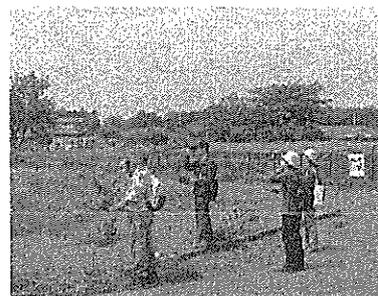
(ア) 形式 調査(春季)

(イ) 日時 5月17日(土) 午前9時～正午

(ウ) 場所 A班 番田付近～古山・沈殿池
B班 勝坂遺跡周辺～麻溝台の畑地

(エ) 参加者 合計11名
観察員9名、事務局2名(星野、中島)

(オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。



イ 第2回野鳥調査部会

(ア) 形式 調査(夏季)

(イ) 日時 6月21日(土) 午前9時～正午

(ウ) 場所 A班 番田付近～古山・沈殿池
B班 勝坂遺跡周辺～麻溝台の畑地

- (工) 参加者 合計13名
 観察員11名、事務局 2名 (星野、中島)
 (オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

ウ 第3回野鳥調査部会

- (ア) 形式 調査 (秋季)
 (イ) 日時 10月25日 (土) 午前9時～正午
 (ウ) 場所 A班 番田付近～古山・沈殿池
 B班 勝坂遺跡周辺～麻溝台の畑地
 (エ) 参加者 合計12名
 観察員10名
 事務局 2名 (星野、中島)



- (オ) 内容 2班に分かれて線センサス調査及び定点観察を行いました。

エ 第4回野鳥調査部会

- (ア) 形式 会議
 (イ) 日時 1月31日 (土) 午前10時～正午
 (ウ) 場所 環境情報センター 学習室
 (エ) 参加者 合計 9名
 観察員7名、事務局2名 (星野、中島)
 (オ) 内容 雨天のため調査 (冬季) を中止し、1年間の調査結果のまとめを行いました。

オ 調査結果

表3-5 野鳥調査部会調査結果 番田付近 (ルート調査)

目	分類		確認数				合計	
	科	種	春季	夏季	秋季	冬季		
キジ	キジ	キジ	1				1	
チドリ	チドリ	コチドリ		1			1	
ハト	ハト	キジバト	3	3	1		7	
キツツキ	キツツキ	コゲラ		1			1	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ		1			1	
	ツバメ	ツバメ	8	26			34	
	セキレイ	ハクセキレイ	1	1	4		6	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	6	6		14	
	モズ	モズ			1		1	
	シジュウカラ	シジュウカラ	2				2	
	メジロ	メジロ		1			1	
	ホオジロ	ホオジロ			1		1	
	アトリ	カワラヒワ	3		6		9	
		シメ			1		1	
		ハタオリドリ	スズメ	30	28	54		112
		ムクドリ	ムクドリ	2	25	2		29
		カラス	ハシボソガラス		5			5
		ハシブトガラス	1	6	3		10	
合計 5目16科18種		種数	10	12	10		18	
		個体数	53	104	79		236	

表3-6 野鳥調査部会調査結果 古山・沈殿地（ルート調査）

分類			確認数				合計
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季	
ペリカン	ウ	カワウ			1		1
コウノトリ	サギ	アオサギ		1			1
カモ	カモ	カルガモ	1				1
ハト	ハト	キジバト	1	2	3		6
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1	1			2
キツツキ	キツツキ	コゲラ	1		1		2
スズメ	ツバメ	ツバメ	15	15			30
		イワツバメ	9				9
	セキレイ	ハクセキレイ	2	5	3		10
		セグロセキレイ		1	1		2
		タヒバリ	1				1
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	14	7	13		34
	モズ	モズ			3		3
	ヒタキ	キビタキ	1				1
		ウグイス	2	1			3
	エナガ	エナガ	6				6
	シジュウカラ	ヤマガラ		1			1
		シジュウカラ	1	3	4		8
	メジロ	メジロ	3	1	5		9
	アトリ	カワラヒワ	1	15	9		25
		シメ			1		1
	ハタオリドリ	スズメ	24	14	46		84
	ムクドリ	ムクドリ	3	4	1		8
	カラス	ハシボソガラス	2	1	3		6
ハシブトガラス		1	1	19		21	
合計 7目 18科 25種		種数	19	16	15		25
		個体数	89	73	113		275

表3-7 野鳥調査部会調査結果 勝坂遺跡周辺（ルート調査）

目	分類		確認数				合計	
	科	種	春季	夏季	秋季	冬季		
ペリカン	ウ	カワウ	1				1	
コウノトリ	サギ	アオサギ		1			1	
ハト	ハト	キジバト	1	1	1		3	
キツツキ	キツツキ	アオゲラ		1			1	
		コゲラ	1	3	6		10	
スズメ	ツバメ	ツバメ	14	18			32	
	セキレイ	ハクセキレイ			3		3	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	8	33		47	
	モズ	モズ			5		5	
	ヒタキ	ヒタキ	ジョウビタキ			1		1
			ウグイス	2	3	1		6
	シジュウカラ	ヤマガラ	2	2	20		24	
	メジロ	メジロ	1	9	15		25	
	アトリ	カワラヒワ		3			3	
	ハタオリドリ	スズメ	32	36	33		101	
	ムクドリ	ムクドリ	7	6	2		15	
	カラス	カラス	ハシボソガラス		10	4		14
			ハシブトガラス	2	10	1		13
合計5目15科18種		種数	11	14	13		18	
		個体数	69	111	125		305	

表3-8 野鳥調査部会調査結果 麻溝台の畑地（定点観察）

分類			確認数				合計	
目	科	種	春季	夏季	秋季	冬季		
ペリカン	ウ	カワウ	1				1	
カモ	カモ	カルガモ	1				1	
キジ	キジ	コジユケイ	1				1	
		キジ	1				1	
ハト	ハト	キジバト	2	2			4	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	2	3	1		6	
	ツバメ	ツバメ	6	5			11	
	セキレイ	ハクセキレイ		3	3		6	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ		1	9		10	
	モズ	モズ			3		3	
	ヒタキ	ジョウビタキ			1		1	
	シジュウカラ	シジュウカラ		4			4	
	アトリ	カワラヒワ		4	3		7	
	ハタオリドリ	スズメ	11	7	30		48	
	ムクドリ	ムクドリ	5	2	4		11	
	カラス	ハシボソガラス			1			1
		ハシブトガラス	1	4	2			7
合計5目15科17種		種数	10	11	9		17	
		個体数	31	36	56		123	

第3章 かんきょう学習セミナー

1 第1回かんきょう学習セミナー

日時 4月20日(日) 午前9時30分～正午
場所 環境情報センター 学習室
参加者 45人

(1) 自然環境観察員制度について

本制度の目的や意義などについて、事務局から説明を行いました。

(2) 全体テーマ調査「野鳥の調査」について

調査の手引きにそって「野鳥の調査」の調査方法の説明をし、質疑応答を行いました。

調査の詳細は、資料編の「1 調査の手引き」をご参照ください。

(3) その他

環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」及びさがみはら環境まつりについて概要を説明し、参加を呼びかけました。

2 第2回かんきょう学習セミナー

日時 9月21日(日) 午前10時～正午
場所 環境情報センター 学習室
参加者 42人

(1) 講義「帰化植物について」

講師 秋山幸也さん(市立博物館)

(2) 全体テーマ調査「帰化植物(メマツヨイグサ等)の分布調査」について

調査の手引きにそって「帰化植物(メマツヨイグサ等)の分布調査」の調査方法の説明をし、質疑応答を行いました。

調査の詳細は、資料編の「1. 調査の手引き」をご参照ください。

3 第3回かんきょう学習セミナー

日時 3月20日(日) 午前10時～正午
場所 環境情報センター 学習室
参加者 44人

(1) 講義「ギフチョウって何？」

講師 石井 孝さん(株式会社エコロ)

(2) 平成20年度の全体テーマ調査結果について

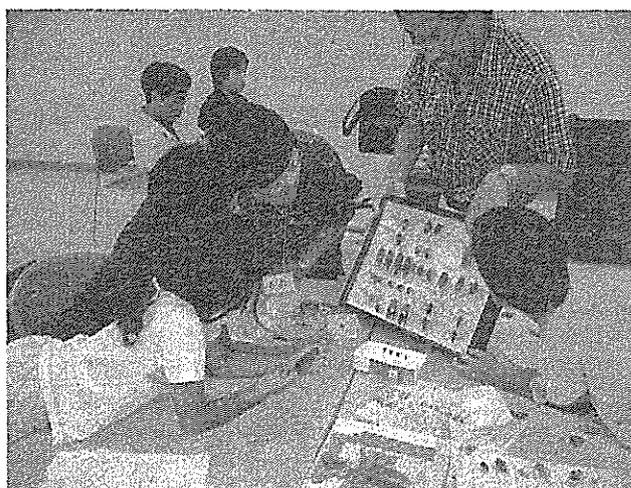
野鳥の調査及び帰化植物(メマツヨイグサ等)の分布調査の結果について報告しました。説明資料は、本編第2章に掲載されています。

第4章 その他の活動

- 環境情報センター事業協力者登録制度「エコネットの輪」の登録を延長しました。「相模原市の環境学習・環境活動プログラム集」へ昨年と同じ「小・中学校の校庭にある樹木・園芸種の観察会」「身近な植物観察会」「草あそびー草笛や草虫・笹舟づくりー」「インタープリテーション（IP）を体験する」「野生動物の生き方体験」の5プログラムを登録し、小・中学生を対象とした各種観察会や総合学習への支援などでの講師活動にご協力をいただきました。
- 環境情報センター主催事業「夏休み環境学校」の講師及び運営サポートにご参加いただきました。

観察員さんの活動は身近な生きもの調査以外においても、ますます大切な役割を担っていくことが期待されます。どうぞよろしくお願いいたします。

〈夏休み環境学校〉



「夏休みにセミ博士になろう！」

資料編

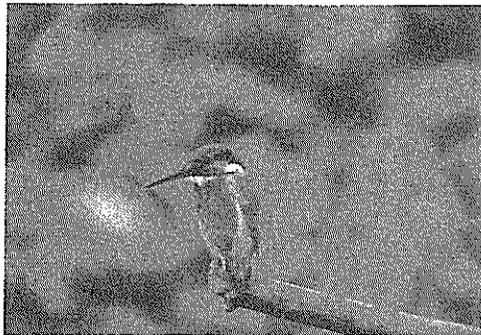
- 1 調査の手引き
- 2 自然観察かわらばん
- 3 ご意見一覧

平成20(2008)年度

相模原市自然環境観察員制度

身近な生き物調査

野鳥の調査
— 手引き —



はじめに

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな指標動植物種の調査を行ってきました。

今回は、平成15年度に調査を行った野鳥についての調査を行います。

春は冬鳥と夏鳥が入れ替わる時期、気の早い冬鳥たちは既に旅立ち、夏鳥や旅鳥などが次々に到着・通過して、4月から5月は春の渡りのピークになります。

また、春は多くの鳥たちの繁殖時期です。

パートナーを探したり、縄張りを守るため、サエズリをする鳥たちの声は自立ち住宅地にもウグイスやシジュウカラなどがあることに気付かされた経験があることでしょう。

春の暖かい日差しの中、繁殖時期の鳥たちがどんな場所にいるのか街にでて調べてみましょう。



相模原市立環境情報センター

1 野鳥と生息環境

野鳥は食物やねぐら、休息場所等の関係でそれぞれの種にあった環境に移動しながら生活しています。

清流の宝石と呼ばれているカワセミの餌は主に小魚、川面に突き出た枝や上空から魚を見つけてダイビングして捕ります。上空から泳いでいる小魚が見えるような澄んだ川や池などが餌場になります。

ねぐらは水辺近くの木の枝などです。

一時期、川が汚れて魚が少なくなったことや濁りで魚が見えなくなったりしたため、市内では相模川や八瀬川など限られた場所で見られなくなっていました。川がきれいになると共に生息範囲が広がり、今では境川の中流域でも見られるようになってきました。

市の鳥にヒバリが選定された昭和49年当時は、市内にも畑が多く残っていて春になればヒバリの声がかかしこから聞こえてきました。市街化が進みまとまって畑が残っている地域は少なくなっており、今ではヒバリの声の聞かれる所は限られてきています。

このように環境の変化と共に野鳥の生息状況も変化してきていますが、更に、繁殖期においては、安全に巣を維持できる場所と子育てに十分な餌を得られる環境が必要ですので、ほとんどの鳥は越冬場所と違う場所に移動して子育てをします。

今回の調査では、市内で見られる代表的な鳥の繁殖期における生息状況を調べ、環境の状況を考察してみましよう。

2 相模原市内で見られる野鳥

これまでの相模原市内における鳥類の生息についての記録は、早くは昭和57年、「相模原市の自然環境調査 ～鳥類について～」があり、170種類の観察記録が記載されています。その後博物館や神奈川野鳥の会などの報告がありました。

また、環境基本計画を策定するに当たり、平成10年から12年にかけて本市の自然環境の状況を把握するために行った自然環境基礎調査では、植物や昆虫、ほ乳類などと共に鳥類の調査し、91種類が確認されています。

これらの記録類を総合すると、約210種類がこれまで確認されており、神奈川県内約400種類、国内約600種類に比べて、海や山のない市域に

しては比較的多くの種類の鳥が観察されています。それらの鳥のうち、最近、市内で繁殖しているものは約40種類であり多くはありません。

比較的多くの種類の野鳥が出現する理由としては、水辺として相模川とその周辺の田んぼ、鳩川や境川などの中小河川、沈殿池など、また樹林地として相模川の段丘林や大野台の木もれびの森など、小規模ながら多様な自然環境があり、越冬に適した場所や渡りの時に一時的に休息できる環境があることによるものと思われます。一方、繁殖している鳥の種類が少ない理由としては、子育てに十分な餌や安全に巣づくりのできる環境が少ないことによると思われます。

3 調査種類

今回の調査では市内で繁殖している野鳥のうち、比較的馴染みがあり、環境指標性のある次の6種類の野鳥について、繁殖時期に当たる4月から5月の生息状況を調べてみましょう。

○ キジバト

外観 …大きさはドバト（飼いバト）とほぼ同じ大きさ。全体がブドウ色、翼や背の赤茶色の鱗模様と首の縞模様が特徴。

似た種類 …ドバト、アオバト

生息環境 …森林や農耕地、高木のある市街地など

声 …デーデーポッポー・デーデーポッポー……と繰り返して長く鳴く。ブチーンという糸をはじくような声も出す。

識別ポイント…大きく自立つ鳥なので姿をしっかりと見て、翼や背の赤茶色の鱗模様か首の縞模様を確認する。飛んでいるときはブドウ色の腹部と尾の先の白い縞を確認する。声も特徴があるので聞きなれば間違える事はない。

○ ヒヨドリ

外観 …大きさはドバトより小さく、ほっそりしてして尾が長い。全体が黒灰色で頬の部分に赤褐色の模様がある。

似た種類 …特にない。

生息環境 …森林や高木のある市街地など

声 …ピーッ又はピーヨ、ヒョーロロなどとやかましく鳴く。

識別ポイント…姿をしっかりと見られれば間違えやすい鳥はいない。飛ぶときは波型に深く上下して飛ぶ。

○ コゲラ

外観 …大きさはスズメよりやや大きくズングリしている。背中の白黒模様が特徴。

似た種類 …アカゲラ。(調査時期にはほとんどいない。)

生息環境 …樹林地

声 …ギー、ギー又はギー・キッキッと鳴く。

識別ポイント…背中の細かな白黒の模様が確認できれば、混同する鳥はない。木の幹に縦に止まる。ギーという声と共に確認すれば間違えない。

○ シジュウカラ

外観 …大きさはスズメと同じくらい。背中は灰青色、腹部は白で中央に黒の線がある。頭は黒く頬は白い、首筋は緑色っぽい。

似た種類 …ヒガラやコガラ、ヤマガラなどのカラ類とゴジュウカラ(調査時期に市内で見られるのはヤマガラのみ)

生息環境 …樹林地や木の多い公園、住宅地

声 …ツーピー、ツーピー…又はツツピー、ツツピー…とさえずる。チッ、チーなどと鳴き、ジュクジュクと濁った声も出す。

識別ポイント…腹部が白く中央に黒の線が見られれば間違いない。横からの場合は背中の灰青色と頭の黒、頬の白と共に首筋の黄緑色を確認する。声だけの場合はジュクジュクと濁った声が聞かれれば間違いない。ヤマガラは同じように鳴くので気をつけよう。(ヤマガラはゆっくりツツピー、ツツピー…とさえずり、チッ、チーなどともにニー、ニー、ニーと鼻にかかったような声を出す。)

○ カワセミ

外観 …大きさはスズメより大きくズングリしている。くちばしは黒くて大きい。背中は青色、翼は緑色で腹部はレンガ

色。

似た種類 …特にない。

生息環境 …水のきれいな川や池などの水辺

声 …ツイーッと鳴く。

識別ポイント…色と体形に特徴があるので姿を見られれば間違えることはない。声は単純なため姿を見つけるための目安に使いたい。

○ ヒバリ

外観 …スズメよりやや大きい。全体が黄褐色の濃淡のある模様で胸に縦斑がある。驚くと冠羽を立てることもある。

似た種類 …ホオジロやカシラダカなどのホオジロ類、タヒバリなど

生息環境 …芝生状の乾いた草原や農耕地(畑)

声 …ピーチビピーチビピーチビ……と長く鳴く。ピュリッという声も出す。

聞きなしは「ピーチク、パーチク」「日一分、日一分」など

識別ポイント…姿で識別するのはかなり難しい。サエズリながらの飛翔は特徴があるが、地上では胸の縦斑や冠羽を確認する。飛びながらのほか地上の小高い場所や杭の上などでさえずる。

4 調査のしかた

(1) 調査期間

4月25日から5月31日まで

(2) 課題調査の方法

ア 調査準備

決められた調査区の地図を参考に調査経路を決める。

注1：調査区は500m×500mのメッシュになっています。

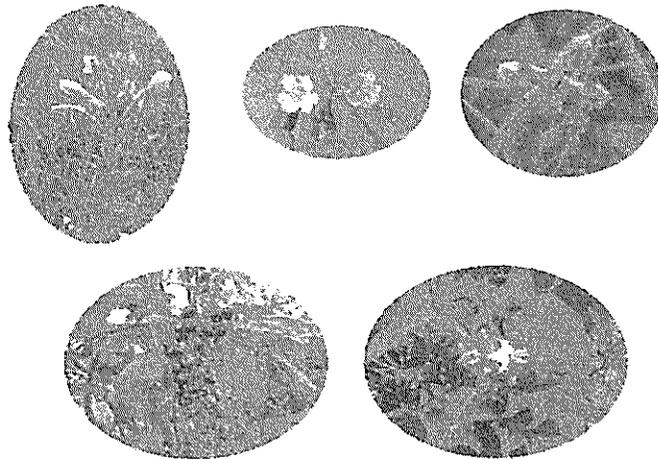
基本的には中央部付近を通る500m以上の経路になるように設定してください。

イ 現地調査

アで決めた調査経路に沿って、時速1～2km程度の速さで、ゆっ

平成20(2008)年度
相模原市自然環境観察員制度
身近な生き物調査

帰化植物の調査
— 手引き —



相模原市立環境情報センター

はじめに

自然環境観察員制度では、これまでにさまざまな指標動植物種の調査を行ってきました。

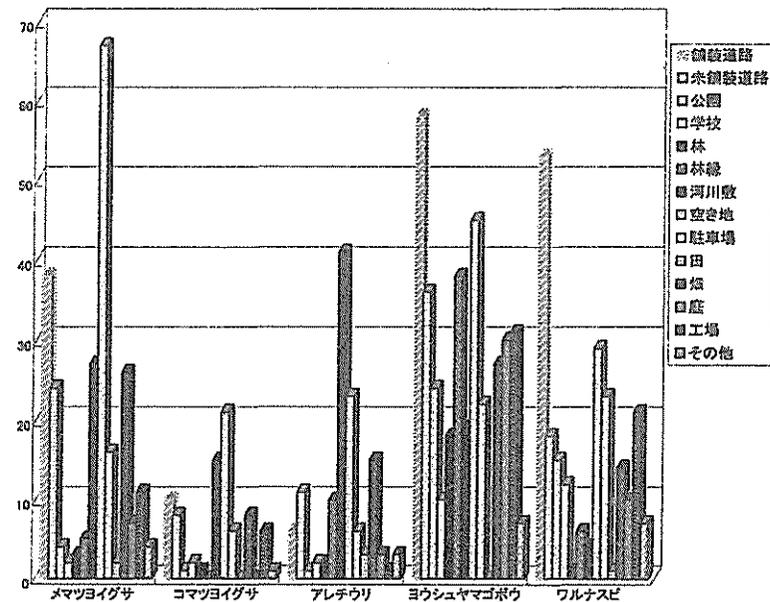
今回は、平成15年度に調査を行った帰化植物についての調査を行います。

調査を行う帰化植物は、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、アレチウリ、ヨウシュヤマゴボウ、ワルナスビの5種類です。

メマツヨイグサやアレチウリは河原などで群落が見られ、その他の種類も路傍などのちょっとした草地で見られる馴染みの深い植物です。

平成15年度の調査における調査対象帰化植物の周辺環境は、下のグラフのような状況でした。

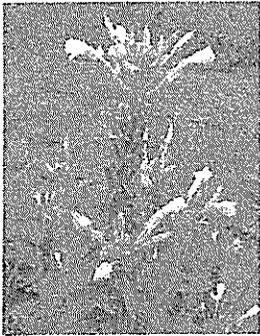
さて、今回の調査では、どのような状況が見られるのでしょうか？



1 調査する植物

今回の調査では、平成15年度に調査を行った帰化植物と同じ、以下の5種類の帰化植物について、その生育環境等を調べます。

(1) メマツヨイグサ



(外観)

茎は基部で分岐し直立して、草丈は 30~150 cm になる。群生した場合には分岐は少ない。葉は莖葉のない披針形又は楕円形で、縁は波状の鋸歯がある。直径 5 cm 位の 4 花弁、淡黄色の花をつける。

(生育環境)

河原や空き地、休耕している畑など

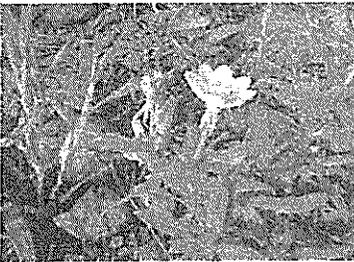
(似た種類)

オオマツヨイグサ

(識別ポイント)

オオマツヨイグサの花は直径約 8 cm と大きく、中央葉脈は赤味を帯びないが、メマツヨイグサでは、しばしば赤味を帯びる。

(2) コマツヨイグサ



(外観)

茎は基部で分岐して地面を這うか斜上し、高さ 20~60 cm になる。葉は無柄で線形、縁は不規則な鋸歯となるか又は、波状に中裂している。直径 5 cm 位の淡黄色の花を咲かせ、しぼむと黄赤色になる。

(生育環境)

河原や道端、空き地、畑など

(似た種類)

メマツヨイグサ

(識別ポイント)

メマツヨイグサは直立し地面を這わない。また、しぼんだ花は赤みを帯びない。

(3) アレチウリ



(外観)

つる性で巻きひげで他の植物に巻きつき、数 m に達する。葉は心形で両面ともに多毛でざらつき、3~5 浅裂する。花はクリーム色で小さく目立たない。果実にはやわらかい刺があり、数個集まってつく。

(生育環境)

河川敷、休耕している畑など

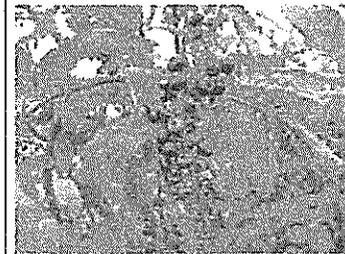
(似た種類)

カラスウリ

(識別ポイント)

カラスウリの葉は深緑色で、縁の鋸歯が目立つ。また、果実は大きく、1 つずつなる。クズの葉は 3 出複葉で、花は紫色で芳香がある。

(4) ヨウシュヤマゴボウ



(外観)

茎や葉柄は赤紫色を帯び、よく分岐して草丈 2 m 位になる。葉は先の尖った楕円形でやや多肉質。全草無毛。房状に花弁のない花を付け、果実は黒紫色に熟する。

(生育環境)

林縁、空き地、休耕している畑など

(似た種類)

ヤマゴボウ

(識別ポイント)

大型の植物体で赤紫色の茎や葉柄が特徴。ヤマゴボウの茎や葉柄は赤紫色を帯びない。

(5) ワルナスビ



(外観)

地中の根茎から地上茎を伸ばし、草丈40～80cmになり、葉の裏面の脈上や茎、花序などにすどい刺がある。葉は広披針形で中裂する。花は節の間から出た枝に5～10個つけ、ナスのような形で、色は白～紫色、おしべの黄色が目立つ。果実は球形で約1.5cm、熟すと橙黄色になる。

(生育環境)

空き地(駐車場)、畑など

(似た種類)

特に無し(ナスに似る。)

(識別ポイント)

広披針形で中裂した葉の裏の中央葉脈上にすどいトゲがあり、ナスのような花が特徴。

2 調査のしかた

(1) 調査期間

平成20年9月23日(火)から10月31日(金)まで

(2) 調査の方法

担当メッシュ内で、河川敷、土手、空き地、畑の周辺、線路や道路沿いなど、帰化植物が生えていそうな場所を探す。

(3) 調査票への記入

調査対象の植物を見つけたら、その場所を調査票の地図上に記入し、該当する生育環境について、調査票の生育環境の中から選んでください。

(庭等に明らかに植栽しているものは除外してください。)

(注意1) 生育環境の記入についての注意点

- ・線路脇は「2 道路脇(未舗装)」に含めてください。
- ・休耕田は「10 水田」、休耕している畑は「11 畑」としてください。

・マンション等の植え込みは「12 民家の敷地」としてください。
(注意2) 地図の記入について

・赤のボールペンで調査対象種類別に以下の文字を記入してください。

調査対象種	記号
メマツヨイグサ	メ
コマツヨイグサ	コ
アレチウリ	ア
ヨウシュヤマゴボウ	ヨ
ワルナスビ	ワ

(4) 調査用具

手引書、調査票、筆記用具、観察員証など

3 調査票の提出について

調査票は、お配りしてある封筒に切手を貼付し、11月14日(金)までに、投函してください。

帰化植物分布調査 調査票 (2008年度)

調査日：平成20年 月 日() 天候： 調査者：

メッシュ番号	A04	調査地名	※目印など 華蔵院、森下バス停
--------	-----	------	-----------------

植 物 名	生育環境			備 考
メマツヨイグサ	1 道路脇(舗装) 2 道路脇(未舗装) 3 公園、グラウンド 4 学校 5 林、森	6 林縁 7 河川敷、川の土手 8 空き地 9 駐車場 10 水田	11 畑 12 民家の敷地 13 工場、事業所の敷地 14 その他 ()	
コマツヨイグサ	1 道路脇(舗装) 2 道路脇(未舗装) 3 公園、グラウンド 4 学校 5 林、森	6 林縁 7 河川敷、川の土手 8 空き地 9 駐車場 10 水田	11 畑 12 民家の敷地 13 工場、事業所の敷地 14 その他 ()	
アレチウリ	1 道路脇(舗装) 2 道路脇(未舗装) 3 公園、グラウンド 4 学校 5 林、森	6 林縁 7 河川敷、川の土手 8 空き地 9 駐車場 10 水田	11 畑 12 民家の敷地 13 工場、事業所の敷地 14 その他 ()	
ヨウシュウヤマゴボウ	1 道路脇(舗装) 2 道路脇(未舗装) 3 公園、グラウンド 4 学校 5 林、森	6 林縁 7 河川敷、川の土手 8 空き地 9 駐車場 10 水田	11 畑 12 民家の敷地 13 工場、事業所の敷地 14 その他 ()	
ワルナスビ	1 道路脇(舗装) 2 道路脇(未舗装) 3 公園、グラウンド 4 学校 5 林、森	6 林縁 7 河川敷、川の土手 8 空き地 9 駐車場 10 水田	11 畑 12 民家の敷地 13 工場、事業所の敷地 14 その他 ()	

特記事項



自然観察かわらばん

植物調査部会版 Vol.7
平成 20 年 11 月発行

「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報をお伝えし、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。

カワラノギクの生育実験（調査）の補助と保護活動をしました



植物調査部会では、平成 15 年度（2003）から継続して、カワラノギクに係る部会等を開催しています。カワラノギクは、市内では 6 年（1994）以後の確認がとれていみせんでしたが、16 年に相模川神沢地区で確認されました。これを機に、今年度も継続して市立博物館と連携し、神沢地区にあるカワラノギクの保護地の除草作業を有志で実施しました。また、今年度は、市立博物館とカワラノギクを守る会（代表 河又猛さん）が中心となり同地区でカワラノギクの生育実験を行ったので、神奈川県との協力により設けられた実験地の除草作業も実施しました。

実施日	内容
4 月 4 日	（実験地の種まき）
4 月 11 日	保護地の苗植えと種まき
5 月 23 日	第 1 回部会 発芽調査
6 月 24 日	第 2 回部会 発芽調査（補完）
8 月 28 日	第 3 回部会 草刈り
10 月 29 日	第 4 回部会 観察会

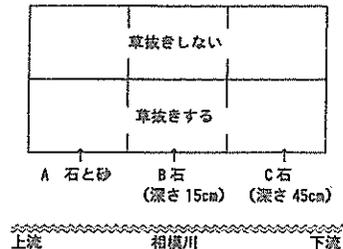
4 月 11 日 保護地の苗植えと種まき

保護地は昨年 9 月の台風で鉄杭ごとすべて流されてしまったためロゼットは残っていませんでしたが、芽が出る可能性があるので場所は同じままで範囲を今までの 10m×10m から 15m×15m に広げました。今年度の自然環境観察員制度全体説明会前



でしたので、部会とせず昨年度の植物部会員にお知らせしました。苗植えと種まきの終了後、保護地から少し下流にある実験地へ移動し、実験について市立博物館の秋山学芸員から説明していただきました。

実験地は、30m×15m に囲み、その中をさらに 6 つに区切って、A（川の上流側）は石と砂を混ぜたところ、B（真中）は深さ 15cm まで掘って石を入れたところ、C（川の下流側）は深さ 45cm まで掘って石をいれたところとし、それぞれ 2 等分して川に近い側は草抜きをし、もう一方は草抜きをしない区画としました。“カワラノギクの生育にはどの程度手をかける必要があるのか”の調査です。



5 月 23 日 第 1 回部会（発芽調査） 6 月 24 日 第 2 回部会（発芽補完調査）

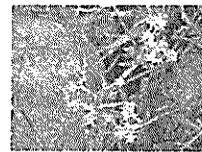
実験地に撒いた種の出芽調査を、5 月に行いましたがあまり芽が出ておらず、6 月にもう一度行いました。調査終了後、保護地と実験地の草刈りも行いました。発芽調査の結果は、A（石と砂）の区画が一番発芽率がよいだろうとの予想がはずれ、B（石 15cm）の丸石を敷き詰めたような区画が一番芽を出していました。C（石 45cm）ではカワラノギクも、その他の草も芽が出ていませんでした。

8 月 28 日 第 3 回部会（草刈り）

コセンダングサなどの種が落ちる前に除草作業をしました。植物部会員のほか、カワラノギクを守る会のメンバーや神奈川県職員など 18 人で作業を行いました。曇り日差しの下でしたが、秋に咲く薄紫色の花を楽しみに作業に励みました。実験地の A と B を比べると、雑草も B のほうが多く生えていました。



10 月 29 日 第 4 回部会（観察会）



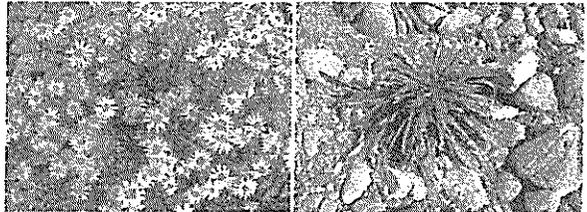
カワラハハコ

実験地で花を咲かせた株とロゼットの数の計測と、実験地と保護地周辺に咲いたカワラノギクの観察を行いました。実験地の B の草抜きをしない場所でカワラハハコの花が咲いていました。

今回の実験の結果、A はカワラノギクが生育できない環境ではありませんが思ったほど良い条件でもない——、つまり日かげのない河原で生長するには保水するための隙間の存在が必要であることがわかりました。当初の予想に反して B が一番であり、自然の河原と同じような状況であることが生育にはよいということがわかりました。C は全くダメという結果でした。

区画	草抜き	花株数	ロゼット数
A （石と砂）	した	2	1
	しない	0	1
B （石 15cm）	した	10	0
	しない	0	1
C （石 45cm）	した	0	0
	しない	0	0

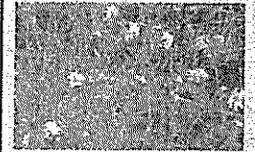
実験地と周辺の観察を終えた後、上流に向かって移動し保護地に咲くカワラノギクの観察も行いました。保護地では、開花株が 32、ロゼットが 21 ありました。開花は 11 月末ごろまで続きますので、ぜひ観に行ってみてください。



今年度のカワラノギクの保護活動はこれで一旦終了ですが、来年 3 月下旬頃から種まきや苗植えなどの作業を進めていきたいと思っております。

環境情報センターの カワラノギク

秋に入る前までは、プランターからはみ出るほどの勢いで生長し開花が楽しみだったのですが、虫に葉を食われて弱ってしまいました。11 月に入ってからやっと小さい花が咲き始めました。少しずつ咲いていきそうなので、長い期間楽しめるかもしれません。お近くいらっしやうした時にはぜひお立ち寄りください。



（11 月 20 日撮影）

相模原市環境保全部環境対策課 環境情報センター
〒229-0036 神奈川県相模原市富士見 1 丁目 3 番 41 号
電話：042-769-9248 FAX：042-751-2036
アドレス：kankyou-center@ci.ty.sagamihara.kanagawa.jp 担当：中島
ホームページアドレス http://www.eic-sagamihara.jp/

相模原市自然環境観察員

自然観察かわらばん

湧水調査部会版Vol.8
平成21年1月発行

◆「かわらばん」は、観察員の皆さんから寄せられた貴重なご意見や情報を交換させ、今後の調査をより良いものにしていくために発行しています。

平成20年度 第1回湧水調査（豊水期）を実施しました！

湧水調査部会では、さる9月28日（日）に、「フィッシングパーク上」から「勝坂遺跡」までの市内7地点で湧水調査を実施しました。一日中曇りで肌寒い日でしたが、14名の観察員さんにご参加をいただき、無事調査を行うことができました。各観察員は「水質調査」「植物調査」「水生生物調査」の3班に分かれ、班同士で連携しながら調査を進めました。

今回の調査箇所は各湧水地点とも比較的水量が豊富で、セキショウやナガバジャノヒゲ等の湿地を好む植物や、サワガニやトビケラといった水生生物が確認できました。特に相陽中裏の湧水では、ゲンシボタルの幼虫も見つけることができました。一方では外来種のコモチカワツボが生息している湧水もあり、今後の生態系への影響が懸念されます。



勝坂遺跡での調査（水質調査班）

足元の悪い場所も多い中、事故も無く終了できたことも含めまして、参加された皆様にお礼申し上げます。

なお、次回の調査は湧水期の1月末に行う予定です。残念ながら豊水期は欠席された方も、次回はふるってご参加いただけますようお願いいたします。



今回参加された調査員の方々（順不同）

- ・水質調査班（浅野さん、池川さん、岡野さん、齊藤さん、中川さん）
- ・植物調査班（袴野さん、岩田さん、川崎さん、西田さん）
- ・生物調査班（貝瀬さん、木村さん、小林さん、武田さん、横木さん）

相模原市自然環境観察員制度に関するご連絡は、以下にお願いします。

相模原市環境保全部 環境対策課 環境情報センター

〒229-0036 神奈川県相模原市富士見 1-3-41

電話：042-769-9248 FAX：042-751-2036

アドレス：kankyou-center@city.sagami-hara.kanagawa.jp 担当：豊野、柴崎

※この会報は、湧水調査部会の会員の方にお送りしています。ご意見・ご感想をお聞かせください。

ご意見・ご感想 〈野鳥の調査〉

分類	項目	内容
感想	意識の変化	初めて参加して野鳥の声がよくわからなかった。3回（3日）ほどトリトリーを回りましたが、キジバトとドバトの区別がつかなかった。日中も注意して鳥を見る習慣がついたかなと思います。鳥を見ると必ず立ち止まってしまうようになりました。
		今回の調査は観察員になってから3回目となると思う。3年前に比べたら今回は道路用地となったところや、宅地化が進んだことから鳥がいなくなったとつくづく感じました。たしか5年前はヒバリがさえずっていたが今回はまったく鳴き声が聞こえなくなっていました。また、家の近くでも今回調査対象の鳥は見る事ができず残念でなりません。
	驚きました	〔H07〕にはキジがすんでいた！何回か（前のテントウムシ調査か？）確認しているが、今回は2羽見ることができた。林の中でもないこんなところによくいるなとつくづく思った。
		ヒバリ、カワセミは市街地で普通に見られる身近な野鳥ですが、調査したときには全部見られないこともありました。意外でした。
		ヒバリについて生産緑地及び畑にて農作業をしている人に聞いたが、最近、鳴き声、姿も見たことが無いとは驚きました。
		市の中心部から離れたいわゆる田舎のような地域でもちょっとした空き地、畑に住宅が建った。年に2度は訪れる場所だが、いつの間にか、今回変化に驚いた。キャンプ座間ふちに接する樹林帯は私有地なのだろうか？樹林が伐採されて通信アンテナ2基建っていた。鳥のすみにくい世界になってゆくナ～という感じ。実際鳥の種類は少なかった。どこでもスズメが目についた。
	こんなことがありました	3日間連続で午前5時より午前7時まで調査する。地域のほとんどは住宅地であるが、スズメの多いのにびっくりした。
		法性寺〔H05〕～〔G05〕のすみの木の中に巣があるらしく、前の道路脇の桜の木に餌をくわえてくるシジュウカラをしばらく追ったが、巣のありかはわからなかった。目立たないように（当たり前だが）……むずかしいとつくづく思わされた。
		調査中にキジ（オス）が歩いて道路を横切るところを見ることができました。朝日を受けてとてもきれいでした〔T19〕。〔S18〕では、キジの鳴き声（ケン、ケーン）が沢山聞こえました。
	うれしかった	淵野辺公園芝生広場わきのツバキの木にキジバトが巣をつくりました。この時期からヒヨドリがキジバトを襲うようになり、とうとうキジバトは巣を放棄してしまいました。ヒヨドリはこの木に巣をかける様子はなし。ナワバリ意識？から、キジバトがこの辺をうろうろするのをきらったのかしら。今月（5月）は上空をハヤブサのつがいが飛ぶのを見ました。めずらしい光景です。カルガモのつがいが芝生公園に寄っていききました。この辺に水のたまる場所はないので、鹿沼公園からでも飛んできたのか？つがいが離れずにいるこの時期には、こうしたハプニングがあるんですね。
		早朝、川のほとり、公園などを歩くのは、とても気持ちよかった。何気なくきいていた鳥の声に耳をすますと、実にいろいろな鳥語があることを気づかせていただき感謝します。相模原はまだまだ自然が豊かだと改めて感じました。
		自分の担当地域〔S18〕〔T18〕〔U18〕〔T19〕〔U19〕〔U20〕では久しぶりにヒバリの声を沢山聞くことができました。しかし、自宅近辺ではヒバリの声などついぞ聞いたことがありませんでした。
		毎年ツバメの営巣場所に今年も子育て姿を確認できよかった。〔N15〕（清流の里周辺）の畑地では予想通り、キジ、ヒバリの声を確認できよかった。ムクドリ、ツバメの巣へのエサ運び、ツバメ、コゲラ、シジュウカラの巣立ちピナを確認できよかった。

分類	項目	内容
感想	うれしかった	子育てしている野鳥の姿を実際に見ると、この季節5月の自然の豊かさを感じ、身近で見慣れているありふれた樹木群・水辺等が生き生きと目に映り、愛しく思います。
		今回調査ではヒバリとカワセミの観察ができなかった。私は援農で市内各地区の田畑へ出向きますがヒバリは良く見かけますので不思議でした。カワセミは小倉橋の下でよく見かけるが担当区域では観察できませんでした。観察は2～3回行う計画をしていましたが、5月は雨降りが多く繰り返し観察することができませんでした。今年はずわやかな5月を感じませんでした。肌寒く晩春のような気候が続きました。観察で歩いていると「今年はツバメがたくさん来ているよ」と声をかけてくれる人がいました。前回のツバメ調査を覚えていてくれたらしくうれしかったです。
		自分の調査地域には、カワセミはいないと思っていましたが、このたび、鶴森団地〔N26〕横の境川にてカワセミを見たことが一番感激しました。
		今回相模川でのことですが、カワウやサギ類が多数見られたことに感激しました。カワセミは見ることではできませんでした。
		今回、ヒバリを見ることができ、ちょっとうれしかったです。小さい頃読んだ物語の中に「鳴き声はするのに姿が見えない。でも真上を見上げると飛んでいる」というような話が出てきていて、本当に真上を見るとホバリングしているので思わず笑ってしまいました。住宅地に囲まれた100メートル四方もないような草地で無事に子育てができたりするのか（そもそも相手がいるのか？）とても気がかりです。カラスも多いので、無事ヒナが育つといいなと思います。
		市の鳥ヒバリは市内のどこにでも沢山いるのかと思っていましたが、なかなかいないものですね。自宅の周りには、ヒヨドリやキジバトが多いですが、調査区には自宅付近より少なかったです。運良くコゲラを見つけることができました。立ち止まって、なんとなくエノキの木を眺めていたら、目の前の枝（距離1mくらい）にとまったので感動でした。すぐにいなくなりましたが、特徴のある模様が残像として目に焼きつきました。カワイイので、写真に撮ればよかったなあとと思います。
	調査中、人との出会い、草、木との出会いも本当に多くあり何よりよかったです。捕虫網を持った35年歴蝶採集の人が鳥の名も良く知っており、エナガ、ガビチョウなどのことも教えられた。春の草花、秋の草花の時の草花の芽吹きなどを見られた。何とか今年も継続して観察できたおかげです。	
	楽しかった	さえずりの時期だったので、迷うことなく区別もはっきりでき、楽しみながらできました。麻溝地区は、八瀬川流域の水質もよく、カワセミも観察でき、私は毎月2回くらい定点観察をしています。この地域（八瀬川周辺）の田、畑、段丘、崖も残り、ヒバリの鳴き声も聞くことができ、素晴らしい。この自然がいつまでも残ることを願っています。
	苦労しました	<p data-bbox="547 1675 1393 2011">今回の観察で対象の鳥がほとんど見られなかった。時期が少し遅れたためか？自宅では早朝にカラス、コジュケイ、ヒヨドリ、シジュウカラがよく鳴く。ウグイスは少し前に鳴いていた。例年カッコウが鳴くが今年は未だ聞いていない。野鳥は姿を見ることはなくとも鳴き声は聞こえてくる。声だけだと雄雌で差が出てしまう（雄のほうが目立つ）。また距離があっても声はかなり遠くまで届く。観察としては公平性に欠けることになる。今回は午前中に観察をしたが時間帯によっても違ってくる。4～5時の夜明けには鳥はよく鳴く。高血圧症で早朝に歩くのはよくないと医者から止められている。半月前より目の硝子体に濁りが出る飛蚊症を発症し、飛ぶ鳥と誤ることもあり難しい。（5月27日）</p> <p data-bbox="547 2022 1393 2072">この時期緑が濃い（葉が多い）ので林の中にいる鳥は見つけがたかった。生産緑地が多い地域には、高い木及び林も少なく、調査に苦労しました。</p>

分類	項目	内容
感想	苦勞しました	シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリは調査区域内にいたと思いますが、姿の確認ができませんでした。鳴き声で判別しようと、鳴き声を頭にきざみつけ調査に出ることを数度試みましたが、判別不可でした。調査が半端となり申し訳ありませんでした。
		スズメが多く、ヒバリの姿を探すことは難しい。メッシュ内でも、保存林、畑、住宅地があり、それぞれの環境により、主な鳴き声が変わる。電線等、少し距離が出てくると、肉眼では、ヒヨドリとムクドリの判別が意外と難しい。磯部にある市立相陽中では、大人のヒバリがピーチクと鳴いていて非常にわかりやすいのだが、このメッシュで聞いたヒバリはおそらくヒナだと思ふのだが、ヒバリのヒナの鳴き声に近い鳥（ヒナ）がいれば確認しておきたいと思う。県立相武台高校周辺でもヒバリが鳴いていた。
	残念でした	カワセミは声のみの確認で、姿が見られなかったのは残念。連休の頃、調査できれば夏鳥の渡りも楽しめたと思うが、諸々の事情、雑用等で実現できず、5月末になってしまったのは残念。期待していたアオバズク、ツミの姿を確認できなかったのは残念。
		ヒヨドリは声も大きく見つけやすかったのですが、もっとたくさんいると思っていたシジュウカラやキジバトがあまり見つからず、残念でした。調査対象種以外には、ツバメやムクドリ、スズメが多く見られました。鳥の鳴き声がなかなか覚えにくいものも多く、また子どもを守ろうとしている声は違った。よく覚えていないため、見分けにくい鳥、知らないものは残念（子どもなのか他の鳥なのか迷う）。
	勉強になった	今回の調査が野鳥とのこと、正直言って困りました。野鳥はよく鳴き声と実物が分かりませんので。ただ、いつも朝、よく電線にとまって鳴いている鳥がシジュウカラとわかりました（望遠鏡で確認）。数年前にドラミングをしているコゲラを見たことがありましたが、そのときはすごく感激いたしました。私の家の近くには、まだまだ林や木が多いのでウグイスやキジバトの声が比較的聞くことができるのではと思っています。ムクドリは多いです。
		野鳥は全く不慣れでしたが「日本の野鳥図鑑（ナツメ社）」のCDで特にコゲラの声の耳慣らしをしました。このたびの調査で私の近くの林で春から夏にかけて特徴のある（愛嬌のある）声で鳴く野鳥が『コジュケイ』であることを知りました。昨年度の七草、セミも含めて目と耳が自然に対して敏感になってきたように思います。
	疑問	時間帯によって小鳥の数及び種類が異なるような気がするのですが問題ないのかなと思いました。
		また、今回、メジロのような小鳥を見たのですが、冬に見られるような集団の行動や鳴き方でなく、一羽できれいな声でさえずっていたので、本当にメジロなのか？と思います。ヒヨドリは、この時期よく鳴くように思いますが、他の季節にはあまり鳴いている印象がないのですが、気のせいでしょうか。鳴き方が季節によって変わることもあるのか疑問に思いました。
	その他	今までの5月は、五月晴れと言って晴れの日が多かったように思います。今年はいもりや雨の日が多かったような気がします。天気と自分の休日と相談しながらどうにか割当区分のところをまわりました。ゆっくりの足どりでまわりの鳥の声に耳を傾けながら歩くのもストレス解消になりました。
		小山スポーツ公園の周りには、車が多く、草地になり、緑の多い大きな木がなくなり、小鳥の姿も声もとても少なくなりました。自然を残すことが、鳥や虫、昆虫類をも育てていることを多くの人に知ってほしいです。
その他	観察記録	鳴き声を聞いてから探し見つけるということが多かった。電線やアンテナだと見つけやすかった。

分類	項目	内容
その他	観察記録	<p>4月29日、5月14日・15日・26日とまわりました。雨上がりは日差しが強いとなかなかできません。巣立ちの鳥を仲間以外の鳥が追い回しています。仲良く親子でまたはオスメスでじゃれあっている様子でした。タイミングよく鳥と出会うことが難しかった。シジュウカラは風もなく暖かく穏やかな時しか出会わない気がしました。さえずりがとてもかわいいとずっと見ていました。</p>
		<p>まだまだ5月31日まで時間があると他のことに気をとられていたら、あっという間に月末、足を痛めたこともあり、ぎりぎりでした。一番近い〔009〕(望地付近)が手薄になってしまい、調査時間も昼頃で見られたであろうコゲラ、キジバトも見なかった。対象種以外には、子育ての時期と重なりツバメはもちろんのこと、ムクドリがやかましいくらいにえさを運んだりしていた。ガビチョウも姿は確認していないが鳴き声をたびたび聞いた。キジも姿と共に鳴き声をよく耳にした。</p>
		<p>今回は、私が出かけられる日が雨、雨。別の日にとっているうちに期限がせまり、また、夫が体調を崩して午前中は医者への付き添いが多く、午後に出歩くことが多く、普段たくさん見ているカワセミ、カワウに会えなかった。カルガモも留鳥になってしまい、親子連れに合えず、ツバメもエサ取りの飛び姿しか見られませんでした。古淵に一軒、巣と確認できるかなの所は出たり入ったりの姿だけでした。が、境川沿いは桑の実の一番熟すとき。ムクドリがたくさん集まり、ヒヨドリ、カラスと食べるとき、すみ分けて実を食べる(それほど何本もの桑の木があるので)姿。サイクルロードに落ちた実に集まり、人、自転車が通ると樹上に飛び上がりにぎやかでした。(6月13日 日記)</p>
		<p>車の多いところなどにはほとんどいなく、耳をすまして鳴き声だけが頼りだった。カラス、スズメ、ドバトはいるが、(調査対象種は)ほとんどいない(ドバトとは、昔、人に飼われたハトが飼うのをやめたハト、捨てられたハトのことという教わったことがありました)。お昼近く、境川でカラスが水浴びしていた。カラスもやっぱり暑いのか・・・と思った(2羽)。家の近く(町田の市民公園)を通りかかったらキジバトが鳴いていた。本日6時半家を出たら雨だったのでやめて、ヘアダイをした。日曜日でも予定がいっぱい。今回は日がさまっていてあわただしかった。もう少し早くから分かっていたらと思いました。空を見上げることなどほとんどなく、小さい鳥を見分けるのはなかなか難しいことですね。</p>
		<p>観察中、午前中だけでなく、昼すぎまで野鳥が多く見られました。ヒヨドリは、比較的どこでも見かけました。対象ではありませんが、オナガやムクドリ、ツバメ、メジロなども多く見られました。ムクドリは、キジバトと同じ領域でエサ取りをしていました。植物や昆虫に比べると動きがあるので確認がしづらい点があります。</p>
		<p>調査日：5月22日(晴れ)午前7時頃からにもかかわらず、通常見かける野鳥が見られなかった。「上鶴間8丁目ふれあいの森」は、何気なくしているときは、コゲラなどが散見されるのだが残念ながらシジュウカラ、ヒヨドリ、キジバト、コジュケイしか観察できなかった。また、視認できたのは、シジュウカラ、ヒヨドリ、キジバトで、コジュケイは「地鳴き」であった。</p>
		<p>5月の初めと5月24日の2回、調査にまわったが5月24日に多く見られたので5月24日分を報告します。今回はヒバリの上空でのさえずりを見ることができ、まだまだ自然は残っていると感じました。こもればの森は鳥の種類も数も多く、やはり小鳥にとっては森や林が生活の場と感じました。調査対象種のほかに、こもればの森ではコジュケイ、ムクドリ、メジロ、カラス等も見ることができました。今回の調査で感じたことはヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ、キジバトはかなりどこにでも生息していると感じました。残念ながらカワセミは水場がないせいが見ることができませんでした。</p>

分類	項目	内容
その他	観察記録	調査地域では、スズメやツバメより、ヒヨドリがまんべんなく多数をしめていました。コゲラは街中に普通にいたることがわかりました。数年前、隣家の桃の木に巣を作ったことがありました。驚いたのはヒバリでした。突然、上空でさえずりはじめました。どこから飛び立ったかは不明です。一時少なくなったオナガが戻ってきたように思います。境川沿いの高木にいるのを何度も目撃しました。カワセミはもう少し上流で毎回のように見ていますが、ここでは見えませんでした。通行人は見ているということでした。
		午前8時30分～10時30分ごろを心掛けたが、遅くなるとあまり鳴き声がないことが多い。時間・天気が左右するようだ。カラスは日の出前から、スズメはわりと遅いが夕方にもよく鳴いている。
	情報	カワセミは境川で時々見かけますが、ヒバリは近年見かけたことがありません。但し、友人の話では橋本駅東側の広い空き地には何羽か見かけるそうです。コゲラは、年に数回は自宅の植木にいるのを見かけます。最近、特に鳴き声で目立っているのが「ガビチョウ」で、自宅周辺の里山では、どこに行っても鳴いており数が増えているのがわかります。また、少し前になりますが、近くの公園（田通公園）へアオバズクが2羽飛来し、ホッホー、ホッホーと鳴いていました。懐かしさと同時にうれしく感じました。
		津久井町青野原では、今、ホトトギス、ツツドリ、コジュケイが鳴いています。2週間ほど前、旭小学校方面からアオバズクの鳴き声が聞こえました。何年か振りのことです。
		旧生協青葉店跡地の上空でヒバリが1羽さえずっているのを聞くことができました。周辺は住宅地です。エサはあるのかなー？とちょっと心配しながら、しばらくさえずりを聞きました。
		カワセミは、私のフィールドのひとつ道保川公園で見られます。また、私の調査エリアの沈殿池でも見られることがあります。鳥を見始めた18年前は出会うとうれしかったのですが、相模原に来てからは相模川、境川、道保川公園で見られる機会が多いので、身近な鳥の部類に感じています。家の近くの青葉生協跡地は空き地になり2年半。昨年からはヒバリを見聞きするようになりました。今朝も長々と4分くらいさえずっていました。住宅地の中でも条件が合えばヒバリも来るのだと感じています。並木3丁目、三和の隣地の市営住宅予定地も草地になっており、ここでもヒバリ（の声）を見聞きすることがあります。青葉と並木の個体が同じかは不明で、興味のあるところです。
	調査方法・調査区域について	調査日程が5月～6月18日頃となっており、5月初旬に2日程調査。早朝では鳥の鳴き声はたくさん聞けましたので、体調もあまりよくなかったので回復を待って6月に入り調査に行きましたところ鳥の鳴き声の少なさに少々びっくりしました。素人であり姿で判断するのは大変難しく声たよりであるので、5月に調査しておけばとの反省。そこで、提案ですが、調査時期を4月中旬～5月末ぐらいに設定すると比較的調査しやすいと感じました。
		担当メッシュ〔G15〕〔G16〕〔H15〕〔H16〕〔H17〕の付近では、日ごろより調査対象種が観察されますが、今回の調査時間ではコゲラがまったく観察されないなど、各種の活動時間帯が相違があることが予想されました。また、調査時間帯内では、大型のサギ（アオサギと推測されます）が、南西から東に向かって飛んでいる姿が4、5回確認されました。
		午前5時～8時に調査地全てを効率よく回れたのはよかった（自転車移動）。今までと同じ調査地に慣れたおかげだと思う。
	その他	今回の調査では、調査種類6種のうち、カワセミ、コゲラ、ヒバリの3種類を見ることができませんでした。
		担当メッシュ NO.をカードにくださったのは分かりやすくありがたいです。感謝。

ご意見・ご感想〈帰化植物の調査〉

分類	項目	内容
観察記録	メマツヨイグサ	前回に比べて花が咲いているものはあまりなく、種子になっているものやロゼットが多かった。
		まだ花が咲いているものもあったが、大半はすでに散っており、根元にはロゼット状の新しい葉が生育していたものもあった。親株は枯れていて、見つけるのに苦労しました。
	コマツヨイグサ	調査地では見つかりませんでしたが、エリア外の光が丘郵便局脇の舗装路で1株のみ見ました。
		メマツヨイグサの大株を1か所見ただけであとはコマツヨイグサがほとんど。メッシュ番号が違う田名の遊歩道沿いの畑だったところにコマツヨイグサ大群生があり、驚きました。あれは増えたものか、まさか植えたとは思えず、畑主に聞きたいほどでした。帰化植物と在来種の関係も考えねばいけないのでしょうか。
		花が咲いているものはなく、ロゼットのみで数もあまりなかった。地面を這うため見つけにくく、花も既に咲き終わったものや小さくて目立たないため発見するのに苦労しました。もう少し早い時期に調査をすべきであった。
	マツヨイグサ	森、線路際、緑道、水道みちなどを見てまわりましたがマツヨイグサ、アレチウリはありませんでした。
		あちこちにあると思っていたマツヨイグサが1株もありませんでした。
	アレチウリ	境川も今年は洪水が一度あり、流れた土の堆積したところにもう新しいアレチウリが伸びだして点々と連なっていました。
		森、線路際、緑道、水道みちなどを見てまわりましたがマツヨイグサ、アレチウリはありませんでした。
		町田市側の境川の所にアレチウリを1本見かけました。
		今回この調査で勉強しました。近くの河川フェンスに見事に絡まり、木にも絡まっていました。よく見ると、花もかわいいですし、その後、実がどうなっていくのか見てきたいと思います。
		生えている所には広い範囲で葉が広がっているので見つけやすい感じがしましたが、川の土手以外にはほとんどありませんでした。
		境川沿いに急速に増えています。クズが押され気味です。
		あると思ったが、まったくなく、クズが優先しているのは意外だった。これは喜ぶべきことか・・・
	川の近くではよく見かけるが、調査地点では畑の脇と以前植木畑だった所の2か所のみであった。	
	ヨウシュヤマゴボウ	ワルナスビとヨウシュヤマゴボウは1地区1～2か所のみ見られました。
今年度は荒れた畑等もなく、調査していく中で見つけたのはヨウシュヤマゴボウだけでした。		
意外に目立つ植物なので、見つけやすい感じがしました。		
まんべんなく生えていた。暗紫色の実を沢山つけたもの、まだ花が咲いているもの、10cmぐらいのものなど。		
考えていたよりも数多く生育しており、その繁殖力の旺盛さには驚いている。野鳥などにより種が運ばれてくるのであろうか。この種は、比較的に見つけやすかった。林縁や道路脇、耕作を放棄した荒れた畑などによく見られた。大きな株は赤い茎と黒い実がよく目立ち、草丈2mを超えるものもあった。		
ワルナスビ	三菱重工アパート周辺の道路側でワルナスビを発見することができた。	
	ワルナスビとヨウシュヤマゴボウは1地区1～2か所のみ見られました。	

分類	項目	内容
観察記録	ワルナスビ	ワルナスビは、本当にナスの花によく似ています。
		大きくなるまでおいていないで刈ってあったり、除草剤がまいてあったりして小さく生えていたので、とげが柔らかいものなどがあったりして見つけにくかった。
		注意して何とか見つけてみようと探して歩きましたが、1本も見つけることができませんでした。残念です。
		16号の植え込みや道路脇などでは沢山見かけるのに、調査地点は畑や住宅地が多いので前回ほど見かけなかった。
		群生して生育している場合が多かった。
	周囲の環境	国道16号と清新小学校の間にいっぱいワルナスビがあり、空気が良くないと思いました。子どもたちは大丈夫？
		10月3日・4日・10日の3回調査をしてみました。2回までは晴れでした。3回目にちょっと雨になりました。1日目、帰りにお友達に会いました。そのとき学校の脇に1本あった花をヤマゴボウですと教えたせいか、2日目にはなくなっていました。ワルナスビも気持ちが悪くなるくらい生えていましたが、ちょっと少なくなっていました。さて、これを取った人は誰でしょうか。お友達から聞いた人でしょうか。これがちょっと面白かった。
		公園や学校、保育園等は意外と整備が行き届いており、今回調査の帰化植物はその周辺では発見できなかった。民家は当然ほとんど雑草はないので発見できなかった。
		今年は大雨で境川も推移を増した様子がよく見ることができ、木や草等も流されたようでした。
		日ごろ、農作業をしているとき、畑にワルナスビ、空き地にヨウシュヤマゴボウが多いと感じていました。今回の調査でもその多さを実感しました。
	環境の変化	調査地全体に空き地がなくなり、家や周囲が舗装されることが多くなってきました。1年で様子が変わっていました。
		自然に生える植物が少なくなっているから今回の調査の植物も少ない。自然の緑が減ってきている。
		今回はマツヨイグサ、アレチウリはまったく発見できなかった。前回の調査と比較し年々手入れがされ、ヤマゴボウ、ワルナスビ等も減少している。住宅が増え、年々住宅地化しているのが原因か？通勤の行き帰り、スーパーへの買い物の途中、用事があるでかけたときの行き帰り等、気をつけて見ているつもりであるが、植物の生えている場所が年々減少している。また、人工的に作られた花壇や公園が増加し都市化しているように感じられる。
		今回で同じ調査が2回目となりましたが、私の調査メッシュで2メッシュが相模縦貫道と思われる道路工事であったこともあり、前回と比較しても調査対象の植物はほとんど発見するにいたらなかった。
	調査時期が遅かった	時期が遅かったためか、メマツヨイグサ、コマツヨイグサは見つからなかった。以前、空き地だったところが宅地になってしまった所がいくつもあり、道端や線路沿いは雑草が刈られていて、ワイルドな草花はあまり見られなかった。
		今回の帰化植物の調査は、5年前（平成15年）の調査経験を踏まえて実施した。仕事の都合で調査時期が少し遅れてしまい十分正確さを得ることができなかったと反省しています。
調査時期が遅かった （除草済み）	9月後半は雨になる日と観察日が重なって、結局10月に入って何回かに分けて繰り返し担当メッシュを歩きました。ちょうど刈り込みの時期で、こもればの森縁の巾3mは雑草が刈られて芝生状になっており、林内の帰化植物はよく目が届いているのか入り込んでないのかまったくありませんでした。	

分類	項目	内容
観察記録	調査時期が遅かった (除草済み)	(9月27日) 除草の後が多い。畑等、整備されている。セイタカアワダチソウが多い。ワルナスビは8月末頃のほうが咲いているのかも？全体としてワルナスビ以外は10月に入ってから再調査か？
		草刈りや除草剤がまかれた所も何か所もあり、生えていただろうと思われる場所もあった。
		この時期の植物の調査は大掛かりな草刈りをやるようで私の調査地2か所では既に刈られたあとでした。残念です。ワルナスビは日常的に空き地などで見ていましたが、探してみると意外と見つかりませんでした。
		ワルナスビは6~7月頃のほうが調査しやすい。今回は刈られたか立ち枯れたか私の担当メッシュでは少なかったです。グリーンハイツ近辺では5~6月頃には芝生地にも生えてたくさんありましたが芝刈りが1~2ヶ月に1回あり、形は残っていませんでしたのでなしにしました。
		相模原市の管轄下の林・森・公園等の雑草の刈り取り以前に調査すべきと思いました。今回の調査にて、林縁の雑草は3~4m幅できれいに刈り取りされていて調査に苦労しました。
		空き地、駐車場、公園、道路脇の雑草が刈り込まれ、整理されていた。その中で目についたものではオシロイバナ、ヘクソカズラがあった。調査の植物は1か月早く実行すれば探しやすかったようです。
		対象メッシュの特徴は、補給廠に近い線路沿いや国道16号かと思いますが、こちらも定期的に草刈りが実施されたり、自治会や周辺住民の方々で手入れされており、私が見回ったのは、草刈り後1週間ほどで、タイミングをはずしてしまいました。
		線路脇は刈り込みの後でした。
		前回の調査をもとに出向いたのですが、かなり減少していたことに驚きました。開発が進んでいたこと、草刈り後だったらしい等が考えられます。
		道路脇は草刈りの手入れが行き届き、草が生えていない所が多かった。
	担当メッシュ内に緑道やつるまの森などがあり、簡単に調査ができと思ったが、公園では下草刈りが、駐車場では除草剤散布が行われ、結果として調査には困難でありました。	
	調査時期が遅かった (花期)	時期内は暑くもなく調査しやすかった。メマツヨイグサ、コマツヨイグサは時期が少し遅かったように思えた。ほとんど咲き終わり、探しづらかった。
		どのメッシュにおいてもマツヨイグサの発見が少なかった。①時期が遅くなってしまって消えた状態になったこと②以前に見かけたところに舗装が進んでしまい消えたこと、などがその理由と思われる。
		時期的に、少し遅いかなという感じがします。花でいうとギリギリの時期にさしかかっているのではないのでしょうか。特に、花期でいうとワルナスビやマツヨイグサでは、ギリギリという感じがします。どうしても、人でも花で植物を探さず感じがします。
調査作業が10月半ばになったためメマツヨイグサとコマツヨイグサの開花を見ることができないのではないかと心配しました。上大島キャンプ場の川原で一株見つけたときはほっとしました。記憶では川原にメマツヨイグサが一面に咲いていたように思います。調査時期が9月下旬になって暑さが和らぎ調査者にはありがたいですが対象植物を観察するためにはもう少し早くしたほうがよいと思います。		

分類	項目	内容
観察記録	調査時期が遅かった (花期)	メマツヨイグサ、コマツヨイグサは見つけることができませんでした。夏の頃は道路脇で見たりしましたが、この季節だともう無理なのでしょうか？
		メマツヨイグサとコマツヨイグサは黄色い花を目印に見つけて歩きましたが、少し時期が遅かったのかあまり見つけることができませんでした。
		線路際で夏季によく観察されたメマツヨイグサは、草刈の影響と共に、季節的にすでに繁殖が収まったかのように思われます。ほとんど見られませんでした。
		今回10月下旬に調査したためか、ほとんどのものが終わりに近く、見つかって「本当にそうなのかな？」と思うような状態でした。特に花をつけるものは、花が散ってしまうと遠めにはわからず、葉の様子も変わるので、あまり自信がありません。時期が遅かったようです。自分の勉強不足もあり、花が咲き終わった後どうなるのか、実はどういう形状なのかなど調べよう調べようと思っている間に締め切りがきてしまいました。花の咲くものは花のない時期にはどういう形になるのか案外普通の図鑑ではわからず、それ以上調べるところまでなかなかできないままです。
	目立ったもの	全体的にはクズ、スイカズラ、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサ、イノコヅチ等々に圧倒されていたり、住宅地では草取り等の手入れがよい等が印象的でした。
		(10月18日) たくさんあるだろうと想定していたメマツヨイグサ、コマツヨイグサを探しに3度目の調査。黄色はセイタカアワダチソウだらけで生育確認できず。除草がされていない土地はセイタカアワダチソウが目立つ。その中にはススキがポツリと背を伸ばしている。
		目立ったのは、セイタカアワダチソウの黄色い花とキバナコスモスのオレンジ色でした。アレチウリ、メマツヨイグサは各1地点のみで観察しました。
		空き地や道路脇によく見られたのは、エノコログサ類、メヒシバ類、多かったのはセイタカアワダチソウとススキの混じりだった。また、アメリカセンダングサもよく見られた。
		帰化植物を調査していて特に気がついたことは、相模原市内に生育している植物が今回の帰化植物5種以外にも、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、オオブタクサ、セイヨウタンポポなどが目に付き、在来種が益々占領されていくのではないかと危惧しています。このまま放置して良いのか心配であると思われた。
		自分がふだん働きに出ていて庭の様子や近所の様子など気にかけていないためなのか、民家の庭などよく草取りがされていて、雑草が結構少ないことに驚かされます。10月下旬に見られるのは、セイタカアワダチソウやススキがよく目立ち、ツル植物もクズやツタがわりと多かったです。
その他	地区全体を見ることはできませんので1地区往復2ラインを観察しました。	
感想	環境の変化	今回の5種の帰化植物調査において調査区域内及び周辺ではほとんど確認することができませんでした。公園内も除草されており、又、街路樹下の植え込みも手入れされ、園芸種の花が植えられていました。各住宅地内の庭も手入れが行き届き又学校内でも定期的に刈り取っているとのこと校内では見かけないとのことでした。駐車場も除草剤がまかれ、小型の植物群及びイネ科、エノコログサ、イヌホオズキ等、他の植物は生えていたが調査種は見られず環境の変化により自然が少なくなってきたのを感じました。

分類	項目	内容
感想	環境の変化	毎回、何年前は空き地だった所が家が建っていたりしています。観察する所が少なくなる一方です。日本タンポポが沢山生えていた所がアスファルトでかためてあったりするとがっかりしてため息が出ます。
		いつも回るたびに感じますが、緑や空き地が少なくなっています。いつの日か、このような植物も消えてしまうのでしょうか～！さびしいですね。
		なるべく調査区域全体を調べようと思ったが、道が行き止まりだったり、畑や空き地に近づくのが意外と難しかった。区域のほとんどが住宅地で、昨年春の七草を調べたときより空き地や畑が減り、緑が少なくなっている印象を受けた。
		今回の調査で感じたことはやはり空き地や草地が少なくなっており、群生（群落）などがほとんど見られなく、自然環境も厳しいと特に感じました。
	意識の変化	図鑑によればヨウシュヤマゴボウは明治の初めに渡来し栽培されたとありますが、何の目的で栽培されたのか興味がわきましたので調べてみようと思います。
		調査を重ねるにつれて地元の自然環境を見る視野が少し広がってきたように思います。更に調査を続けたいと思っています。
		今まで花や植物には興味がなかったのでよくわかりません。しかしいろいろな植物があることがわかりました。今後は注意して観察するようにしたいと思います。
	新たな発見	気づいた点として①カラスウリを最近見かけなくなった（自然の変化が早いようです）②帰化植物も割り合い少なくなった（10年前にはあんなにあったのに）③帰化植物もよく見るとかわいいものですね。今回の調査で生きることの大切さがわかりました。
		民家で鉢に植えられていたヨウシュヤマゴボウが大変立派に育てられ黒紫色に熟している実が心に残る。いつも見ている植物でも手を加えることに改めてなんだろうかと考えさせられてしまうのが不思議でした。
		今回の調査を通して感じたことは、人手が入っている（人の管理が行き届いている）ところにはないということです。
	驚きました	普段よく目にしていつもの植物でも探すと意外にみつからないので驚きました。生えている場所の偏りなど、細かく調べると面白そうだと思いました。
		どのメッシュにおいても、クズはあったもののアレチウリは発見できなかった。意外だった。
		アレチウリはもっと繁茂していると思っていましたがカラスウリやクズの繁茂に驚きました。畑や林縁のほとんどの灌木に絡み付いています。
		記録しきれないほど多種多様の発見を予想していましたが、意外と少ないのに驚きました。ちょうど畑周辺の雑草の刈り取りの時期と重なっていたかもしれません。草むらにかれんなコマツヨイグサを見つけたときは感動しました。
	こんなことがありました	セイタカアワダチソウやススキ（ヨシ？）は勢い衰えず伸びていました。繁殖力だけでなく、明らかに人の手に入った場所でもかなりの高さで生長しているところを見ると、人為的に『刈り取られていない（保存されている）』のではないかと思われました。群生するアワダチソウの美観や、ススキの風情が要因ではないでしょうか……。
民家の庭先（道路沿い）にあるヤマゴボウもその生育度からして意図的に残されたものと思われま。		
よかった	植物は飛んだりしないので調査が楽でした。	

分類	項目	内容
感想	よかった	この調査を通して地域の様子も把握でき一石二鳥でした。
		今回の調査で地元の現状を生で見ることができてよかった。また、地域の人々と話す機会もあり、楽しく調査することができました。しかし、住宅が多くなりましたね。
		植物の調査は対象物が動かないため種の同定がしやすいと思います。
		久しぶりに道保川公園も見て歩き、木々の実や紅葉など観察できたのはよかった。
	うれしかった	「河川敷でのカワラノギク（絶滅危惧種）の実験」として新聞を読んでいたので、その場のひとつに当たったときは本当にうれしかったです。
	苦勞しました	「常日頃こんな植物はいっぱい生息している」そんな気持ちで調査に行ったが意外と見つけることがたいへんで簡単には見つけることができず苦勞しました。「あった」と見つけたと思ったら違うものだったり、別の地域を見る以前はあったはずなのになかったり。
		自然は好きでよく散歩し見て歩いていましたが、どうもまだ帰化植物についての図鑑の見方や調べ方の勉強が足りません。都合で説明会にも出席できず、図書館などで見てもどうも十分でない状態で申し訳ありません。特にメマツヨイグサ、コマツヨイグサは外観を15年度のを違えて覚えてしまったりしてとまどった。
		今回、見落としというか、自分でわかっていないだけでもっと本当は対象の植物があったのかもしれませんが、わかりませんでした。すみません。
	残念でした	担当地区が市街地のため多くの帰化植物には出会えませんでした。
		ワルナスビを発見できなくて残念(?)でした。本当は帰化植物が生えていないほうがよいのだと思うのですが、調査をやってみつかないと残念に思ってしまうのは人情ですかね。
[G15]～[H17]を調査しました。各メッシュとも比較的人の手の入った管理された環境にありました。そのため、できるだけ荒れ地を探るように(?)回ってみましたが目的の種はあまり見つかりませんでした。		
30～40年前は造成地や川原にはアカザやマツヨイグサ類が多かった記憶があり、マツヨイグサ類はたやすく見つかると思っていたが、今回は1本しか見られなかった。		
その他	対象植物がほとんど何も発見できず残念だった。	
	(10月5日)[P15]の半分は調整地で畑等のため人家がない。このところ小分けにした不法投棄のゴミが目立つ。山や大きな河川でまとめて投棄する方へ監視の目が向けられれば、市街地の死角(地域)でも小細工してでもゴミを投棄する。ゴミ捨て場にもイスやチャイルドシートなど定期的に1つずつ捨てている人間がおり、ますます悪化しているように思える。	
	7丁目のOZK商店駐車場のまわりの草の上には、空き缶やゴミが投げ込まれてありちょっと汚い。人通りが少ないところです。	
	花屋で売っている園芸植物が犬走りなどに植えられていて、こういうものが雑草になっていくのかなと思った。	
その他	情報	受け持ちの調査区ではないのですが、私的に借りている駐車場内にワルナスビが生えています。場所は上鶴間2丁目です。
		昨年10月19日に千葉県の北総線の終点にお見舞いに行ってきたのですが、広い土地(空き地)がたくさんあるのに驚きました。セイタカアワダチソウが真黄色に今が盛りとばかりに群生して咲きほこっていました。

分類	項目	内容
	情報	<p>地域の方々の共通意見は最近カラスウリを見かけないということでした。確かに何年前には秋の風物としてあの赤い実をよく見ました。今回6地域のうち、[N06] 蛭沢地区の1か所で発見しました。本当にうれしかった。</p>
		<p>調査地域外で東林小学校付近でワルナスビを、雑草が茂った我が家の菜園でアレチウリを見つけました。きっと小鳥が運んだ種と思います。</p>
		<p>ワルナスビ…家の近く、メッシュでいうとたぶん [J16] の左上の隅 ([I15] [I16] [J15] [J16] の境目) 当たり、富士見4丁目の交差点の高齢者能力活用施設の公園側の交差点の歩道の植え込みや、マインマートの前の歩道の植え込みに群生しています。他に、家の近くのメッシュでいうとたぶん [J16] の右上の隅 ([J16] [J17] の境目) 焼き肉大門の裏(南側)の駐車場の空き地にもポツポツ生えています。</p>
		<p>ヨウシュヤマゴボウは実が濃い紫で、この実でかみに色を染めたりした思い出があります。</p>
その他	間違えそうな植物	<p>アレチウリは遠くから見ると、クズ、カラスウリ、ハヤトウリによく似ていた。特にハヤトウリとの区別は近くに行っても詳細に観察しないと判別がつかなかった。十分注意が必要と思われた。</p>
		<p>第2回のかんきょう学習セミナーに出席できずに残念でした。当日の追加説明であったかもしれませんが、今回の調査で感じた「似た植物」について報告します。ただし、人によって、見方や感じ方が違うので一応の参考としてください。これがないかと探している間に、イメージにより、きっとこれだと思い込んでしまう場合もあると思います。</p> <p>①アレチウリについて…一面を覆っているとイメージから、ちょっと立ち入るには遠い所で遠目で見るとカナムグラに覆われている所を、間違えそうになりました。棒で引っかけてみると「肌がこすれると血を見る”例のガラス質の硬い茎で違いがわかりました。葉の切れ込みもずいぶん違うのですが、遠めでしか見られない所では間違えそうです。実際に両者が混在している所がありました。②ワルナスビ…花の形からイヌホオズキを間違えるところでした。必死に探していて、花を見て一瞬「アッタ」と思ってしまいました。青い球形の果実もついていました。葉にトゲがなく鋸歯も粗くないので調べてみるとイヌホオズキでした。</p>
	調査方法について	<p>調査資料に添付されている地図をA4用紙1枚にまとめたのがありますと調査が容易のようです。私は自転車ぐるぐる回るので1枚ずつ分けしているより大きく回って目的とする帰化植物を見つけたら資料に添付するほうが調査が容易のように思いました。</p>
		<p>道路脇の『舗装』『未舗装』の区別がわかりづらい。どの植物も舗装の隙間から出るはずはないのが普通なので、生えている地面のそばの道が『舗装』か『未舗装』の違いと考えるしかなさそう。この辺の聞き方(記述のしかた)を具体的に表現するべきだろう。</p>
		<p>地図に○のしるしがついているところの番地が書いてあったら大変たすかるんですが……。○のついている所、だいたいの見当でしか見ることができません。</p>
		<p>以前、全メッシュ1枚ではなく、もう少し何地区かが数枚となった地図をいただいた年がありました。探し出せば、上の情報など確実な地図がわかるのですが。それらがあると、目撃情報ということで、追加の正確な情報が集まるのではと感じました。</p>

任期終了まで調査にご協力いただいた皆さん（平成20年度）

※ 敬 称 略

青木 喬	河岸 花織	島田 奈々	新倉 和宏
青野 久子	河岸 仁美	清水 輝男	西田 和子
浅木 つる江	川崎 香代	首藤 栄治	野口 信
浅野 外喜博	川村 悦子	菅原 誠	野口 靖夫
浅原 靖弘	川原田 稔	杉原 武男	野口 幸夫
浅原 米子	木村 知之	杉山 正明	早戸 正広
安達 桂	木村 光治	鈴木 孝雄	原田 勇
荒谷 輝正	小泉 綾子	瀬川 公男	肥田 優子
池川 源基	小泉 邦正	仙田 肇	日吉 由美子
市川 ケサノ	後藤 裕子	高木 裕太	福田 昭三
今井 多美子	小林 千代	高崎 洋一	藤井 孝之
岩田 正利	小林 通伸	高橋 孝子	前川 義昭
内田 英樹	小林 義博	高橋 柳子	益子 弘
岡野 博	小林 喜弘	田口 常利	村山 史世
小川 路人	金銅 幸俊	武田 弘毅	柳下 信男
荻原 信行	斉藤 敬三	田畑 房枝	山尾 晃雄
奥井 宏	齋藤 健夫	辻野 泰子	山口 富子
小田 勇	佐藤 金三	富岡 英明	山田 征四郎
小原 敬子	佐藤 昭治	長岡 弘治	横木 初美
折笠 良子	澤口 範子	中川 博	吉岡 歌子
貝瀬 信	澤登 久子	中島 朋来	吉岡 孝夫
鹿島 敏夫	塩沢 徳夫	中村 有理子	若林 和彦

平成22年2月発行

平成20年度 相模原市自然環境観察員制度 年次報告書

(発行) 相模原市 環境保全部環境対策課
〒229-8611
相模原市中央2丁目11番15号
TEL 042(769)8240(直通)
FAX 042(754)1064(直通)
電子メールアドレス: kankyoutaisaku@city.sagamihara.kanagawa.jp